

平成25年度 学位論文

**複数の象徴事例が歴史的事象の
構造的理解に及ぼす効果**

兵 庫 教 育 大 学 大 学 院
学校教育研究科 人間発達教育専攻
教 育 コミュニケーションコース

M12010F

前 田 浩 伸

目 次

I. 問題と目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(1) 問題意識	
(2) 研究の目的	
II. 予備調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(1) ねらい	
(2) 方法	
① 学習者	
② 期日	
③ 手続き	
(3) 結果と考察	
III. 本実験・・・・・・・・・・・・・・・・・・	8
(1) ねらい	
(2) 方法	
[1] 事前調査の概要	
[2] 教授活動	
1. 指導案と全体の流れ (前半)	
2. 指導案の全体の流れ (後半)	
[3] 事後調査の概要	
(3) 結果と考察	
[1] 研究授業前の児童の認識	
1. 参観授業の様子	
2. 「不十分な認識」についての事前調査課題について	
3. 「構造化」についての事前調査課題について	
4. 「意欲」についての事前調査課題について	
[2] 研究授業の様子	
[3] 研究授業による児童の認識の変化	
1. 「不十分な認識」についての事後調査課題について	
2. 「構造化」についての事後調査課題	
3. 「意欲」についての事後調査課題	

IV. 遅延調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 2

(1) ねらい

(2) 方法

①学習者

②期日

③手続き

(3) 結果と考察

V. 全体のまとめと今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 8

VI. 資料

VII. 参考文献

謝辞

I. 問題と目的

(1) 問題意識

「歴史学習は、暗記しなければいけないから好きじゃない。」という児童が多い。確かに歴史学習は年号や事柄を暗記しなければならない。単元テストや、入学試験などでは、年号（年代）や人名などといった記入問題が出題される。そのため構造化された知識が形成されていなくても対処可能である場合もある。例えば一夜づけの機械的学習¹である。1つの歴史的事象は1つの点でしかない。しかし歴史学習は歴史の流れや事象のつながりを理解して初めて歴史学習の意味を成す。機械的学習では歴史的事象の本質的な内容や流れの把握がおろそかになってしまっている。また、機械的学習は、学習者の「不十分な認識」や「誤った認識」²を生みやすいと考える。教授学習において、ルール教示の効果などについての研究を行っている工藤(2001)は、そのひとつに、ラベリング効果によって歴史的事実をラベルの意味する方向へ歪曲して捉える傾向が学習者に生じ誤った認識が形成されることを示している。「ラベリング効果」とは、ある一定の事物や状況に対する命名（labeling）がその事物・状況の認知や記憶過程に影響することを指している。例えば「鎖国」という文字のイメージから「江戸幕府は外国との交流を一切禁止していた」という「誤った認識」が生じることである。これは、歴史的事象を機械的に学習することで、1つの点としてしか捉えられず歴史の流れや内容を把握できていないからである。

小学校社会科歴史学習は、現在、「調べ学習」が中心の授業となっている。また、それを「歴史新聞」として作らせ発表させたりもする。パソコンを使ったり、小学校の図書室で調べたことを記事にするのである。しかし、パソコンは、調べたい人物や出来事を入力するだけで、調べる人物や出来事が検索できる。子供たちは、それを印刷し、切り貼りして記事にするだけの作業である。子供たちの検索する技術は向上しても、調べた事に対しての本質的な内容や歴史的事象の流れを理解できていないことが多い。例えば、「参勤交代」について調べるとしよう。パソコンに「参勤交代」と入力すると参勤交代は何年に誰が施行したかなどが表示される。そのため、なぜ、その歴史的事象が起こったのか、その背景には何があったのか、その歴史的事象への繋がりや流れを理解できていないまま、調べる活動が終わってしまうことがある。

また、現在使用されている小学校6年生の社会科の教科書においても、時代から時代への、歴史的事象から事象への移り変わりを説明してはいないし、またその歴史的事象の背景や当時の社会構造が記述されていない。例えば本研究で扱う「江戸時代を生きた人々」の単元は、7つの小単元からなり「単元の導入」「それぞれの身分と暮らし」「江戸時代を生きた人々のくふうや努力」「力をつける町人」「近松門左衛門のはたらきを調べる」「国学の

¹ 機械的学習過程は、材料が学習者の認知構造へ、その内容的意味の理解を伴わず、恣意的な、逐語的な連合の形で関係づけられるもの。

² 「誤った認識」「不十分な認識」 学習者は学校の授業で学ぶ内容とは別に、学習者が自然に現象や社会現象について自分なりの知識や認識を持ちがちであることは教育心理学においては共通の理解となっている。そうした認識の中に明らかに誤っているものもあるし、誤りとまでは言えなくても不十分なものもたくさんある。

広がり子どもの教育」となっている。一つひとつの単元は、わかりやすく記述されているが、単元間の説明が記述されていないのが現状である。そのため、子供たちは時代の単元ごとに区切られた知識しか教授されないで、その単元だけの年号と歴史的事象の暗記にとどまる。そのため、歴史学習は暗記科目と言われ、機械的学習となり、ラベリング効果を生んだり、「不十分な認識」や「誤った認識」が生まれやすいと考えられる。

「誤った認識」や「不十分な認識」の研究は、自然科学領域の内容を対象としたものが圧倒的に多い。自然科学領域においては、ある一定の法則や原理がはっきりと決まっていることと、法則や原理が決まっているので、学習者が持ちやすい「誤った認識」や「不十分な認識」を探し出すことは、比較的容易だったことが理由としてあげられる。しかし社会科領域における誤った認識における研究は少ない。これは、社会科領域では、条件が複雑に絡み合う社会現象に即しては、単純な法則や原理を取り出すことが難しいこと、歴史に関しては、歴史的事象は一回の固有な出来事の集まりであり、自然科学のような法則をとりだすことは無理であること。また近年、歴史研究が進むにつれ歴史事象の認識が少しずつ変わってきていること。社会科歴史学習では、新しい文献の発見や発掘により、はっきり間違いであったという場合もあれば、何が正しくて何が間違いであると捉えるかが立場によって異なる場合がある。そういう場合、その歴史的事象の認識が間違っているとは言えない。また、正しい認識を持ち合わせているのにその認識を正しく理解していない場合もある。その認識に対して本研究では「不十分な認識」として記述する。明らかに間違っている認識は「誤った認識」として記述する。

社会科領域において学習者の「誤った認識」や「不十分な認識」に着目することは、有意義学習の起点とはならないだろうか。田丸(1988)は、値段の根拠に関する認識を調べ、小学生、特に低学年において「商品の値段」に対して誤った認識を持っていること示している。例えば「商品が大きい物のほうが高い」「おいしいから高い」などである。また、進藤(1997)は「北海道はどこでも夏より冬の降水量が多い」とする誤った認識の存在を指摘した。学習者がある社会現象（歴史的事象）に対して「誤った認識」や「不十分な認識」を持っていると、授業で「正しい認識」を取り上げることにより、その「正しい認識」を学習者自身が持っている「誤った認識」「不十分な認識」と比較し、どちらが正しいかどうかを吟味する作業になる。これは「考える」ということに他ならない。不十分なものにあるにせよ、ある社会現象や歴史的事象に対して自分なりの考えで説明してみ、さらにそれが正しいかどうか検討してみるのである。この活動は、「暗記」とは対照的な活動である。

教育心理学における教授学習過程の研究においては、どのような具体例を用いるかが学習を規定する重要な要因となる。細谷(1970)はルール（原理、法則、公式、一般性を持った命題）は一般的に「 p ならば q だ」あるいは「 p は q だ」という形で書き表すことができ、「 p 」の部分に具体的な事実や数字を当てはめる（代入する）ことを「ルールとその事例」としている。例えば「金属ならば電気を通す」というルール（ ru ）に対して「鉄は、電気を通す」「銅は電気を通す」(eg)などは、その事例とし「 p 」に「鉄」や「銅」を代入して代入例を作る事ができ

る。それとは対照的に麻柄・進藤（2004）は、「q」を具体化した例を「象徴事例」として位置づけた。例えば「江戸時代に大名は、参勤交代の際の大名行列にかかる費用を減らそうとした」という歴史命題に対して「大名」を具体化して、「紀州藩の大名」や「加賀藩の大名」というように p を具体化する代入例である。これに対して、「費用を減らそうとした」という q を具体化することで「大名はお金を少しでも節約するためにトイレかごを利用したりアルバイトのお供を雇ったりした」という象徴事例を提示した。そして、麻柄・進藤（2004）は、社会科歴史学習において象徴事例を用いることの有効性を示した。その研究では、①象徴事例は、学習内容に対するおもしろさや意外感を引き起こす。②象徴事例はそれと意味的に類似した他の象徴事例に対して「ありうることだ」という判断を促進する。③誤った認識の修正に効果的である。④意見命題の受け入れを促進する点。という効果を明らかにしている。しかし、象徴事例を用いた研究は、1つの歴史的事象の「誤った認識」や「不十分な認識」の修正に限られている。また、ほとんどの研究が大学生を対象にしていること。また、実験は読み物教材のみであり授業を実践していない。

そこで、小学生を対象に象徴事例を用いた研究授業を実践することで、歴史的事象の「誤った認識」「不十分な認識」を修正（③の効果）すると共に、歴史的事象を本質的に理解させ、歴史的事象間の理解の促進（②の効果）がなされるか検証する。

また、象徴事例を用い、事象間の理解が及んだ場合（①の効果）、学習意欲にどう影響を与えるか検証する。

（2）研究の目的

本研究の目的は以下のとおりである。

1. 社会科歴史学習に関する「不十分な認識」の実態を明らかにする。
2. 2つの歴史的事象（命題）に対して複数の象徴事例を用いることにより、
 - a. 「不十分な認識」の修正に効果が見られるか
 - b. 2つの歴史的事象（命題）間の構造的理解が促進されるか
 - c. 学習内容に関する面白さが引き起こされるかを検証する。

本研究では、江戸時代の「武士・町人・農民」に対する「不十分な認識」を修正すること。複数の象徴事例を用いることにより、命題1「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた」、命題2「徳川家光が制定した参勤交代制度により、大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた」という2つの歴史的事象の命題を理解させることにより、2つの命題の構造的理解が促進されるのではないかと考える。また、命題間の繋がりを促進させることにより、その歴史的事象の時代背景や社会の仕組みを理解させることが目的である。

江戸時代は、鎖国政策をとっていたにもかかわらず、明治維新以降、現代の日本が急激

に発展した基盤ができた時代である。Hanley Susan B(1990)は、著書の中で日本の江戸時代について、平均寿命、食生活、住居、公衆衛生、教育といった生活文化の視点から江戸を同時期の西欧と比較し、日本が急速な近代化に成功した原点は江戸時代にあると述べ、当時の日本は世界的にも秀でた生活水準にあったと述べている。しかし、歴史を学習した小学校6年生であっても、教師用指導書に基づいた授業を受けた小学校6年生であっても、「農民は貧しくて苦しい生活をしていた。」という認識を持っていることが予想される。例えば「慶安の御触書」は、農民の生活に対しての指南書であるのに、武士が農民を支配するために出した法令のような捉え方をしたり、「支配」「身分」「年貢米」という言葉から「農民は貧しい生活をしていた」と誤った捉え方や理解をしているのではないだろうか。江戸時代は80%以上が農民であるのにその農民のすべてが貧しい生活をしているはずはないのである。また、小学校社会科指導要領の目標に「我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。」とある。しかし、その「我が国の歴史」に対して初学の小学生がすでに「誤った認識」を持っていることは問題である。

そこで、象徴事例を用いて「誤った認識」や「不十分な認識」を修正するとともに、江戸時代の社会の構図を理解させること目指した。

Ⅱ. 予備調査

1. **ねらい**：歴史学習を終えた小学校6年生が「誤った認識」「不十分な認識」を持っているのかを調査する。
2. **方法** ①調査対象 平成24年度卒W県公立小学校6年生59名
②期日 2013年3月
③調査方法：歴史学習を終えた、小学校6年生に、歴史学習における「誤った認識」「不十分な認識」について調査した。そこで先行研究での明らかにされている「誤った認識」「不十分な認識」、著者が考える「誤った認識」を○×形式の10題の問題に答えてもらった。

予備調査課題は、先行研究により明らかにされている歴史学習における「誤った認識」「不十分な認識」1～5と研究者が想定した6～10の問題で構成した。課題は以下のとおりである。

1. 平安時代は貴族の時代であり武士は存在していない。 (工藤 2001)
2. 江戸幕府は、外国との交渉を一切禁止していた。 (工藤 2001)
3. 徳川幕府は、全国の大名から年貢を取り立てた。 (麻柄 1993)
4. 平安時代と江戸時代とでは、江戸時代の方が長い。 (伏見 1986)
5. 明治時代になるとそれまで途絶えていた天皇家が復活した。 (工藤 2001)
6. 江戸時代の農民は厳しい年貢のとりたてにより貧しい生活をしていた。
7. 鎖国により日本の近代化が遅れた。
8. 秀吉の「刀狩り」により民衆は、一切の刀や鉄砲などの武器を取り上げられた。
9. 秀吉は、北海道から沖縄まで全国統一を果たした。
10. 秀吉は、征夷大將軍になった。

3. 結果と考察

(1) 結果

前年度歴史学習を終えた小学校6年生59名に以下の10題の問いに○×形式で回答をしてもらった。

調査の結果を以下に示す。

○先行研究で明らかにされている「誤った認識」「不十分な認識」

- | | |
|----------------------------|----------------|
| 1. 平安時代は貴族の時代であり武士は存在していない | 41人[正答率 69.4%] |
| 2. 江戸幕府は、外国との交渉を一切禁止していた | 19人[正答率 32.2%] |
| 3. 徳川幕府は、全国の大名から年貢を取り立てた | 23人[正答率 40.6%] |

4. 平安時代と江戸時代とでは、江戸時代の方が長い 10人[正答率 16.9%]
 5. 明治時代になるとそれまで途絶えていた天皇家が復活した 34人[正答率 50.8%]

○本研究で新たに想定した「誤った認識」「不十分な認識」

6. 江戸時代の農民は厳しい年貢のとりたてにより貧しい生活をしていた 10人[正答率 16.9%]
 7. 鎖国により日本の近代化が遅れた 20人[正答率 33.8%]
 8. 秀吉の「刀狩り」により民衆は、一切の刀や鉄砲などの武器を取り上げられた 7人[正答率 11.8%]
 9. 秀吉は、北海道から沖縄まで全国統一を果たした 24人[正答率 40.6%]
 10. 秀吉は、征夷大將軍になった 27人[正答率 45.7%]

※なお児童に配布した問題用紙は、VI. 資料に記載されている。

(2) 考察

1) 先行研究で明らかになっている「誤った認識」「不十分な認識」について

先行研究で明らかになっている「誤った認識」「不十分な認識」は、歴史を学んだ小学校6年生調査においても明らかとなった。

「1」の正答率は69.4%であった。「2」の正答率は、32.2%であった。「4」の正答率は16.9%であった。「1、2、4」は、工藤(2001)にも書かれているように、ラベリング効果の影響を受けているものと考えられる。「1」は、「平安」という漢字のイメージで平和な世の中をイメージするのか「武士は存在しない」と誤った認識が生まれたものと考えられる。「2」においては、「鎖国」という漢字とそのイメージが、「外国との交渉を一切禁止していた」と理解しているものと考えられる。「4」においては、教科書の単元や、年表の書き方で、江戸時代の方がより詳しく、授業時間も長くとられているので、「江戸時代の方が長い」という誤った認識を持つ子どもが多かったと考える。「3」の正答率は40.6%であった。これは、教科書に、江戸幕府の支配や幕府の強大な力を示す記述が多く、大名は、幕府に従っていたという理解から、年貢は、すべて江戸幕府に徴収されていると考えたからだと思われる。「5」の正答率は、50.8%であった。これは、教授内容が不十分であると共に、幕府と天皇との関係が理解できていないことから「誤った認識」が生まれたものだと考えられる。

2) 本研究で想定される「誤った認識」「不十分な認識」

「6」の正答率は16.9%であった。教科書の記述で、「身分」「年貢や重い税負担」「慶安のお触れ書き」など、農民は、幕府から押さえつけられて生活をしていたというイメージがあるためだと考えられる。しかし、教科書には、農具の開発や新田の開拓、米以外の

農産物を作ったりして、工夫して生活をしていたという内容の記述があるにもかかわらず、農民のイメージのほとんどが「苦しい」「貧しい」であった。「7」「8」の正答率はそれぞれ33.8%、11.8%であった。これは、教科書に詳しい記述がないためだと考えられる。「9」「10」のそれぞれの正答率は40.6%、45.7%であった。これは、児童の理解力不足であるものと考えられる。

このように、「7、8」を除いては、教師の説明不足の可能性もあるが、授業で教授されているにもかかわらず、「誤った認識」「不十分な認識」が生まれている。もちろん教科書の記述や、教師の発言により補えば、学習者の「誤った認識や」「不十分な認識」は減少するであろう。しかし、教師は、児童がどこで「誤った認識や」「不十分な認識」が生まれるか予想はできない。それが、中学校や高校になり、日本史を学ぶことにより修正されることもあるが、先行研究のほとんどは、大学生を対象にした調査である。このように、子どもの頃に獲得した誤った知識や不十分な知識は年齢を重ねれば、あるいは社会に出て経験を積みれば自然に修正されるわけでもない。また、「3」、「6」の「不十分な認識」は、江戸時代の社会の構図を理解できていないばかりでなく、なぜ幕末に明治維新が起こったのかも理解できていないことになる。そこで、本研究では、問「6」を中心に、江戸時代の社会の構図を理解させるとともに、象徴事例を用いることにより、歴史的な事象間の知識の構造化を目指す。

Ⅲ. 本実験

1. **ねらい**：歴史学習を終えた小学校6年生が「誤った認識」「不十分な認識」を持っているか調査し、その修正を目指すとともに、江戸時代の社会の構造を理解させる。
2. **方法**
 - ①調査対象 平成25年度卒 W 県公立小学校6年生29名
 - ②期日 2013年10月10日～11日
 - ③調査方法：歴史学習を終えた、小学校6年生に、歴史学習における「誤った認識」「不十分な認識」について事前調査し、「不十分な認識」「誤った認識」の修正及び歴史的事象の構造化を試みるため、事前調査（15分）および授業と教材を用いた教授活動（2時間）、事後調査（15分）の研究授業を行った。

[1] 事前調査の概要

- (1) 事前調査課題：平成25年度卒業予定の歴史学習を終えた小学校6年生に江戸時代についてどのような「不十分な認識」が存在するかどうか授業前に調査を行った。
※なお児童に配布した調査用紙はVI. 資料に記載されている。

問1. 江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」の調査

- ・自分が思うところに○を付ける問題（複数回答可）

問2. 参勤交代に対する「不十分な認識」の調査

- ・自分が思うところに○を付ける問題（複数回答可）

問3. 江戸時代の武士、町人、農民の生活や暮らしについて、どれぐらい理解しているかの調査課題である。

- ・問題は、5段階で（そうである 多分そうだ ～ そうではない）の当てはまる自分の考えに○を付ける問題である。

1 〈武士の生活についての理解の調査課題〉

この課題は、江戸時代の武士がどのように生活をしてきたかの調査である。児童が持っている武士のイメージは、贅沢、裕福と考えている児童が多い。しかし、現実にはどのようにお金を稼いでいるのか理解しているかの調査である。

2 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉

この課題は、武士と農民の関係性についての調査である。支配、身分という言葉から、農民は武士に毎日苦しめられて生活をしてきたと捉える子どもが多いことが調査で判明している。

3～6 〈農民の日常生活についての理解度課題〉

農民が日々、武士の支配の中でどのような生活をしていたのか理解しているかの課題である。

3 (農民の休日課題)

農民に休日や休暇があったのかを問う課題である。

4 (農民の娯楽課題)

農民は、慶安の御触書により、タバコや酒を禁止されていた。農民は、たばこや酒を買い、娯楽を楽しみ、本業の米作りが疎かになってこないように出された手引書のようなものであってもかかわらず、児童は、最初から禁止されていたと考えるものが多い。そして、その決まりを守り酒やたばこを飲んだりしていないと考える児童が多いことからこの課題を設定した。

5 (農民の現金収入課題)

農民に現金収入があったのかを問う課題

6 (農民の暮らし課題)

農民の暮らしは、どのようなものだったのかを問う課題

7 〈町人の生活についての理解度調査課題〉

町人と農民の関係についての理解度調査課題である。江戸時代の学習で、取り分け子どもたちが印象に残るのは、「武士の支配」「農民の苦しみ」などが多い。「江戸時代の人々の暮らし」の単元で町人の暮らしについても述べられているが、町人の暮らしについてどれぐらい理解しているか確かめておくものである。

8 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉

武士と町人の関係についての理解度課題である。武士と農民の関係は、教科書でも取り上げるページ数も多いが、武士と町人の関係について書かれている記述はない。

9 〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉

参勤交代制度は、江戸幕府が諸大名を支配するため、「参勤交代制度の大名行列を行う際の莫大な費用を使わせることにより諸大名の力を削ぐためのものである」という理解しかない子どもが多い。参勤交代による江戸社会への影響を理解しているか問う課題である。

10 〈江戸時代の身分制についての理解度調査課題〉

教科書の記述では、「江戸時代に身分を変えることは許されなかった」という記述がある。しかし、長子相続についても述べられている。次男以下や女性はどうのよう

に生活をしているのかは述べられていない。その中には、町人の元に奉公に出されたり、また養子縁組をして、そのまま町人として暮らしていく者も少なくなかったが、その事実は書かれていない。また農村で生まれた女性が町人と結婚する者もいた。この課題は、「身分制度を作った武士の権力」について児童がどれほど強大であったかと理解をしているか確かめる課題である。

問4 歴史学習についてのアンケート

歴史学習についての興味や意欲に関するアンケート課題を10題用意した。

「思う～思わない」の五段階評価で該当する回答に○を付ける課題である。

〔2〕教授活動

教授活動は、2時間で計画されていた。

前半は、命題1「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。(1時間)」を教授するための研究授業、後半は、命題2「徳川家光が制定した参勤交代制度により、大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。(1時間)」を教授するための研究授業の内容であった。

なお、社会科教育を専門とする研究者にチェックをお願いしコメントいただいた。

1. 指導案と全体の流れ(前半)

前半の指導案についてFIGURE 1に示す。

※なお児童に配布した調査用紙はVI.資料に記載されている。

指導案前半

「江戸時代ってどんな時代だろう」

【目標】

江戸時代の単元を学習後の6年生に2つの命題に対して、複数の象徴事例を用いることにより江戸時代の社会の仕組みを理解させ

- ① 江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」の修正
- ② 江戸時代の農民は、武士の厳しい支配の中でも生活を工夫して豊かに暮らしていたこと。
- ③ 参勤交代制度における大名行列が当時の日本の発展に役立っていたこと。
- ④ ①②③を踏まえ、江戸時代の歴史的事象の構造的理解を促進させる。

①～④を具体的に理解させることを目標とする。

【工夫】

江戸時代のそれぞれの身分に置かれている人々の詳しい日常の生活を知ることにより、江戸時代の社会（2つの命題）を具体的に理解させるように象徴事例を用いた授業を展開する。



「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう？

—あまり知られていない江戸時代の人々の様子—

1 時間目

○導入1

二学期から江戸時代について学習しましたね。江戸時代ってどんな時代でしたか？

このクラスを江戸時代の身分に分けてみましょう。

担任が大名

3～4人が武士

3人町人

残りの児童は農民

江戸時代の人口比率はこれぐらいだったんだね。

農民の人数が武士より圧倒的に多いですね。

「武士は農民を支配していました。でも支配され苦しい生活をしている農民は、武士を倒そうとしなかったのだろうか」

○導入2

江戸時代は、今で言う都道府県のように、藩で地域が分けられていました。その藩で一番位（くらい）の高い人がお殿様と呼ばれ、武士はお殿様に仕えていました。江戸時代には300もの藩があり、その藩の中でも、お米が1万石以上採れる藩のお殿様のことを大名と呼びました。

江戸時代は、さっきこのクラスで分けたように、武士、農民（百姓）、町人（商人、職人）と身分が分けられていました。

それぞれの身分の人々はどんな生活をしていたのでしょうか？

○×で答えてください。

武士について

武士はどうやって生活をしていたのだと思いますか？（予想問題）

1. 農民から徴収した年貢米を売って贅沢な生活をしていた。
2. 給料をもらって生活をしていた。
3. 寺子屋などで子どもたちに勉強を教えて生活していた。
4. 現在の警察の役割をしていた。

実は武士の多くは大名から給料をもらって生活していました。武士は現在の警察のような仕事をしたり、税（年貢米など）の徴収、藩の警備や、道を整備したりし、藩の中での仕事をしていました。給料の少ない下級武士は、生活が苦しいので、寺子屋で子どもたちに勉強を教えたりしてお金を稼いでいました。

農民から納められた年貢米は藩のもので、武士のものではありません。武士の中で年貢米を取り立てる仕事をする武士が年貢米を集めるだけでした。集められた年貢米を藩が商人などに売り、そこで得られたお金を参勤交代の費用に使ったり武士に給料として支払っていたのです。

○導入3

農民の暮らしはどうだったのだろう？

農民は年貢を納めなくてはなりません。五公五民という年貢率で、収穫した半分のお米を年貢米として納めていました。例えば1000kgのお米の収穫があっても半分の500kgを年貢米として藩に納めなければなりません。

現在、お米の重さの単位は、キログラムです。しかし、江戸時代は石（こく）というお米の重さの単位で計算されていました。1石は約150キログラムです。また1石は一年間に人ひとりが食べるお米の量になります。

1石 = 150kg = 人ひとりが一年間に食べるお米の量

現在のみんが住んでいる和歌山県は紀州藩と呼ばれていました。徳川御三家の一つと

して栄えました。他の大名よりも位が上でした。

紀州藩はお米の収穫量は、年間約55万石で50万人ほど住んでいました。当時、農民の人口は全体の約8割なので40万人の農民が紀州藩で住んでいました。五公五民の年貢率で年貢として採れるお米の半分の約27万石が藩に納められていました。残った27万石を40万人の農民が食べて暮らしていました。

問 何かおかしいなと感じるところ、疑問に思うところはないですか？

「あれ？お米が足りないぞ！」

農民はお米を食べられなかったのだろうか

やはり、農民は貧しい生活をしていたのかな？

農民の生活

1. 紀州藩の農民はどうやって生活していたのかな。

(1) みんなが江戸時代の農民だったなら、どうして生活していくだろう？

もし、農民がこんな生活をしていたら、農民は死んでしまいます。

・農民がみんな死んでしまっ、一番困るのは誰だろう？

年貢を渡さない、一揆、他の農産物を食べる。

2. 紀州藩の農民は、お米以外に田畑で何も作っていなかったのだろうか。

※紀州の産業（資料1）、日本の産業（資料3）の提示

(1) 紀州藩だけでなく他の藩でもいろいろな特産品がありました。

3. みんなだったら、みかんや梅、醤油、鯨などを自分が食べる分以外、どうする？

売る。

※ 蜜柑の資料（資料2）

(1) 農民には野菜や特産品などを作り自分が食べる以外の物は商人に売ってお金を稼いでいました。

その稼いだお金でみんなだったら、何をしますか？

好きなものを買う。遊ぶ。

○江戸時代の農民もきっとそうしていたのではないだろうか？

象徴事例1－(a)

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた

4. 次にこの絵を見てください。江戸時代の農民の様子（資料4）の提示
これは、江戸時代の農民の日常の姿を描いた絵です。農民は何をしていますか？

タバコを吸っている。

お酒を飲んでいる。

腕相撲をしている。

5. 絵を見て疑問に思ったことおかしいと感じたことはないですか？

※慶安のお触書で禁止されていることにしていることに気づかない場合は、発問で気づかせる。

(1) 農民ってタバコを吸ったり、お酒やお茶を飲んでもよかったの？

※慶安の御触書（資料5）の提示。

慶安の御触書で禁止されていることをしている。なぜだろう？

慶安のお触書はなぜ出されたと思いますか？

慶安のお触書の解釈

- ・たばこやお茶、お酒を飲むことを禁止するということは、たばこやお茶を買うだけの余裕が農民にはあったということです。

御触書を出して農民の生活を規制しないと農民がなまけてお米を作らなくなり年貢米が少なくなり武士の給料も少なくなってしまう。

◎農民に一生懸命にお米を作らせるよう、農民の生活をよくさせるための農民の心得だった。

象徴事例1－(b)

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、たばこやお茶、お酒を飲んでいた

命題 1

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

FIGURE 1 指導案前半 農民の生活

指導案前半を作成するにあたって留意した点は、以下の点である。

○指導案前半の全体の流れ

導入 1

江戸時代の身分別の人口比率を再確認させるために学級を身分の人口比率に分け、農民がどれだけ多かったか、確認させる。

導入 2

教科書には、「武士は政治を行っていた。」としか記述されていない。「日常の武士の生活はどのようなものであったか」ということが子ども達には理解できていない。そこで予想問題として、子ども達が思う武士の暮らしについて選択問題（複数解答可）を出題する。

武士はどうやって生活をしていたのだと思いますか？

1. 農民から徴収した年貢米を売って贅沢な生活をしていた。
2. 給料をもらって生活をしていた。
3. 寺子屋などで子ども達に勉強を教えて生活していた。
4. 現在の警察の役割をしていた。

その後、武士の日常の生活について説明し理解させる。

導入 3

課題の展開

農民の暮らしを中心に授業を展開する。予備調査により子ども達は、「農民は貧しい生活をしていた」と考えるものが多い。そこで地元の紀州藩の農民の暮らしについて問題提起をする。

ここでは、貧しい生活をしていると認識している子どもが多いので、お米が足りず、生活が苦しいのは当たり前だと子どもは考えていると思われる。

農民の生活

発問1 紀州藩の農民はどうやって生活していたのかな。

1－(1) みんなが江戸時代の農民だったなら、どうして生活していくだろう？

- ・農民は、お米だけしか残らないなら生活をしていけないことを理解させる。

発問2 紀州藩の農民は、お米以外に田畑で何も作っていなかったのだろうか。

- ・紀州藩の特産品や米以外の農作物を農民が作っていたことを理解させる。

2－(1) 紀州藩だけでなく他の藩でもいろいろな特産品がありました。

- ・全国の特産品の資料を提示し、紀州藩の農民だけでなく各地の農民が特産品や農作物を作っていたことを理解させる。

発問3 みんなだったら、みかんや梅、醤油、鯨などを自分が食べる分以外、どうする？

- ・農民の立場に立ち考えさせる。

- ・蜜柑の資料の提示

紀伊国屋文左衛門が江戸時代に江戸へ紀州有田蜜柑を船で輸送していたことを知り、その蜜柑は農民が作っていた事を知る。

3－(1) 農民には野菜や特産品などを作り自分が食べる以外の物は商人に売ってお金を稼いでいました。

- ・農民は、年貢米を徴収されるだけではなく、お金を稼いでいたことを理解させる。

象徴事例 1-(a)

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた。

発問4 これは、江戸時代の農民の日常の姿を描いた絵です。農民は何をしていますか？

- ・農民がタバコやお酒、お茶を飲んでいたことを理解させる。

発問5 絵を見ておかしいと感じたことはないですか？

5－(1) 農民はタバコを吸ったり、お酒やお茶を飲んでもよかったの？

- ・慶安の御触書を資料で確認させ、なぜ禁止されていることがしていたのか、なぜできたのかを考えさせ、お触書が出された意味を理解させる。

象徴事例 1-(b)

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、たばこやお茶、お酒を飲んでいました。

命題 1

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

このように、授業前半には命題 1「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。」、象徴事例 1-(a)「江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) 農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた。」、象徴事例 1-(b)「江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) たばこやお茶、お酒を飲んでいた。」が示されるように計画されていた。

2. 指導案と全体の流れ (後半)

次に後半の指導案について FIGURE 2 に示す。

指導案後半

※紀州藩徳川家参勤交代絵巻物を黒板に掲示する。紀州藩 参勤交代の様子 (資料 6)

1. 徳川家光は、他の大名に対して参勤交代制度を制定しました。

(1) 参勤交代制度ってどんな制度ですか？

(2) 参勤交代制度で得をしたのはだれだろう？

徳川幕府

大名にお金を使わせて大名の力を弱めるため。

(3) 江戸時代には全国で約 300 もの藩がありました。江戸幕府の命令により 2 年に 1 度、江戸に行かなければなりません。そうしないと、江戸幕府により、藩が潰されてしまいます。また、藩の大きさにより参勤交代にかかる人数も決められていました。さらに江戸に着くと、一年間、江戸に住まなければなりません。

300 もの藩が江戸と自分の藩の間を歩いて往復するわけですから、道も整備され

ていきました。

※江戸時代の街道と宿場町（資料7）

象徴事例2－(a)

（徳川家光が制定した参勤交代制度により、）大名行列が五街道を整備させた。（往来）

2. 紀州藩の江戸まで参勤交代にかかる日数はどれぐらいだと思いますか？

約15日

※紀州藩参勤交代の日程表（資料8）

（1）紀州藩の大名行列は総勢何名ぐらいだったと思いますか。

参勤交代では、3000人が一日中歩きます。一日中ずっと歩くと疲れるので休憩しますよね。

どんなお店があっただろう？

現在なら道の駅みたいなもの。※東海道沿いの茶店（資料9）

象徴事例2－(b)

（徳川家光が制定した参勤交代制度により、）大名行列が街道沿いの茶店を作った。

（2）また、約15日間も江戸に向けて旅をします。そうすると休憩だけでなく宿泊もしなければなりません。一晩に3000人が泊まれるところが必要です。どんなところに宿泊したのだろう。

※宿場町（資料10）

3. 宿泊するということは、何をすることですか？修学旅行を思い出しましょう。

夕食 お風呂

（1）紀州藩の参勤交代にはどれぐらいのお金が必要だったのだろう。一年後の帰りの費用も必要です。

21億5800万円

参勤交代には、莫大な費用がかかりました。

それを（大名行列の人数の差はあるものの）300もの藩が行っていました。
300もの藩が参勤交代し、宿場町に泊まることにより宿場町が儲かり繁栄しました。

象徴事例2－(c)

（徳川家光が制定した参勤交代制度により、）大名行列が宿場町を繁栄させた

3. 宿場町で宿泊すると食事が必要になります。たくさんの人の食事を用意しなければなりません。その食事の材料のお米や野菜、魚、調理に必要な調味料や酒はどこから仕入れたのだろう。

(1) 日本の特産品の資料を見てみよう。※日本の産業（資料3）
各地の特産物がたくさんあります。

※この特産物を農民が作り、宿場町の宿や商人に売りに行きお金を稼ぎました。

参勤交代により五街道が整備され、街道沿いにお店ができ、宿場町を繁栄させた。

チャート（板書計画）

宿場町にたくさんの大名や武士が宿泊する。（夕食が必要）

↑商人から材料を購入

商人が得をした。

↑農民が作った米や野菜、魚、酒、調味料の買付け

※食べ物だけでなく、草鞋や、綿など生活必需品等

農民が得をした。

↓

農民がお金を稼ぐ。

↓

稼いだお金で、いろいろなものを買って農民は豊かに暮らしていた。

江戸の社会の仕組み（資料10）

命題 2

徳川家光が制定した参勤交代制度により、

大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

FIGURE 2 指導案後半 参勤交代

指導案後半を作成するにあたって留意した点は、以下の点である。

2 時間目

参勤交代制度

発問 1 徳川家光は、他の大名に対して参勤交代制度を制定しました。

1 - (1) 参勤交代制度ってどんな制度ですか？

1 - (2) 参勤交代制度で得をしたのは誰だろう？

- ・参勤交代制度について子ども達がどれだけ理解しているか把握すると共にどのような制度であったか再度確認させる。

1 - (3)

- ・参勤交代制度を詳しく理解させる。
- ・参勤交代制度においての大名行列を300もの藩が行いそのため五街道や各地の街道が整備されていったことを理解させる。

象徴事例 2 - (a)

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、) 大名行列が五街道を整備させた。(往来)

- ・象徴事例 2 - (a)を理解させる

発問 2 紀州藩の江戸まで参勤交代にかかる日数はどれぐらいだと思いますか？

2 - (1) 紀州藩の大名行列は総勢何名ぐらいだったと思いますか

- ・紀州藩の大名行列を行うことの大変さや道のりの理解
- ・街道沿いには、休憩のため茶店が多くできたことの理解させる(資料)

象徴事例 2 - (b)

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、) 大名行列が街道沿いの茶店を作った(休憩)

- ・象徴事例 2 - (b)を理解させる

(3) 2 - (2) また、約15日間も江戸に向けて旅をします。

そうすると休憩だけでなく宿泊もしなければなりません。一晩に30

00人が泊まれるところが必要です。どんなところに宿泊したのだろう。

- ・宿場町の資料を見て、宿場町がどんなに大きな街だったか理解させる。

発問3 宿泊するということは、何をすることですか？修学旅行を思い出しましょう。

3- (1) 紀州藩の参勤交代にはどれぐらいのお金が必要だったのだろう。一年後の帰りの費用も必要です。

- ・参勤交代には、莫大な費用がかかったことを理解させる。
- ・参勤交代は、300もの藩が行っていたことを理解させる。

3- (2) 300もの藩が参勤交代し、宿場町に泊まることにより宿場町が儲かり繁栄しました。

- ・大名行列が宿場町に宿泊することにより、宿場町が儲かり栄えたことを理解させる。

象徴事例2-(c)

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、) 大名行列が宿場町を繁栄させた。

- ・象徴事例2-(c)を理解させる

発問4 宿場町で宿泊すると食事が必要になります。そんなたくさんの人の食事を用意しなければなりません。その食事の材料のお米や野菜、魚、調理に必要な調味料や酒はどこから仕入れたのだろう。

4- (1) 日本の特産品の資料を見てみよう。各地の特産物がたくさんあります。

- ・日本の各地に特産品があることを理解させる。

4- (2) この特産物を農民が作り、宿場町の宿や商人に売りに行きお金を稼ぎました。

- ・象徴事例1-(a)に戻り、農民がどこに農産物や特産品を売りお金を稼いでいたかを理解させる。(江戸時代の社会の構図)

- ・参勤交代により五街道が整備され、街道沿いにお店ができ、宿場町を繁栄させた。

チャート

参勤交代制度の大名行列により

宿場町にたくさんの大名や武士が宿泊する。(夕食が必要)

↑ 商人から材料を購入

商人が得をした。

↑農民が作った米や野菜、魚、酒、調味料の買付け

※食べ物だけでなく、草鞋や、綿など生活必需品等

農民が得をした。

↓

農民がお金を稼ぐ。

↓

稼いだお金で、いろいろなものを買って農民は豊かに暮らしていた。

命題2

徳川家光が制定した参勤交代制度により、大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

命題1と命題2を理解することで

「大名行列が江戸時代の商人や農民にお金を稼がせ、豊かに生活できた。」

ことを理解させる。

このように、授業後半には命題2「徳川家光が制定した参勤交代制度により、大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。」、象徴事例2－(a)「(徳川家光が制定した参勤交代制度により、)大名行列が五街道を整備させた。」、象徴事例2－(b)「(徳川家光が制定した参勤交代制度により、)大名行列が街道沿いの茶店を作った。」、象徴事例2－(c)「徳川家光が制定した参勤交代制度により、)大名行列が宿場町を繁栄させた。」が示されるように計画されていた。

〔3〕事後調査の概要

○問1、問2に関しては、事前、事後調査とも、同じ質問を用意した。

授業後に武士、町人、農民、参勤交代に対しての「不十分な認識」が修正されたかどうかを問う課題である。

問3は、事前課題の回答と比較できる課題を用意した。江戸時代の社会の構図及び命題間のつながりが理解できたかを問う課題である。

- ・問題は、5段階で（そうである　多分そうだ　～　そうではない）で自分が思うところに○を付ける問題である。

11題の課題を用意した。それぞれの課題に対応する事前課題の問いを以下に記した。

1. 〈武士の生活についての理解の調査課題〉
事前調査課題（問3-1）に対応した課題である。
2. 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉
事前調査課題（問3-2）に対応した課題である。
3. ～7. 〈農民の日常生活についての理解度課題〉
3. 〈農民の休日課題〉
事前調査課題（問3-3）に対応した課題である。
4. 〈農民の娯楽課題〉
事前調査課題（問3-4）に対応した課題である。
○この課題で象徴事例1-（b）の理解について調べた。
5. 〈農民の現金収入課題〉
事前調査課題（問3-5）に対応した課題である。
○この課題で象徴事例1-（a）の理解について調べた。
6. 〈農民と宿場町の関係課題〉
事前調査課題（問3-7）に対応した課題である。
7. 〈農民の暮らし課題〉
事前調査課題（問3-6）に対応した課題である。
○この課題で命題1の理解について調べた。
8. 〈町人の生活についての理解度調査課題〉
事前調査課題（問3-8）に対応した課題である。
9. 〈農民と大名行列の関係の理解度調査課題〉
参勤交代と農民との関係を理解したかについての調査課題
命題1と命題2の構造化についての課題
○この課題で命題1と命題2の構造化の理解について調べた。
10. 〈参勤交代制度と江戸社会についての理解調査課題〉
参勤交代と江戸の社会の構造が理解できているかの調査課題
○この課題で象徴事例2-（a）の理解について調べた。
11. 〈参勤交代制度と江戸の経済についての理解度調査課題〉
事前調査課題（問3-9）に対応した課題である。
○この課題で命題2の理解について調べた。

問4 歴史学習についてのアンケート

歴史学習についての興味や意欲に関するアンケート課題を10題用意した。
「思う～思わない」の五段階評価で該当する回答に○を付ける課題である。

3. 結果と考察

[1] 研究授業前の児童の認識

1. 参観授業の様子

研究授業前に「江戸時代を生きた人々」の授業を参観させてもらった。この中単元は、7つの小単元からなり「単元の導入」「それぞれの身分と暮らし」「江戸時代を生きた人々のくふうや努力」「力をつける町人」「近松門左衛門のはたらきを調べる」「国学の広がり」と子ども教育」となっている。その中で「それぞれの身分と暮らし」「江戸時代を生きた人々のくふうや努力」「力をつける町人」を参観した。3つの小単元の目標を以下の表に示す。

TABLE 1 参観授業の概要

単 元 名	学習のねらい	子どもの追求活動を支える評価基準の具体例
それぞれの身分と暮らし	幕府や藩は、武士による支配体制を維持・強化していくために秀吉の身分の決まりをもとに、いっそうの身分固定化を図ったことを考えることができる。	【社会的な思考・判断・表現】身分の違いに問題意識を持ち、幕府や藩が秀吉の身分のきまりをもとに、いっそうの身分固定化を図ったことを考え、適切に表現している。
江戸時代を生きた人々のくふうや努力	江戸時代の農民や町人は、どのような願いを持ち、どのような努力をして、暮らしを高めていたのかを調べ、当時の暮らしの様子に関心を持つことができる。	【社会的事象への関心・意欲・態度】江戸時代を生きた人々の願いや、それに対する工夫や努力に関心を深めている。
力をつける町人	江戸時代の商人が、流通経路の整備や販売方法を工夫などで巨額の富を得ることで、力をつけたことをとらえることができる。	【社会的事象への関心・意欲・態度】江戸時代の人々の楽しみに関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追求している。

「それぞれの身分と暮らし」では、参勤交代制度、武士・町人・農民の暮らしについて記述されている。大名は武家諸法度により、幕府からの圧力を受けていたことや、農民の年貢を納めている様子が描かれている。「江戸時代を生きた人々のくふうや努力」では、農民の生活の工夫や特産品を生産していたことなどが記述されている。「力をつける町人」では、街道や航路の整備や流通について書かれている。

授業は、各単元のねらいどおりに行われていた。しかし、本研究の予備調査、事前調査

にあるように、児童の「不十分な認識」や「江戸時代の社会の構造」などは、理解できていない児童が多いことが予想される。これは、単元を区切ることによって、児童は、単元どうしのつながりを理解できていないからではないかと考える。また、授業内容においても単元どうしのつながりを説明していないことが原因ではないだろうか。歴史学習は、歴史的事象の本質的な理解やつながりを理解して初めて、歴史学習と言える。歴史的事象やその時代の流れを理解できていないことが、歴史学習への興味やおもしろさを欠き、暗記中心の学習方略を選択している児童がいるのではないかと考えられる。

2. 「不十分な認識」についての事前調査課題について

ここでは、参観授業の後に実施された事前調査の結果とその分析を行う。江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」によるイメージ（問1）や、参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ（問2）、

〈「不十分な認識」によるイメージの事前調査の結果とその分析（問1）〉

〈武士に対するイメージ調査〉

まず、江戸時代の武士のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査（複数回答）について、事前の結果をまとめたものをTABLE 2に示す。FIGURE 3は、その結果をイメージの項目ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ（贅沢・豪華、裕福、豊か、自由）とマイナスイメージ（辛い、苦しい、貧しい、不自由）に分け、その回答数の割合を表したものがFIGURE 4である。

FIGURE 3より、武士に対するイメージは、裕福という回答が一番多く見られ、武士は、何不自由なく暮らしていたと思っている児童が多い。また、自由記述において「武士は、どんな仕事をしていたか」という問に対して、「自由に暮らしていた」「遊んでいた」など、武士は働かなくても暮らしていけたと思っている児童も多かった。

次に、武士のイメージをプラスイメージとマイナスイメージに分けて分析する

FIGURE 4より武士に対するイメージは、プラスイメージが93%、マイナスイメージが7%であった。大多数の児童は、武士に対してプラスイメージを持っていることがわかる。

TABLE 2 「不十分な認識」における調査課題（武士について）

武士のイメージ									
	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	15	17	9	11	2	2	0	0	0

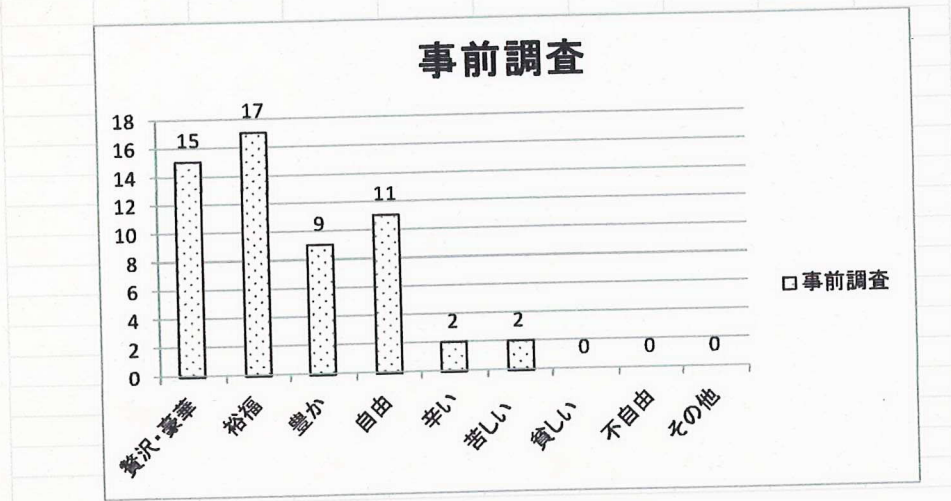


FIGURE 3「不十分な認識」における武士のイメージ

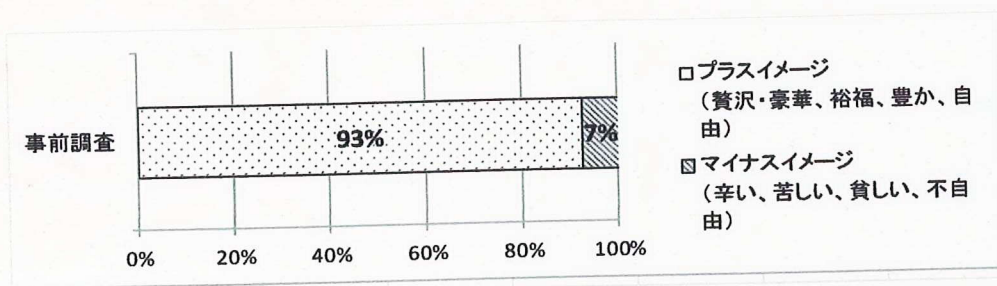


FIGURE 4「不十分な認識」による武士のイメージ分け（プラス、マイナスイメージ）

〈町人に対するイメージ調査〉

次に江戸時代の町人のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査（複数回答）について、事前の結果をTABLE 3に示す。FIGURE 5は、その結果をイメージの項目ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ（贅沢・豪華、裕福、豊か、自由）とマイナスイメージ（辛い、苦しい、貧しい、不自由）に分け、その回答数の割合を表したものがFIGURE 6である。

FIGURE 6より町人に対するイメージは、プラスイメージが75%、マイナスイメージが25%であり、過半数の児童がプラスイメージを持っていることが確認できた。特に、FIGURE 5よりわかるように「豊か」、「裕福」の項目が多くあげられた。これは、武士ほど贅沢・豪華ではないものの、裕福で、豊かな生活をしているイメージがあると思われる。

「貧しい」「不自由」と捉えている児童も数人いる。このことは、江戸時代は、武士の支配がとても強いという印象を受けている児童が回答したものではないかと考えられる。

TABLE 3 「不十分な認識」における調査課題（町人について）

町人のイメージ									
	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	3	14	17	7	5	1	5	3	0

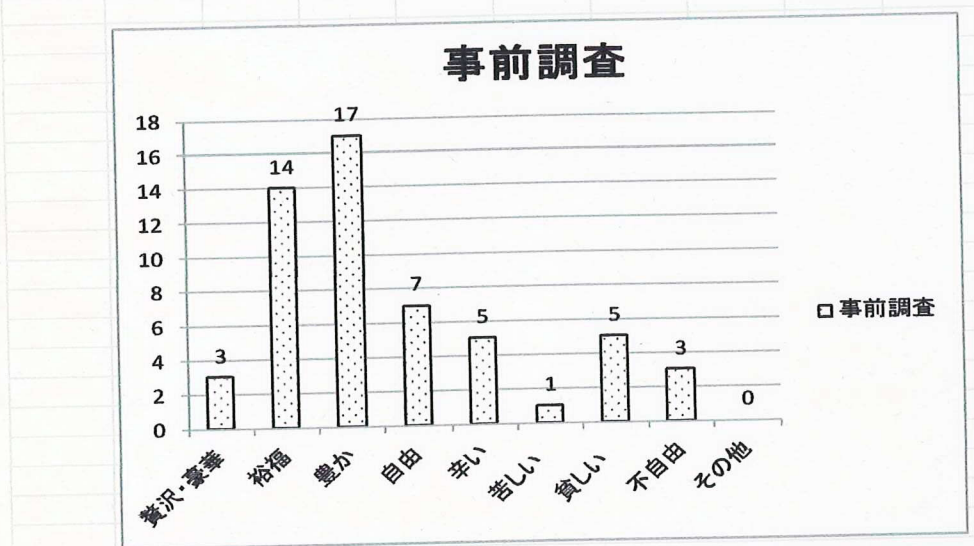


FIGURE 5「不十分な認識」における町人のイメージ

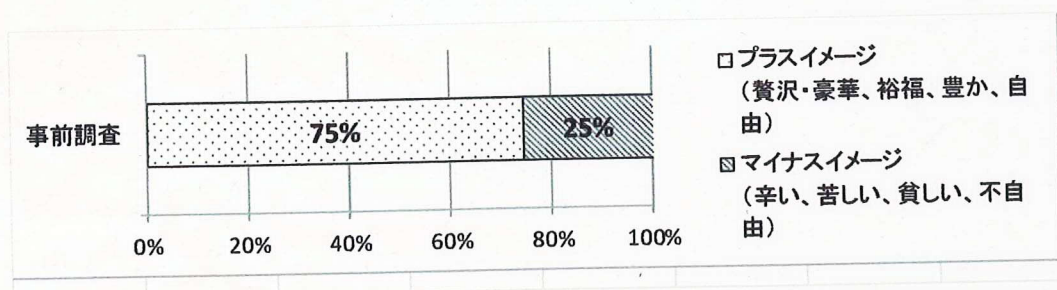


FIGURE 6「不十分な認識」による町人のイメージ分け（プラス、マイナスイメージ）

〈農民に対するイメージ調査〉

江戸時代の農民のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査（複数回答）について、その結果を TABLE 4 に示す。FIGURE 7 は、その結果をイメージの項目ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ（贅沢・豪華、裕福、豊か、自由）とマイナスイメージ（辛い、苦しい、貧しい、不自由）に分け、その回答数の割合を表したものが FIGURE 8 である。

FIGURE 7、FIGURE 8 よりわかるように、農民に対するイメージは、プラスイメージ

をあげる回答は全く見られなかった。特に、「貧しい」、「苦しい」、「不自由」というイメージを持たれていることが確認できる。自由記述で「江戸時代の農民はどんな生活をしていましたか」との問いに「お米を作っているのに、稗やあわを食べて生活している」「毎日田んぼで働かされている」「お金がなくて貧しい」などマイナスイメージを持つ解答しかあげられていなかった。

TABLE 4 「不十分な認識」における調査課題（農民について）

農民のイメージ

農民のイメージ	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	0	0	0	0	10	15	18	13	0

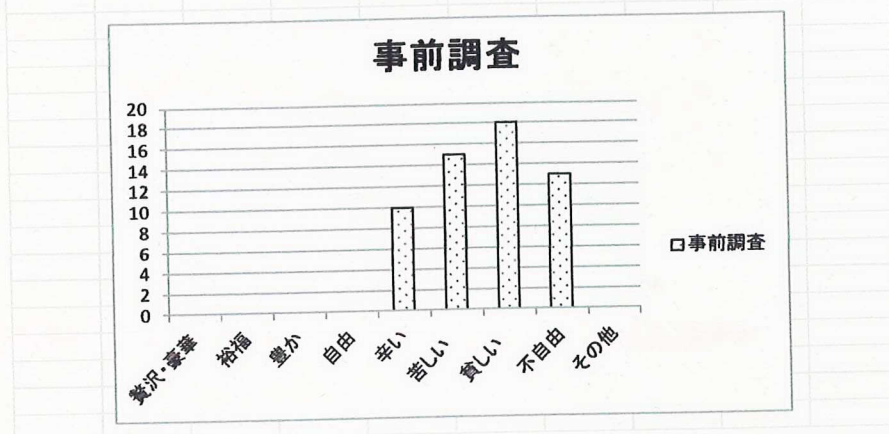


FIGURE 7 「不十分な認識」における農民のイメージ

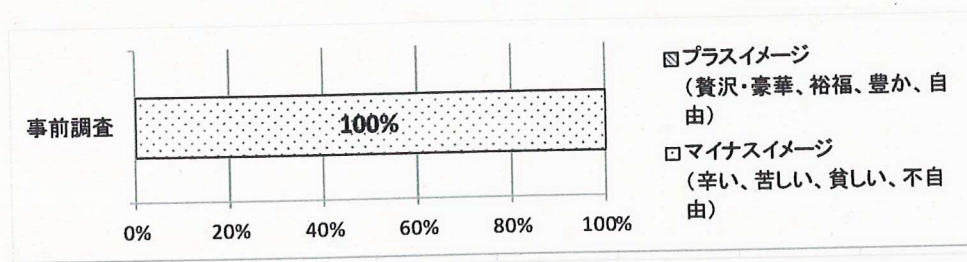


FIGURE 8 「不十分な認識」による農民のイメージ分け（プラス、マイナスイメージ）

○ 〈参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ調査（問2）〉

参勤交代において誰が得をしたのか該当するものに○を付ける調査（複数回答）について、事前と事後の結果をまとめたものを TABLE 5 に示す。その結果を項目ごとの棒グラフに表したものが FIGURE 9 である。

TABLE 5 および FIGURE 9 より、「江戸幕府」をあげた児童が最も多く、次いで「大名」、「武士」という回答が多い。これらより、参勤交代では支配するものが得をすると考えら

れていることがわかる。参勤交代は江戸幕府により作られた制度であることから、当然制度を作ったものが得をするようになっているはずと考えられるのは妥当であり、制度の成り立ちが正しく理解されている結果ともいえる。しかし、教科書記述には、「大名行列には莫大な費用がかかった」「大名行列で藩の財政が苦しくなった」という記述があるにもかかわらず、大名が得をしていると答える児童が約三分の一もいた。制度の成り立ちは理解できているものの、参勤交代の本質的な理解や、参勤交代における社会への影響などは正しく理解されていない。自由記述の「選んだ理由」においても約三分の二の児童が、無回答であり、「江戸幕府が得をした」と回答をしている児童のほとんどが、「藩にお金を使わせて貧乏にし、反乱させないため」という内容の回答がほとんどであった。

TABLE 5 参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ調査

参勤交代で得をしたのはだれか						
	江戸幕府	大名	武士	町人	農民	分からない
事前調査	19	10	4	1	0	3

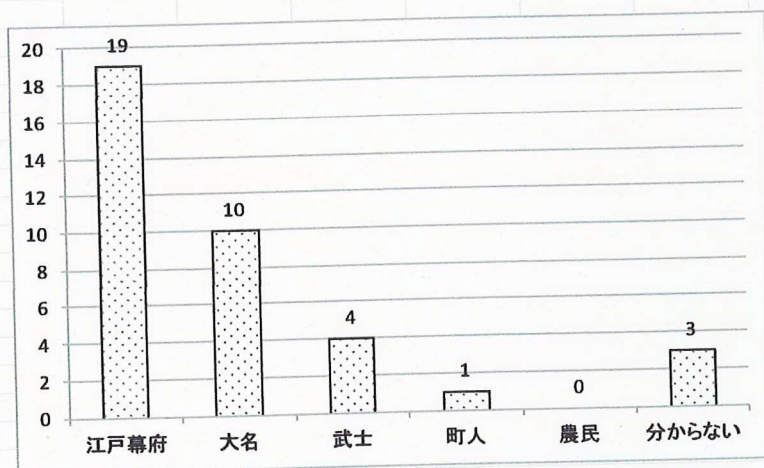


FIGURE 9 参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ調査

3. 「構造化」についての事前調査課題について

○〈江戸時代の歴史認識や社会の構造についてアンケートの結果とその考察（問3）〉

江戸時代の武士、町人、農民の日常の生活や社会の構造を実験授業前にどれだけ理解しているかについて事前調査の結果とその考察を示す。

江戸時代の武士、町人、農民の日常の生活やそれぞれの身分同士の関わり、参勤交代の役割についての内容の10問題に5段階（そうである～多分そうである～わからない～多分そうではない～そうではない）で○を付けてもらった。以下にその結果を示す。また、「正答」と「正答でない」に分け、グラフで表した。

1. 〈武士の生活についての理解の調査課題〉

江戸時代の武士は、農民から取り立てた年貢米を売ったりして生活していた。

TABLE 6 武士の生活についての理解度調査課題結果

していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
4人	12人	3人	9人	1人

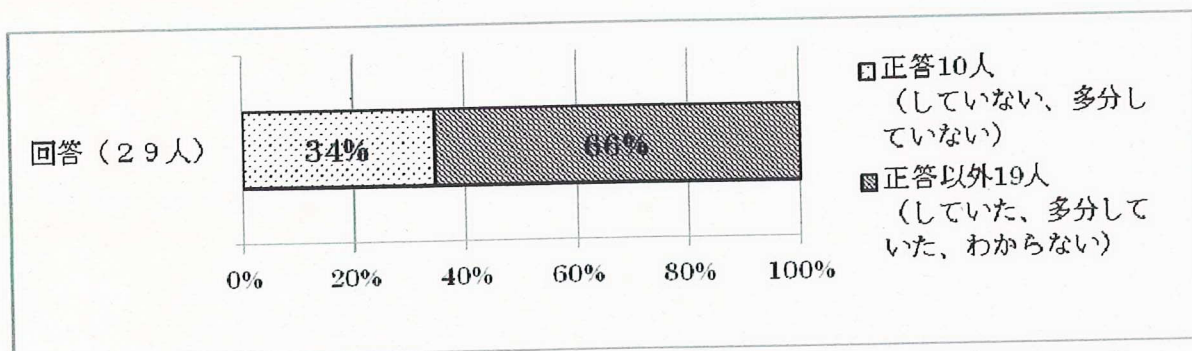


FIGURE 10 武士の生活についての理解調査課題結果 (正答、正答以外別)

TABLE 6 より「していた」「多分していた」と回答した児童が16人いた。これは、武士の支配がとても強いと理解しているものと考えられる。しかし、農民から見ると武士は、権力そのものであったかもしれないが、武士も藩に雇われ仕事をしていることは理解できていないと考えられる。

FIGURE 10 より、約三分の二の児童が、正答以外の回答をしている。これは、武士は、どのようにして、収入を得ていたのか理解していないと考えられる。

2. 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉

江戸時代の農民は、武士の厳しい支配の中で、毎日、田畑などで働かされていた。

TABLE 7 武士と農民の関係の理解調査課題結果

そうだ	多分そうだ	わからない	多分そうでない	そうでない
22人	6人	0人	1人	0人

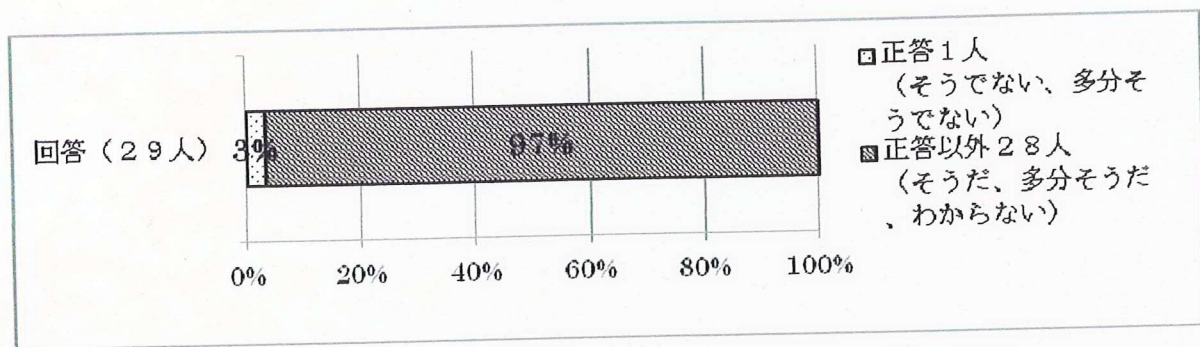


FIGURE 11 武士と農民の関係の理解調査課題結果（正答、正答以外別）

TABLE 7 より、「そうだ」「多分そうだ」が28人で大多数をしめた。ほとんどの児童が「武士の支配がとても強かった」と考えている。また農民は強制的に働かされていると考えていると思われる。

FIGURE 11 より、江戸時代の農民は武士から強制的に働かされていると考える児童がほとんどであることがわかる。農民には自由な生活ないと理解していると思われる。

3. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の休日）〉

江戸時代の農民は、休日や長期の休みなどがあった。

TABLE 8 農民の日常生活についての理解度課題結果（農民の休日）

あった	たぶんあった	わからない	たぶんなかった	なかった
1人	3人	1人	4人	20人

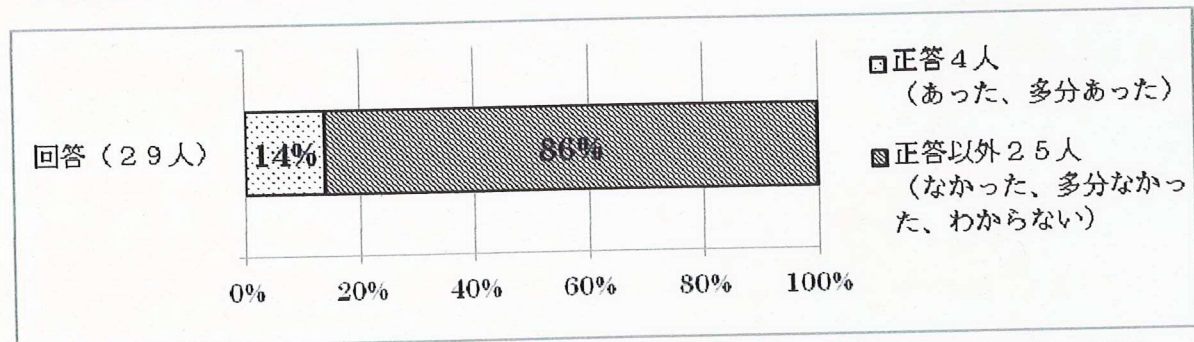


FIGURE 12 農民の日常生活についての理解度課題結果（農民の休日）（正答、正答以外別）

TABLE 8 について、「なかった」「多分なかった」と回答した児童は、24人であった。「農民は休日もなく働かされていた」と考える児童が大半を占めた。

4. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉

江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでた（農民の娯楽）

TABLE 9 農民の日常生活についての理解度調査課題結果（農民の娯楽）

していた	多分していた	わからな	多分していない	していない
0人	1人	0人	9人	19人

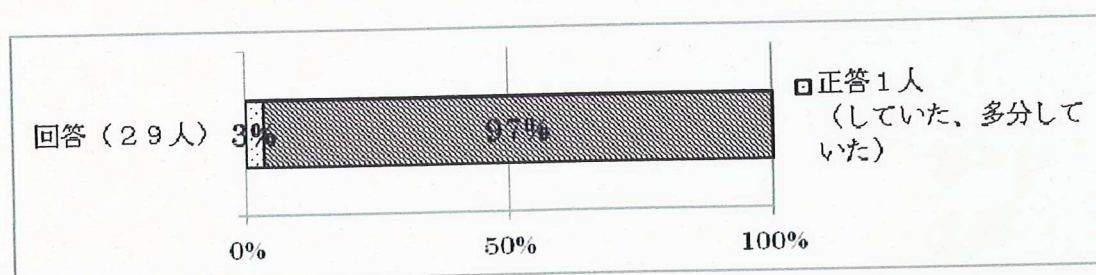


FIGURE 13 農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）（正答、正答以外別）

TABLE 9 より、「多分していない」「していない」と回答した児童は、28人いた。これは、慶安の御触書の理解が不十分であると考えられる。

FIGURE 13 より、ほとんどの児童は、「江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでいる」とは思っていない。慶安のお触書は、武士が農民を支配下に置くために農民に課した制度のように考えている。児童は、身分制度が敷かれた時と同時に「慶安の御触書」が出され、今まで、自由にできていた喫煙や飲酒などが禁止されたと理解している。しかし、実際は、農民が飲酒や喫煙で農作業を怠らないための手引書である。この児童の「慶安の御触書」への間違った解釈は、江戸時代の武士と農民の関係や農民の生活についても「不十分な認識」を生む原因になる。

5. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）〉

江戸時代の農民は作った野菜やお米を売ってお金を稼いでいた。

TABLE 10 農民の日常生活についての理解度調査課題結果（農民の現金収入）

していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
7人	7人	2人	9人	4人

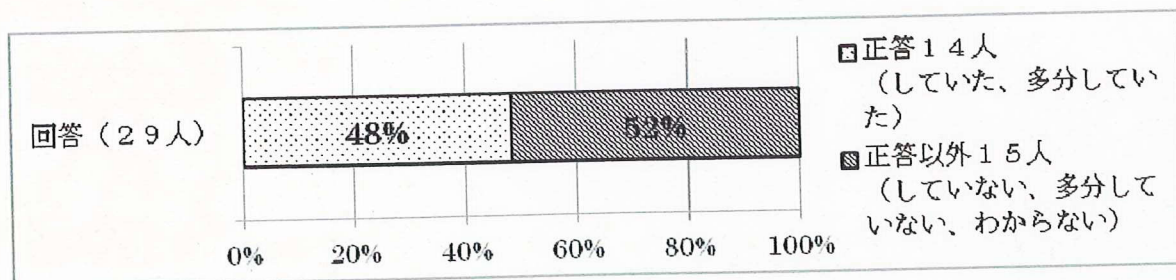


FIGURE 14 農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）（正答、正答以外別）

TABLE 10 より、「していた」「多分していた」と答えた児童は、14 人であった。約半数の児童は、現金収入があったと考えている。同じように FIGURE 14 より、約半数の児童は正答を出している。しかし、他の半数の児童は、現金収入がないと考え、これが、「農民は貧しい生活をしている」という考えに繋がると考えられる。

6. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の暮らし）〉

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた

TABLE 11 農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の暮らし）

していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
3人	6人	6人	7人	7人

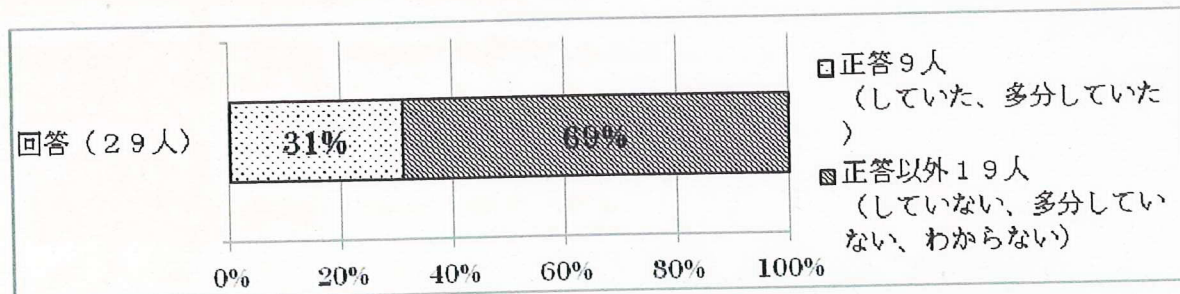


FIGURE 15 農民の日常生活についての理解調査度課題（農民の暮らし）（正答、正答以外別）

TABLE 11 より、「していた」と回答した児童は3人、「多分していた」と回答した児童は6人だった。「わからない」と回答した児童は、6人だった。「多分していない」と回答した児童は7人、「していない」と回答した児童は7人だった。(農民の暮らし) 課題については、回答に偏りが無い。

FIGURE 15 より正答が31%であった。69%の児童は農民の暮らしを理解できていないものとする。

7. 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉

江戸時代の町人は、商人や農民から商品を買っていた

TABLE 12 町人と農民の関係の理解度調査課題結果

いたと思う	多分いたと思う	わからない	多分いないと思う	いないと思う
11人	9人	4人	4人	1人

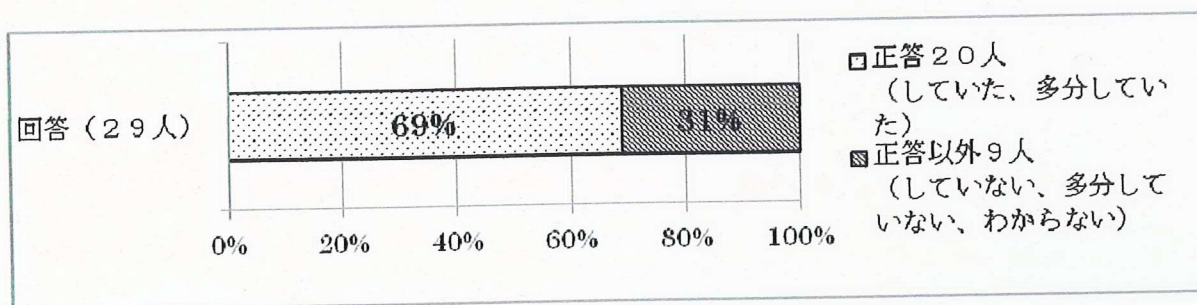


FIGURE 16 町人と農民の関係の理解度調査課題 (正答、正答以外別)

FIGURE 16 より正答と回答する児童が69%いた。約七割の児童が「江戸時代の町人は、商人や農民から商品を買っていた」と理解している。

8. 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉

武士が町人のお店で食事をしたり、宿泊したりするのに、お金を払わなくてよかった

TABLE 13 武士と町人の関係の理解調査課題結果

よかった	多分よかった	わからな	多分払っていた	払っていた
5人	7人	7人	7人	3人

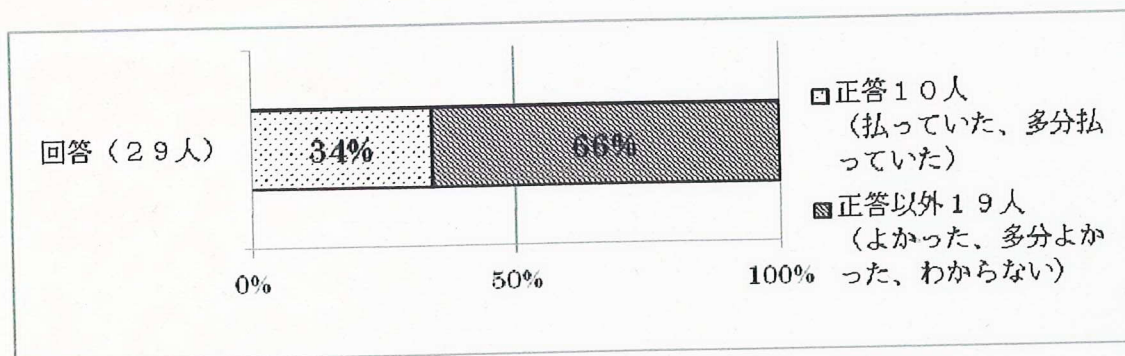


FIGURE 17 武士と町人の関係の理解調査課題 (正答、正答以外別)

TABLE 13 より、「よかった」と回答した児童が5人、「多分よかった」と回答した児童が7人であった。「わからない」と回答した児童は7人、「多分払っていた」「払っていた」がそれぞれ7人、3人であった。

FIGURE 17 より正答を回答した児童は34%であった。武士の権力は、町人にも農民と同じように及んでいたと捉えている児童がほとんどである。

9. 〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉

徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた

TABLE 14 参勤交代制度についての理解度調査課題結果

発展させた	多分発展させた	わからない	多分発展させていない	発展させていない
0人	5人	17人	3人	4人

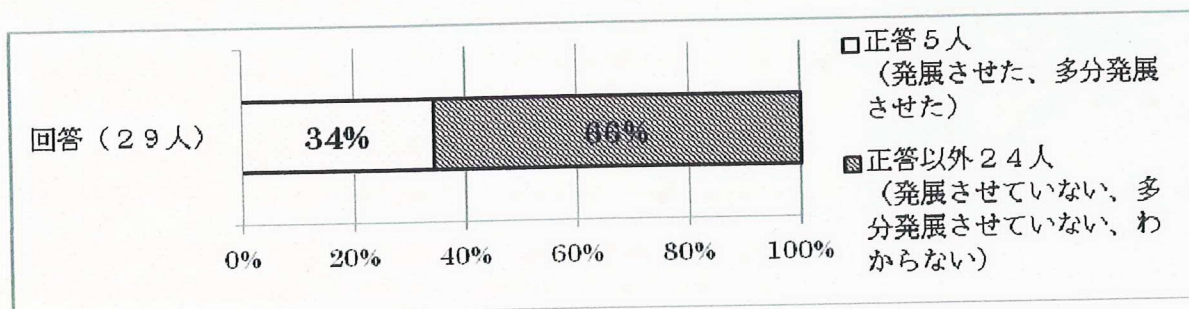


FIGURE 18 参勤交代制度についての理解度調査課題 (正答、正答以外別)

TABLE 14 より、「発展させた」と回答した児童は0人、「多分発展させた」と回答した児童は5人だった。「わからない」と回答した児童は17人、「多分発展させていない」「発展させていない」と回答した児童は合わせて7人だった。「わからない」と回答した児童17人は、半数以上もいることは問題である。児童は、参勤交代制度は、「江戸幕府は他の大名にお金を使わせるために参勤交代制度を作った」と考えている児童が多い。この考えも正答で

はあるが、参勤交代制度が社会に与えた影響はそれだけではない。

FIGURE 18 より正答と回答した児童は34%だった。66%の児童は正答以外を回答している。約七割の児童は、参勤交代が江戸時代の社会に与えた影響について理解できていないと考えられる。

10. 〈江戸時代の身分制についての理解度調査課題〉

江戸時代には、身分を変えることはできなかった。

TABLE 15 江戸時代の身分制についての理解度調査課題結果

できなかった	多分できなかった	わからない	たぶんできた	できた
21人	4人	2人	2人	0人

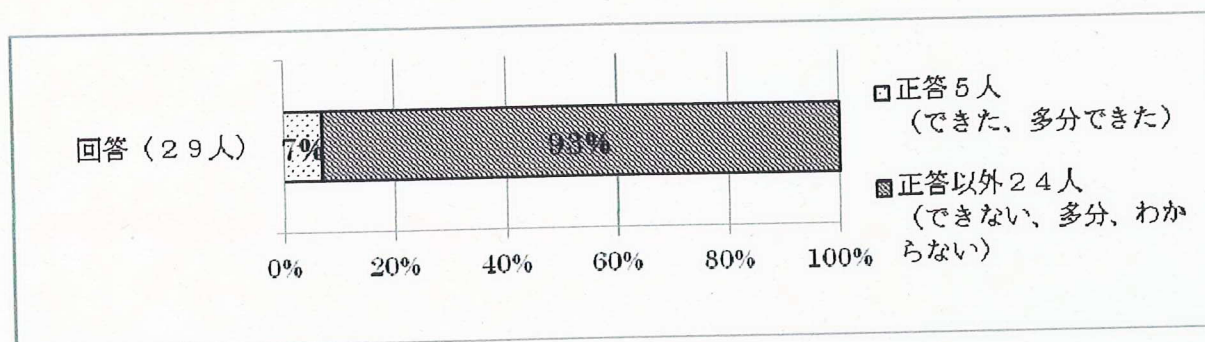


FIGURE 19 江戸時代の身分制についての理解度調査課題 (正答、正答以外別)

TABLE 15 より、25人の児童が「できなかった」「多分できなかった」と回答している。幕府が作った身分制度の影響が強く身分は絶対に変えられないと理解している児童が多いことがわかる。しかし、教科書の記述にも身分は変えられなかったと記述されているので児童の回答は間違いではない。

FIGURE 19 より、正答を回答した児童は7%だった。教科書には、「身分は変えられなかった」と記述されているが、吉川 (1979) が「実際は、奉公に出てそのまま町人になったり、養子や婚姻などで町人や商人になるものもいた」と述べていることから「できた」「多分できた」を正答とした。

まとめ

事前調査の結果を以下にまとめる。

1. 〈武士の生活についての理解の調査課題〉より、「武士は、農民から年貢を取り上げて生活をしている」という「不十分な認識」を持っている児童が66%見られる。
2. 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉より農民は、武士の支配により毎日強制的に田畑で働かされていると考える児童が97%見られる。
3. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の休日）〉より、農民には休日がないと考えている児童が86%見られる。
4. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉より、農民はたばこや酒などを飲むことを禁止され、それができなかったと考える児童が97%見られる。これは、「慶安の御触書」に対する「不十分な認識」によるものだと考えられる。
5. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）〉より、「児童の48%が農民は現金収入があった」と考えていた。
6. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の暮らし）〉より、「正答以外」を選んだ69%の児童は、江戸時代の農民の生活を理解できていないと考えられる。
7. 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉より、69%の児童は「江戸時代の町人は、商人や農民から商品を買っていた」と理解している。しかし、5. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題〉の「江戸時代の農民は作った野菜やお米を売ってお金を稼いでいた（農民の現金収入）」において、48%の児童は、正答を回答しているにもかかわらず、現金収入をどこから得ているのか分かっていないと思われる。
8. 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉より、66%の児童が「正答以外」の回答を選択した。食事をしたり宿に泊まったりしても代金を支払わなくていいという考えは、現代社会では、考えられないにもかかわらず、「正答以外」を選択している。児童は、江戸時代の武士に対してとても強大な権力を持っていると考えている。
9. 〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉より、児童の66%が「正答以外」を選択していた。
10. 〈江戸時代の身分制についての理解度調査課題〉より、児童の大多数が身分は変えられないと考えていた。

以上の結果より、児童は、歴史を学習したにもかかわらず、江戸時代の事象や社会の構造をほとんど理解できていないと思われる。この理由としていくつかの問題点をあげる。まず、児童の約半数が歴史学習は、暗記科目だと考えていること（意欲調査問8の結果より）が考えられる。歴史的事象の本質を理解しなくても暗記さえできればテスト問題に答えられるからである。また、今回の研究授業の内容においても、教科書の記述では単元分けされていて、単元と単元の接続の説明がされていないことも、児童が暗記を優先させる理

由にもなっているのではないだろうか。歴史学習で大切なことは、歴史的事象を暗記することではなく歴史的事象を理解し、解釈することである。また、暗記においても出来事間の必然性や因果関係に着目すると、それらの前後関係の記憶が促進されることも示されている（西林 1994）。また、関連付けの効果について伏見・麻柄（1993）は、学習に伴ってそれと関連する世界が開けるときに学習者は、学習内容を意義のある学びがいのあるものと感じ、学習効果も高まることを指摘している。そこで、象徴事例を用いることにより、事象間の接続を促進し、知識のつながりや関連付けにどのような効果をもたらすのかを検証する。

4. 「意欲」についての事前調査課題について

〈歴史学習意欲についてアンケートの結果とその分析（問4）〉

歴史学習において象徴事例を用いることの有効性は、麻柄・進藤(2004)が「①象徴事例は、学習内容に対するおもしろさや意外感を引き起こす。」ということを明らかにしている。また、菊間（2009）は、「歴史学習意欲を高めるために、つながり理解方略は必要な要素ではあるが、それだけでは不十分であり、楽しさを介してつながり理解方略を行うことが大切である。」ということを明らかにしていることから、象徴事例を用いて歴史的事象のつながりを理解すれば、どの程度学習意欲が高まるかどうかについて調査した。

アンケートは、10問で、（1. 思う 2. まあ思う 3. どちらでもない 4. あまり思わない 5. 思わない）に○を付けてもらうこととした。

その結果と分析を以下に示す。

1. 歴史を勉強することが好きだ。

TABLE 16 歴史学習についての好き嫌い調査結果

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	4	4	6	9	6

「好きだ」「まあ好きだ」が8人、「どちらでもない」が6人、「あまり好きでない」「好きでない」が15人となった。「好きだ」「まあ好きだ」と回答した児童の自由記述には、「人物に対する興味」に対する記述と「いろいろな出来事があって楽しい」という記述があった。また、約半数が「あまり好きでない」「好きでない」と回答している。「あまり好きでない」「好きでない」と答えた児童の自由記述には「覚えることが多い」という記述が多く、暗記中心の教科と捉えている児童が多いことがわかる。

2. 学校で習った歴史の背景を自分で調べようと思う

TABLE 17 歴史の背景調べ調査結果

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	6	3	6	7	7

「思う」「まあ思う」が9人、「どちらでもない」が6人、「思わない」「あまり思わない」が14人となった。「思う」「まあ思う」と回答した児童は問1では、「好きだ」「まあ好きだ」と回答している児童が多く、「思わない」「あまり思わない」と回答した児童は問1で、「あまり好きでない」「好きでない」と回答している児童が多く見られた。

3. テストがなければ歴史は学びたくないと思う

TABLE 18 歴史とテストの有無についての調査結果

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	2	8	7	4	8

「思う」「まあ思う」が10人、「どちらでもない」が7人、「思わない」「あまり思わない」が12人であった。約三分の一の児童は、「テストがなかったら歴史学習は必要ない」と考えてはいないことがわかる。

4. なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思う

TABLE 19 歴史的事象に対する興味調査

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	5	4	5	10	5

「思う」「まあ思う」が9人、「どちらでもない」が5人、「思わない」「あまり思わない」が15人であった。約半分の児童が、「なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思わない」という結果になった。

5. 歴史上の人物の生涯（生まれてから死ぬまで）を知るために伝記（本）などを読もうと思う

TABLE 20 歴史に関する本への興味課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	6	2	2	8	11

「思う」「まあ思う」が8人、「どちらでもない」が2人、「思わない」「あまり思わな

い」が19人であった。「思わない」「あまり思わない」が19人という結果になったのは、読書があまり好きでない児童も含まれるのではないかと考える。

6. 事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思う

TABLE 21 歴史的事象後の影響に対する興味課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	3	4	6	7	9

「思う」「まあ思う」が7人、「どちらでもない」が6人、「思わない」「あまり思わない」が16人であった。約半数の児童が「事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思わない」という結果になった。

7. 事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。

TABLE 22 歴史的事象後の影響に対する思考課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	8	13	4	4	0

「思う」「まあ思う」が21人、「どちらでもない」が4人、「思わない」「あまり思わない」が4人であった。問6の結果から、約半数の児童が「事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思わない」と考えているが、三分の二の児童は「事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。」と回答している。

8. 歴史は、理解すると言うより、そのまま暗記する科目だと思う。

TABLE 23 歴史科目における学習についての課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	7	8	3	4	7

「思う」「まあ思う」が15人、「どちらでもない」が3人、「思わない」「あまり思わない」が11人であった。約半分の児童が歴史学習は、暗記科目だと考えている。

9. 歴史の出来事どうしのつながりを理解することが大切だと思う。

TABLE 24 歴史的事象のつながりの理解に対する課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	12	9	4	2	3

「思う」「まあ思う」が21人、「どちらでもない」が4人、「思わない」「あまり思わ

ない」が5人であった。歴史的事象のつながりが大切であると考えている児童が多いにもかかわらず、問8ではそのまま暗記する科目だと考える児童が半数いることが矛盾しているのではないか。これは、児童は歴史学習は、つながりを理解することが大切だと思っているにもかかわらず、テストなどで空欄を埋める問が多いことが、児童に歴史学習は暗記科目だと考える児童が多いのではないかと思われる。

10. 歴史を勉強するのは、おもしろい。

TABLE 25 歴史学習についての興味課題

回答	1	2	3	4	5
人数(人)	3	6	5	6	9

「思う」「まあ思う」が9人、「どちらでもない」が5人、「思わない」「あまり思わない」が15人であった。約半数の児童が「歴史を勉強するのは、おもしろくない。」と回答している。

以上の結果となった。

〔2〕研究授業の様子

特に研究授業内の児童の様子を「象徴事例」と「命題」を教授した部分にしぼって下記に示す。なお授業記録全体は、資料の項に添付する。

象徴事例1－(a)の教授場面

T：農民って米しか作ってなかったの？授業で習わなかった？

C：あつ、野菜とか特産品！

T：そうやね、みんな習ったやろ？

C：習った？C：習ったやん。

T：和歌山ってなにが有名？

C1：梅 C2：鯨 C3：みかん

T：そうやね、次のページ見て

(紀州の産業の資料を見せる。)

いろいろな特産品があるよね。

特に和歌山はミカンが有名でやね。農民はお米意外にミカンを作っている地域もあつ

たね。そのミカンを食べて生活してた？

C：うん、してた。

C：ミカンとご飯ってあわんやろー。

T : 自分が食べる分以外にどうしてたの？

C : 売った？

T : そう、売るために作ってたんよ。

特に有田みかんって有名よな。

昔有田地方では江戸にミカンを出荷してたんよ。

T 1 : 次のページ見て。(みかんの出荷の様子) これ全部みかんやで。

(江戸へのお荷の資料をじっと見ている)

T : じゃあ売ったら何が手に入る？

C 4 : お金。

T : そう、農民は、お米以外にも野菜や特産品を作って

商人に売ってお金を稼いでいたんやね。

そうやって、お米が足りない分、工夫して生活していたんよ。

C 5 : そっか〜。お金稼いでたんや。

T : そのほかにも色々なものを作って、売りお金を稼いでいました。

象徴事例 1 - (a)

江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) 農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた(eg)

FIGURE 20 象徴事例 1 - (a) の教授場面の児童の反応

C1、C2、C3の児童は、和歌山の特産品は知っているが、授業で各地の特産品を売り生活していたと学習しているのに、和歌山でも特産品を売って現金を得ていたこと理解できていないと思われる。T 1で資料を見て、具体的に説明したことにより、C5の児童の発言が出てきた。このことにより、象徴事例 1 - (a) を理解できたものと考ええる。

象徴事例 1 - (b) の教授場面

T : じゃあ次の絵を見てください。(農民の田畑の仕事の絵と休日の絵)

T : 気づいたことを発表して。

C 6 : たばこ吸ってる

C 7 : 鶏がいる。

T : これは、闘鶏といって鶏同志戦わせているんだよ。

C 8 : 腕相撲してる。

T : 他にない？左上の3人の男の人は？

C : なんか飲んでる。

C 9 : お酒飲んでる？

T : そうだねー。

象徴事例 1 - (b)

江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) たばこやお茶、お酒を飲んでいた(eg)

FIGURE 21 象徴事例 1 - (b) の教授場面の児童の反応

農民の田畑の仕事の絵と休日の絵を提示し、児童に「気づいたこと」を発表させることにより、農民の様子を意識して見るようになり、その絵が印象に残りやすくなった。具体物を目にすることで、象徴事例 1 - (b) の理解につながり、「不十分な認識」が修正されやすかったのではないかと考える。

命題 1 の教授場面

T : 農民って、たばこやお酒を飲んでよかったんやっけ？

C : いいんちゃう？

C10 : あっ、御触書で禁止されてるやん。

T : でもお酒飲んでるしタバコも吸ってる。なんでかな？

C11 : ……

FIGURE 22 命題 1 の教授場面の児童の反応

C10 の児童が「慶安の御触書」のことを気づき、資料との違いに疑問を持つことは、進藤・麻柄(2006) が明らかにしているように「意外感を与える象徴事例」としては、有効であったのではないかと考える。そして、「慶安の御触書」が出された本当の意味を理解し、命題 1 の理解の促進にもつながったと考えられる。

象徴事例 2 - (a) (b) の教授場面

T : みんな参勤交代って知ってる？

沈黙

T : えっ、知らんの？

C12 : 江戸幕府が大名に 1 年に一回、江戸に来させて、忠誠を誓わせて将軍を守る。

T : うん、ちょっと違うけど、だいたいあってるかな

T : 他にない？

沈黙

T : あれ？習ってない？

C13 : 詳しくは習ってない。

T : さらっと流れていった？

C14 : 参勤交代がでてきた、それだけ～

C15 : ちゃんとノートにも書いたって。

FIGURE 23 象徴事例 2－ (a) (b) の教授場面での児童の反応

この様子から児童は、「参勤交代」についての知識がほとんどないことがわかる。参観授業では、「参勤交代」について「幕府の政権維持」のためとしか学習していないので児童にはそれほど印象に残らなかったのではないかと考える。

象徴事例 2－ (c) の教授場面

T : 和歌山の大名行列だけで3000人やで。それが一番大きい行列としても、他に2000人とか1000人の大名行列とか、ほかに300もの藩が大名行列してる。みんな各地の宿場町に泊まる。そうすると各地の宿場町が繁栄する。儲かるってこと。

C16 : さらに儲かるなあ

この発言から、「児童は、宿場町は大名行列が泊まることにより、繁栄していた」ということを理解できたと思われる。

C17 : あっ！農民達が作ってるのを買いに行く？

C18 : 売るって言ってたし。

T : 黒板の図見て。大名行列があるから、五街道が整備されたやろ、街道沿いに茶店ができ、宿場町が繁栄して、商人が儲かって、農民もお金を稼ぐことができた。で、農民も稼いだお金で豊かに暮らしていた。

参勤交代があったから日本の経済が発展した。わかる？

FIGURE 24 象徴事例 2－ (c) の教授場面での児童の反応

C16 この発言から、「児童は、宿場町は大名行列が泊まることにより、繁栄していた」ということを理解できたと思われる。

C17、C18の発言は、「象徴事例 1－ (a)」を理解している発言であるといえる。

教師の説明と板書、江戸時代の社会のチャートを見せることにより、「武士」「町人」「農

民」のつながりを理解するとともに、日本の経済が発展したことを理解できたのではないかと考える。

[3] 研究授業による児童の認識の変化

ここでは、事後調査の結果とその考察を行う。

江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」によるイメージ（問1）や、参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ（問2）、江戸時代の社会の構造について（問3）、歴史学習に対する興味に関するアンケート（問4）の結果とその分析を示す。問題と目的の項で示した目標が達成されたかどうかを測定するために、事後課題調査を用意した。事前・事後調査を受けた29名の結果とその考察を行う。

なお、児童に配布した事後調査資料は、本論文のVI資料の項におさめてある。

1. 「不十分な認識」についての事後調査課題について

〈「不十分な認識」によるイメージの事後調査の結果とその分析〉

江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」によるイメージ（問1）や、参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ（問2）が、授業の事前と事後でどのように変化したかを調査した結果とその考察を示す。

問1. 江戸時代の武士、町人、農民に対する「不十分な認識」によるイメージ調査

（武士のイメージ）

まず、江戸時代の武士のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査（複数回答）について、事前と事後の結果をまとめたものをTABLE 25に示す。FIGURE 25は、その結果をイメージの項目ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ（贅沢・豪華、裕福、豊か、自由）とマイナスイメージ（辛い、苦しい、貧しい、不自由）に分け、その回答数の割合を表したものがFIGURE 26である。

FIGURE 26より武士に対するイメージは、事前調査では、プラスイメージが93%、マイナスイメージが7%であったが、事後調査では、プラスイメージが82%、マイナスイメージは18%であった。プラスイメージが大半を占めることに変わりはないが、マイナスイメージをあげる割合が事前調査よりも増加した。

また項目別にみても（FIGURE 25）、プラスイメージのなかでは「豊か」、「自由」の回答数は減少し、マイナスイメージのなかでは「辛い」の回答数が増加した。

TABLE 26 「不十分な認識」における調査課題（武士について）比較

武士のイメージ									
	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	15	17	9	11	2	2	0	0	0
事後調査	13	15	3	5	6	2	0	0	0

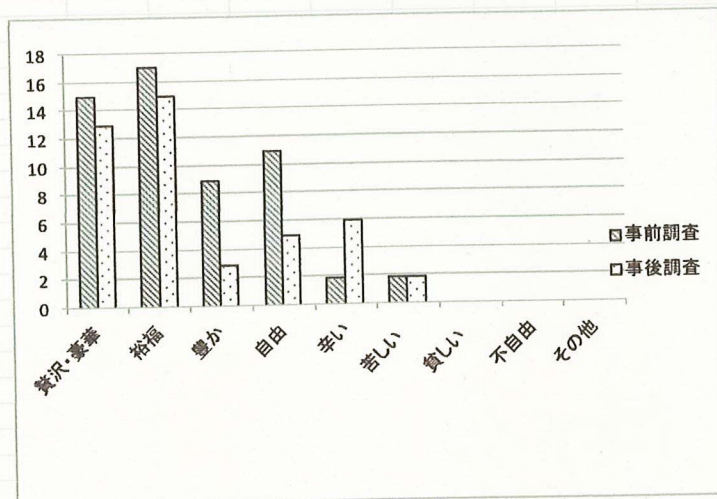


FIGURE 25「不十分な認識」における武士のイメージ（比較）

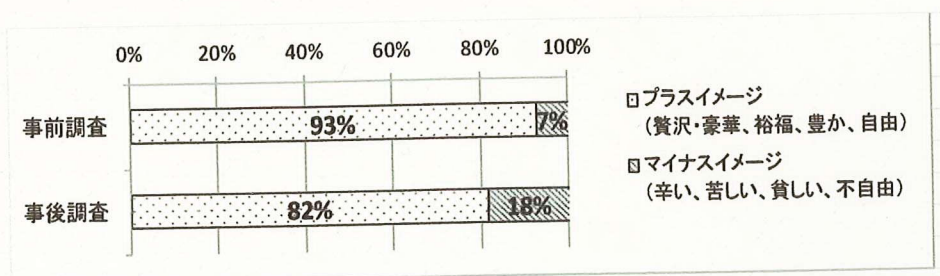


FIGURE 26 「不十分な認識」による武士のイメージ分け（比較）

<考察>

「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう？」の授業において、「武士は、年貢を取り立てた年貢米を売って優雅に生活していたのではなく、藩から給料をもらって生活していたことや、アルバイトをしていた武士もいたことなど、具体例を学んだことにより、武士の実際の生活が認識できるようになった結果が現れていると考えられる。しかし、依然、「武士の支配」や「身分制度」などのイメージから武士は優雅に暮らしているというイメージは、多く残っているものと考えられる。

(町人のイメージ)

次に江戸時代の町人のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査（複数回答）について、事前と事後の結果を TABLE 27 に示す。FIGURE 27 は、その結果をイメージの項目

ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ（贅沢・豪華、裕福、豊か、自由）とマイナスイメージ（辛い、苦しい、貧しい、不自由）に分け、その回答数の割合を表したものが FIGURE 28 である。FIGURE 28 より町人に対するイメージは、事前調査では、プラスイメージが75%、マイナスイメージが25%であった。事後調査では、プラスイメージが87%、マイナスイメージは13%であった。プラスイメージが大半を占めることに変わりはないが、プラスイメージをあげる割合が事前調査よりもさらに増加した。

また FIGURE 27 において項目別にみても、プラスイメージのなかでは「裕福」、「自由」の回答数は増加した。一方、マイナスイメージのなかでは「貧しい」、「不自由」の回答数は減少し、事後調査においては「貧しい」、「不自由」の回答数は0となった。

TABLE 27 「不十分な認識」における調査課題（町人について）比較

町人のイメージ									
	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	3	14	17	7	5	1	5	3	0
事後調査	1	16	13	9	4	2	0	0	0

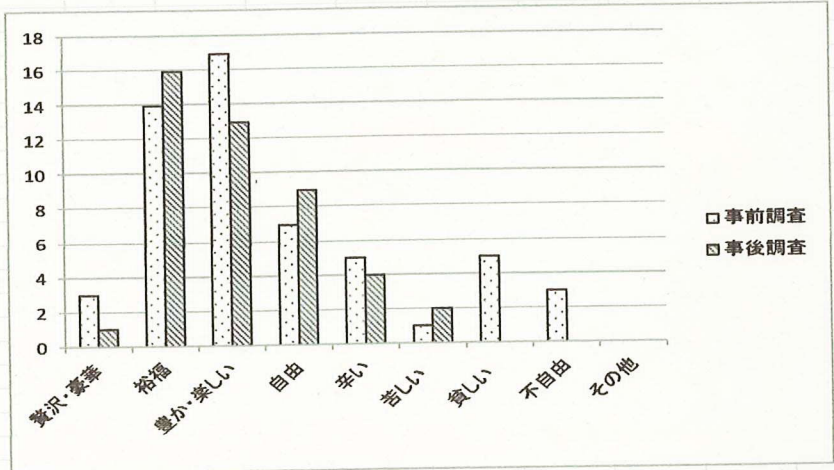


FIGURE 27「不十分な認識」における町人のイメージ（比較）

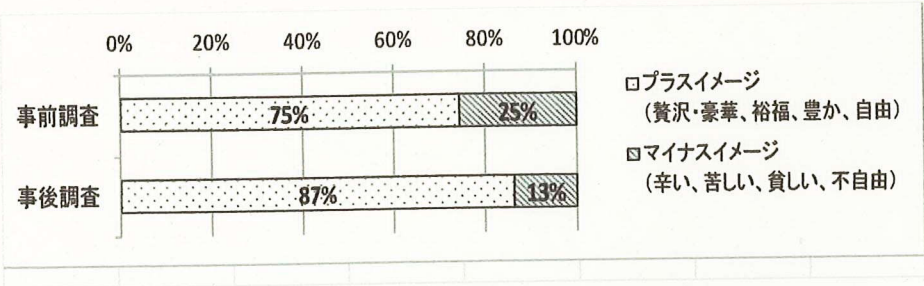


FIGURE 28 「不十分な認識」による町人のイメージ分け（比較）

<考察>

「江戸時代」ってどんな時代だったのだろうか?」の授業において、町人や商人は、大名行列が宿場町などに宿泊することによりお金を稼いでいたということを理解したことから、貧しいという回答が0人になったものと考えられる。教科書記述においても、町人は、それほど武士からの支配が強いという記述もなく、町人も税金を払っていたことにも触れていないので、事前調査でもプラスイメージが大半を占めているので、事後調査においてもそれほど変化はなかったと考えられる。

(農民のイメージ)

江戸時代の農民のイメージに当てはまる語句に○を付ける調査(複数回答)について、事前と事後の結果をTABLE 28に示す。FIGURE 29は、その結果をイメージの項目ごとの棒グラフに表したものである。また設問の項目を、プラスイメージ(贅沢・豪華、裕福、豊か、自由)とマイナスイメージ(辛い、苦しい、貧しい、不自由)に分け、その回答数の割合を表したものがFIGURE 30である。

FIGURE 29、FIGURE 30よりわかるように、農民に対するイメージは、授業の事前・事後で大きく変化した。事前調査では、農民に対してプラスイメージをあげる回答は全く見られなかったが、事後調査では、プラスイメージが56%、マイナスイメージが44%とプラスイメージが過半数を超える結果となった。

特に、「豊か」、「裕福」というプラスイメージの回答数が顕著に増加した。マイナスイメージのなかでは「苦しい」、「不自由」の回答数は著しく減少し、「貧しい」の項目も減少がみられ、江戸時代の農民に対するイメージが授業により明らかに転換したことが伺える。自由記述でも事後調査では「農民もたばこやお酒を飲んでいることに驚いた」「休日があり、休みは、自由に過ごしていたことを初めて知った)」など事前調査ではみられなかった回答が多く確認できた。

TABLE 28 「不十分な認識」における調査課題（農民について）比較

農民のイメージ									
	贅沢・豪華	裕福	豊か	自由	辛い	苦しい	貧しい	不自由	その他
事前調査	0	0	0	0	10	15	18	13	0
事後調査	1	8	14	2	7	3	7	3	0

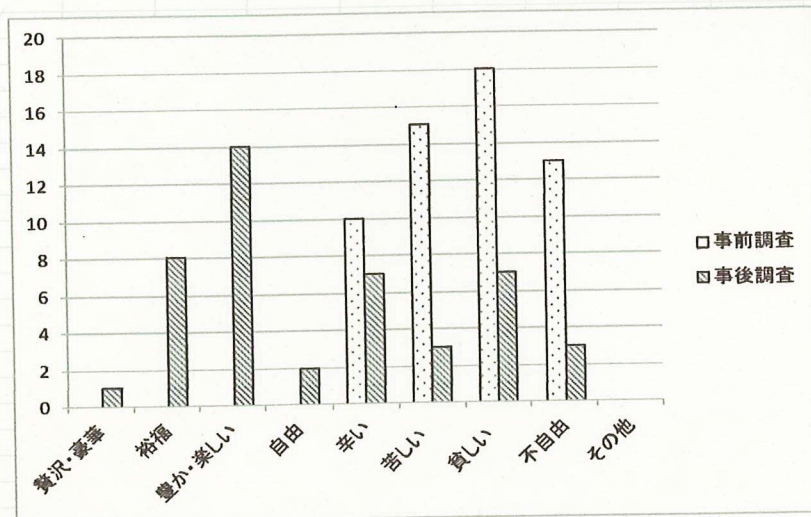


FIGURE 29 「不十分な認識」における農民のイメージ（比較）

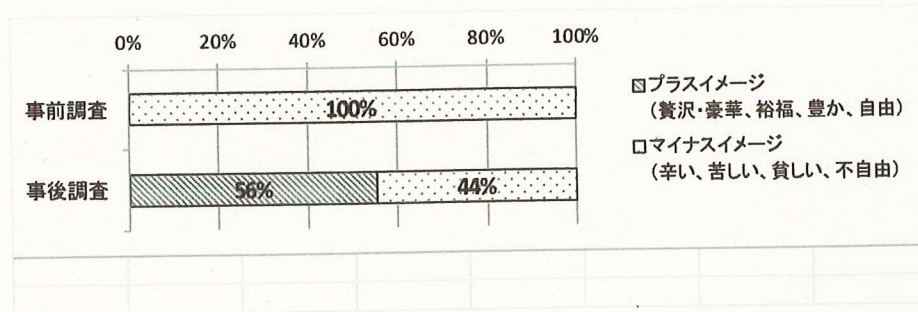


FIGURE 30 「不十分な認識」による農民のイメージ分け（比較）

<考察>

「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう?」の授業において、画一的なイメージしか持たれていなかった農民の実生活の一端が具体的に認識された結果と考えられる。実際に江戸時代の農民の絵（資料）を目にすることにより、農民の「辛い、苦しい、貧しい」というイメージが一新されたと考えられる。

FIGURE 31 に、事前・事後調査の各項目ごとに回答者数を、武士・町人・農民あわせてまとめた結果を示す。

授業の事前と事後を比較すると、全体として「苦しい」、「貧しい」「不自由」といったマイナスイメージの項目の回答数が減少し、「裕福」、「豊か」といったプラスイメージの項目の回答数が増加した。この変化は農民に対するイメージの変化によるところが大きい。

「豊か」のイメージは、事前調査では武士、町人に対してあげられていたが、授業後の調査では武士、町人の回答数は減少し農民に対するイメージとしてあげられるようになった。対する「貧しい」イメージは、事前調査では町人、農民に対して持たれていたが、事後調査では農民のイメージで減少した回答数の結果となった。武士、町人は豊かではないと捉えられても貧しいとはならず、農民は貧しくはなく豊かだという認識に変化していることが見受けられる。「自由」と「不自由」のイメージについても、同様の傾向がみられる。

「辛い」イメージの項目では、武士の回答数が増加し、町人、農民の回答数が減少する結果となった。

プラスイメージが大多数を占めていた武士は、事後調査ではマイナスイメージが増加し、マイナスイメージの回答しかなかった農民は、事後調査では多くのプラスイメージが持たれるようになった。「不十分な認識」により偏ったイメージを持っていた武士や農民に対して、それぞれ逆の視点からの認識も加えられるようになったと判断できる。

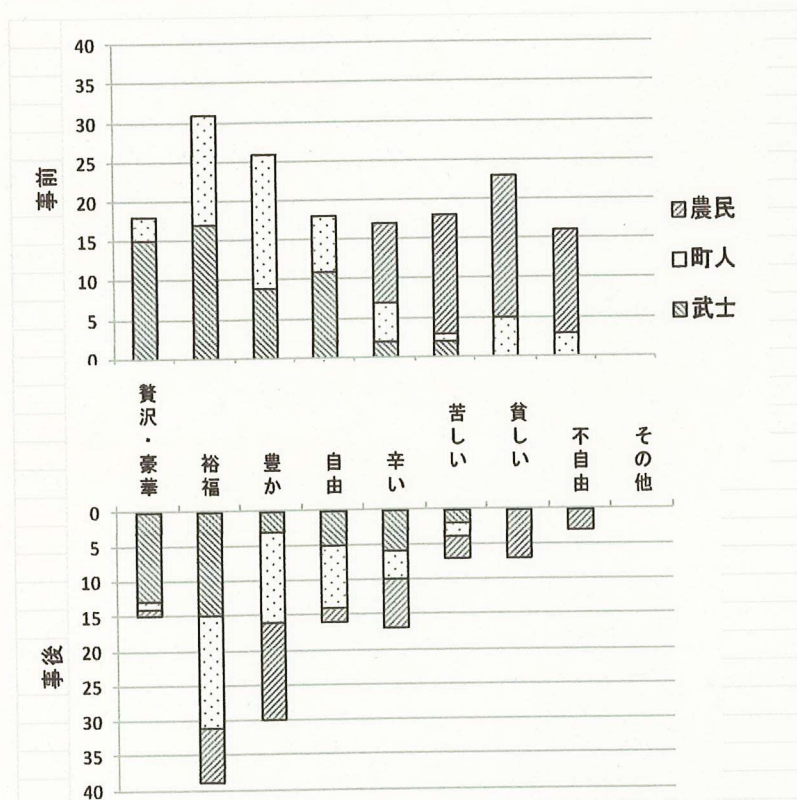


FIGURE 31 武士・町人・農民のイメージ

問2. 参勤交代制度における「不十分な認識」によるイメージ調査

参勤交代において誰が得をしたのか該当するものに○を付ける調査（複数回答）について、事前と事後の結果をまとめたものを TABLE 29 に示す。その結果を項目ごとの棒グラフに表したものが FIGURE 32 である。

TABLE 19 および FIGURE 32 より、事前調査では参勤交代で得をしたのは「江戸幕府」について「大名」、「武士」があげられ、ごく少数が「町人」、農民は得をしていないという「不十分な認識」がなされていたことが確認できる。授業の事後調査では、その回答は「農民」、「町人」が上位にあげられた。「江戸幕府」や「大名」、「武士」の回答数は減少し、また「分からない」という回答も事後調査ではなくなった。授業前では、参勤交代の制度的な「得」のみが認識され、「江戸幕府」の回答が多かったものと考えられるが、事後調査においては、参勤交代に関する具体的な理解が進み、実際の物流などの観点が追加され金銭的に農民や町人が「得」をしたとの認識できる児童が増加し、「不十分な認識」が修正されたものと考えられる。

TABLE 29 参勤交代制度の利得課題

参勤交代で得をしたのはだれか						
	江戸幕府	大名	武士	町人	農民	分からない
事前調査	19	10	4	1	0	3
事後調査	7	4	2	14	16	0

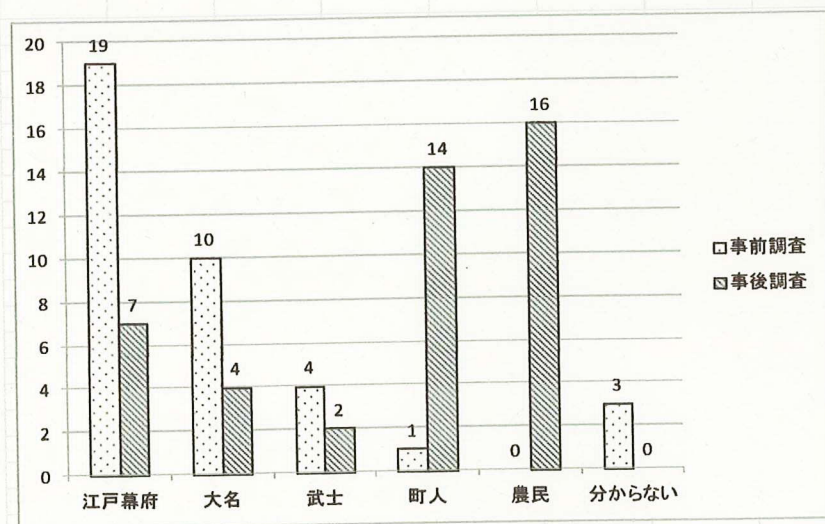


FIGURE 32 参勤交代制度の利得課題

○問3は、江戸時代の社会の構造について、江戸時代の武士、町人、農民の生活や暮らしの理解や象徴事例や命題、さらに命題間の構造的理解が授業後にどのように変化したのか調査するための課題である。

※問題それぞれ、5段階で（そうである 多分そうだ ～ そうではない）の当てはまる自分の考えに○を付ける問題である。

以下に、事前調査と事後調査の結果と考察を示す。また、参考までに行った McNemar 検定の結果も各調査に示す。

事前課題1「江戸時代の武士は、農民から取り立てた年貢米を売ったりして生活していた。」と、事後課題1「給料の少ない下級武士は、生活のためにいろいろな仕事をして生活していた。」を分析する。結果を TABLE 30 と FIGURE33 に示す。研究授業において、武士は、農民から年貢米を徴収してそれを売り生活をしているのではなく、大半の武士は、給料制であったことを説明した。そのことを理解できていれば、「事後課題1」に正答を選択できると考える。FIGURE33 より、事前の正答数は、10人（34%）であった。事後の正答数は、23人（79%）であった。

また、McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた（ $\chi^2=11.9, p<.01$ ）。

この結果から授業で教授した武士の日常の生活や、暮らしが理解できたと思われる。

TABLE 30 〈武士の生活についての理解の調査課題〉

1. 〈武士の生活についての理解の調査課題〉					
事前課題1。江戸時代の武士は、農民から取り立てた年貢米を売ったりして生活していた。					
	していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
事前	4人	12人	3人	9人	1人
事後	13人	10人	4人	1人	1人

事後課題1。給料の少ない下級武士は、生活のためにいろいろな仕事をして生活していた。

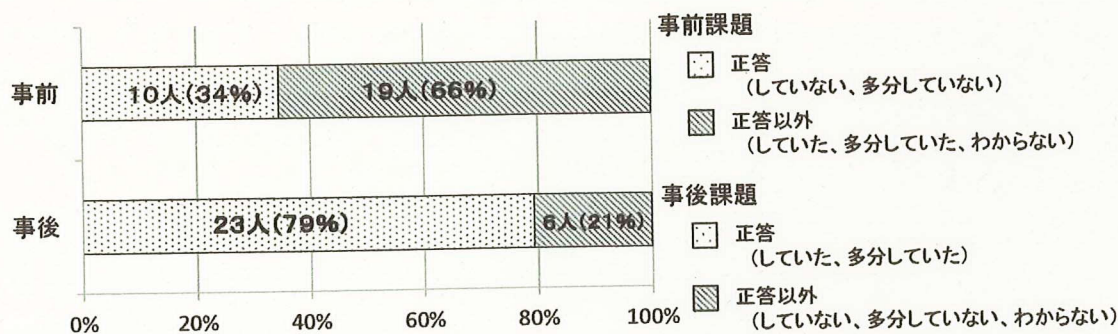


FIGURE 33 〈武士の生活についての理解の調査課題〉正答・正答以外比較

事前課題2は、武士の支配の中で農民の立場をどれだけ理解できているかの調査であり、授業後に事後課題2の回答がどのように変化したかを比較することにより、武士と農民の関係や立場を問う課題である。

FIGURE 34 より、事前の正答数は、1人(3%)であった。事後の正答数は、13人(45%)であった。事前に比べると正答数は増加したものの45%と正答率は十分とは言えなかった。農民は「強制的に働かされていた」という間違った理解が改善されたとしても、逆らったり反抗したりすることまではできなかったと考えていると思われる。

また、McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた($\chi^2=9.6, p<.01$)。

TABLE 31 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉

2. 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉					
事前課題2. 江戸時代の農民は、武士の厳しい支配の中で、毎日、田畑などで働かされていた					
	そうだ	多分そうだ	わからない	多分そうでない	そうでない
事前	2人	6人	0人	1人	0人
事後	7人	6人	3人	8人	5人
事後課題2. 江戸時代の農民は、厳しい年貢の取り立てや、慶安の御触書に書かれていることに、逆らったり、反抗したりできなかった					

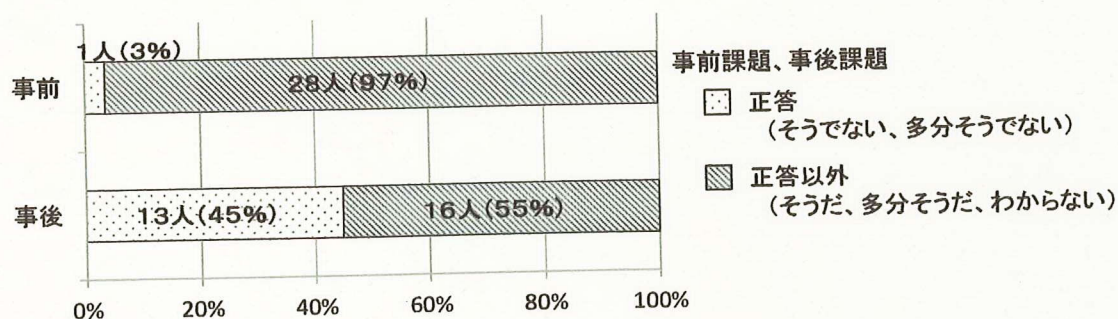


FIGURE 34 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉正答・正答以外比較

FIGURE 35 より、事前課題3の正答数は、4人(14%)であった。事後課題3の正答数は、22人(76%)であった。研究授業において、具体的に「農民の田畑の仕事の絵と休日の絵」を示したことにより、事後課題3において正答率が大幅に上がったと考えられる。しかし、正答以外を回答した児童が7人(24%)いることから、授業の中でもう少し授業者が、農民の休日に触れる言葉がけが必要だったのではないかと考える。また、McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた($\chi^2=13.1, p<.01$)。

TABLE 32 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の休日）〉

3. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の休日）〉					
事前課題3. 江戸時代の農民は、休日や長期の休みなどがあった。					
	あった	たぶんあった	わからない	たぶんなかった	なかった
事前	1人	3人	1人	4人	20人
事後	14人	8人	1人	4人	2人
事後課題3. 江戸時代の農民は、休日や長期の休みなどがあった。					

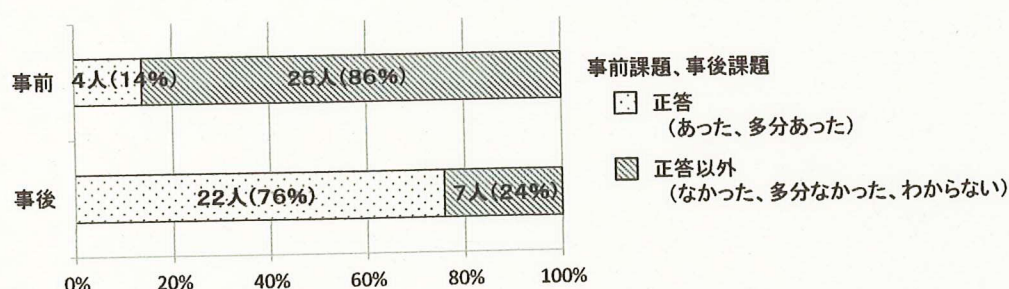


FIGURE 35 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の休日）〉 正答・正答以外比較

4の課題は、命題1「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。」の象徴事例1－(b)の理解を調べる課題である。FIGURE36より、事前課題4の正答数は1人（3%）であった。これは、「慶安の御触書」の内容にもある禁止事項であるが、児童は、農民は、身分制度ができた当初に禁止されたものと考えているため、この回答結果につながったものだと考える。しかし、実際「慶安のお触書」は農民の生活するための指南書のようなものだったことや、また、武士の年貢米の徴収量が下がないために出したものであることを、授業の中で述べ、事後課題3と同じように「農民の田畑の仕事の絵と休日の絵」を再度示した。その結果、事後課題4の象徴事例1－(b)〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉では、正答数が24人（83%）となり、事後課題4の象徴事例1－(b)の理解度が大幅に上がったと考えられる。また、また、McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた（ $\chi^2=21.0, p<.01$ ）。

TABLE 33 象徴事例 1－(b) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉

4. 象徴事例 1－(b) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉

事前課題 4. 江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでた。

	していた	多分していた	わからな	多分していない	していない
事 前	0人	1人	0人	9人	19人
事 後	20人	4人	0人	3人	2人

事後課題 4. 江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでた。

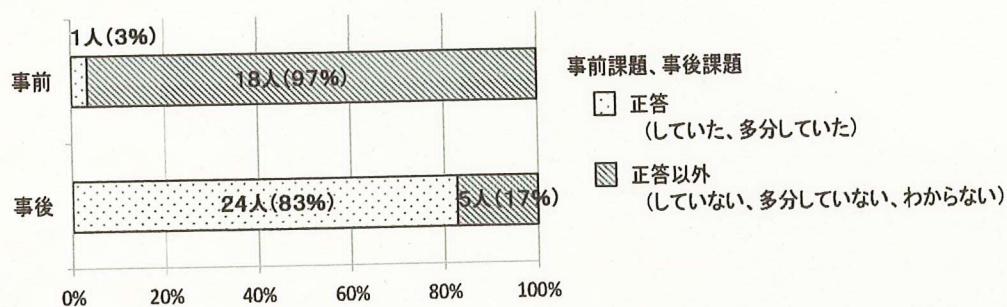


FIGURE36 象徴事例 1－(b) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉 正答・正答以外比較

TABLE 34 より、事前課題 5 で「していた」「多分していた」と答えた児童は、14人（48%）であった。約半数の児童は、現金収入があったと考えている。事後課題 5 より、農民は現金収入があり、その中で、「お金持ちになる農民もいた」と回答する児童は、19人（66%）いた。同じように FIGURE 37 より、事前課題 5 で約半数の児童は正答を出している。しかし、他の半数の児童は、現金収入がないと考え、これが、「農民は貧しい生活をしている」という考えに繋がると考えられる。事後課題 5 で、授業内で、「農民は現金収入があった」と教授したものの、児童は、「「お金持ちになるほどではない」と考えたため正答数が19人（66%）にとどまったと考えられる。

TABLE34 象徴事例 1－(a) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）〉

5. 象徴事例 1－(a) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）〉

事前課題 5. 〈農民の現金収入〉江戸時代の農民は作った野菜やお米を売ってお金を稼いでいた

	していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
事 前	7人	7人	2人	9人	4人
事 後	11人	8人	5人	3人	2人

事後課題 5. 江戸時代の農民の中には、いろいろな商売を始めお金持ちになる農民もいた。

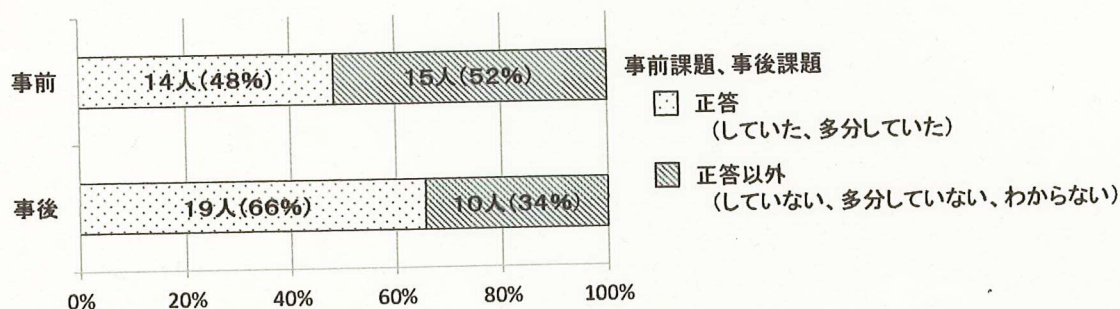


FIGURE37 象徴事例1－(a) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の現金収入）〉 正答・正答以外比較

FIGURE 38 より事前課題7の正答数は20人（69％）であった。ほとんどの児童は、町人は商人や農民から商品を仕入れていると考えている。事後課題6の正答率は、7人（24％）であった。この課題は、町人がどこから商品を手に入れているかの調査をするとともに、町人と農民は、野菜や特産品の売買だけの関係ではなく、いろいろな関わり合いの中で生活していたことなど、江戸時代の社会の構図や人とのつながり理解させるための課題であったが、授業内でも詳しく説明をしていないことから、事後課題6は、理解されなかったと思われる。

TABLE 35 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉

6. 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉					
事前課題7. 江戸時代の町人は、商人や農民から商品を買っていた					
	いたと思う	多分いたと思う	わからない	多分いないと思う	いないと思う
事前	11人	9人	4人	4人	1人
事後	4人	3人	5人	11人	6人
事後課題6. 宿場町がいそがしいときは近くの農民が手伝いに行った					

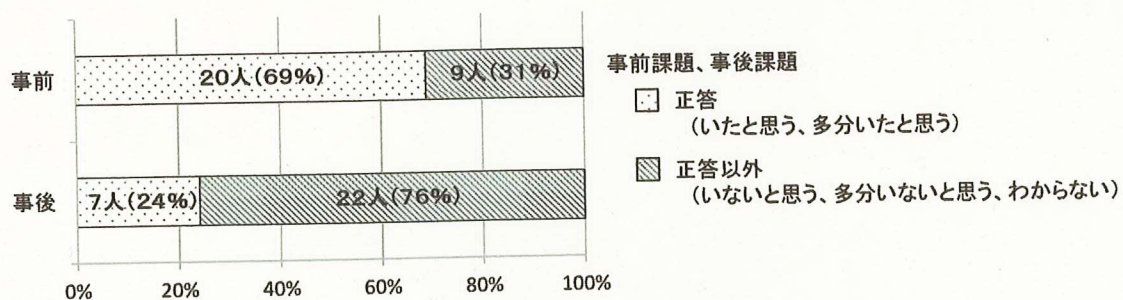


FIGURE 38 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉 正答・正答以外比較

TABLE36 より、「していた」と回答した児童は3人、「多分していた」と回答した児童は6人だった。「わからない」と回答した児童は、6人だった。「多分していない」と回答した児童は7人、「していない」と回答した児童は7人だった。(農民の暮らし) 課題については、回答に偏りが無い。これは、「農民の暮らし」の単元で、ある児童は年貢を収めることや身分制度、慶安の御触書の内容が印象に残り、ある児童は、新田開発、特産品の生産という項目が印象に残っていることが回答にばらつきがでたのではないかと考える。

FIGUR 39 より、事前課題6の正答数は9人(31%)であった。事後課題7の正答数は25人(86%)であった。正答率が大幅に上がった。また、McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた($\chi^2=14.0, p<.01$)。

TABLE36 命題1の理解〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の暮らし)〉

7. 命題1の理解〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の暮らし)〉					
事前課題6. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。					
	していた	多分していた	わからない	多分していない	していない
事前	3人	6人	6人	7人	7人
事後	20人	5人	1人	3人	0人
事後課題7. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。					

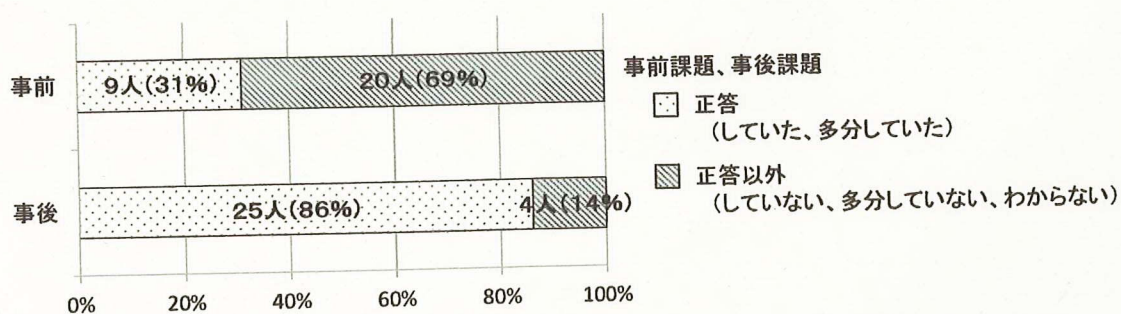


FIGURE39 命題1の理解〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の暮らし)〉正答・正答以外比較

FIGURE 40 より、事前課題8の正答数は、10人(34%)であった。この結果より、武士の支配がとても強いと考える児童が多いことがわかる。事後課題8の正答数は、16人(55%)であった。この2つの課題は、武士と町人の関係を捉える課題として回答してもらった。武士の支配が強くても、武士はサービスを受けるときにはお金を払わなくてはいけなし、町人の中には、大儲けをして、武士や大名よりもお金持ちになるものもいたことを理解できたかを問う課題であった。しかし、武士でもサービスを受けるとお金を払わなければならないことを理解できたとしても、「大名よりも力を付けるものもい

た」という内容までは、理解できなかったと考える。しかし教科書にも、「大名よりも力を付けるものもいた」という記述はあるにもかかわらず正答率はあがらなかった。

TABLE37 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉

8. 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉

事前課題8. 武士が町人のお店で食事をしたり、宿泊したりするのに、お金を払わなくてよかった

	そうだ	多分そうだ	わからな	多分そうでない	そうでない
事前	5人	7人	7人	7人	3人
事後	8人	8人	9人	4人	0人

事後課題8. 商人や町人は、大名や武士、他の町人や農民に商品を売り、お金を儲け、大名よりも力をつける商人がいた。

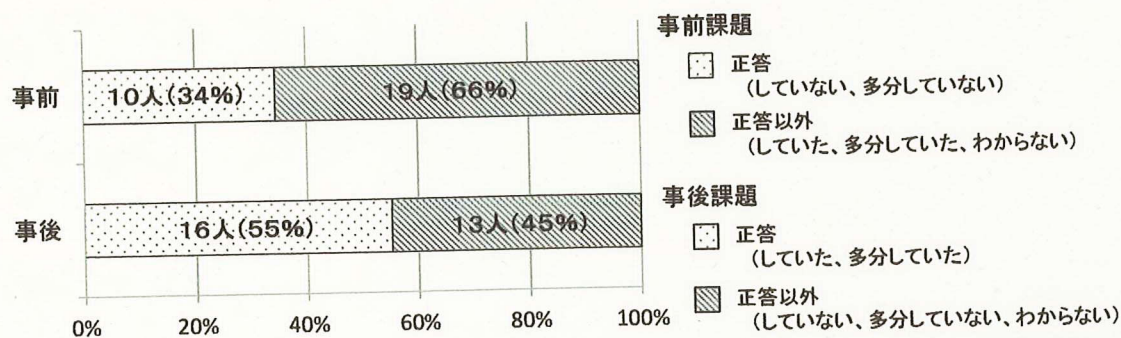


FIGURE 40 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉 正答・正答以外比較

FIGURE 41 より、事後課題9の正答数は21人（72％）であった。この課題は、命題1（事前課題6）「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。」と命題2（事前課題9）「徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。」の構造が理解できたかを問う課題として設定した。72％の児童は、構造が理解できたと考えられる。

TABLE 38 〈命題1と命題2の構造化についての理解度調査課題〉

事後課題9. 江戸時代の農民は、参勤交代制度の大名行列のおかげで豊かな生活ができたと思う

9. 〈命題1と命題2の構造化についての理解度調査課題〉

そうだ	多分そうだ	わからな	多分そうでない	そうでない
15人	6人	3人	3人	2人

事後課題9. 江戸時代の農民は、参勤交代制度の大名行列のおかげで豊かな生活ができたと思う

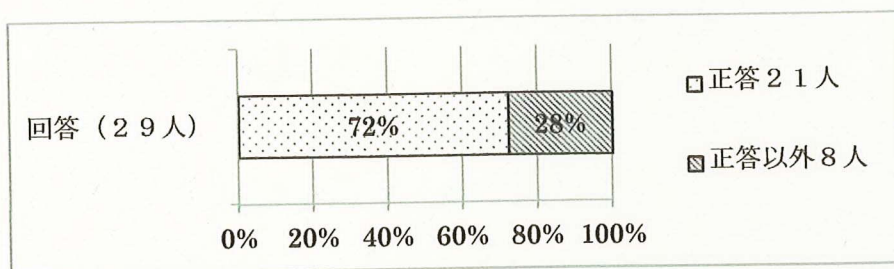


FIGURE 41 〈命題1と命題2の構造化についての理解度調査課題〉正答・正答以外比較

FIGURE 42 より、事後課題8の正答数は、26人(90%)であった。大多数の児童は、理解できたと考える。もちろん参勤交代制度が施行される前にも街道はあったが、特に五街道においては、江戸幕府が整備を命じている。授業内で、大名行列が通るので整備されたことを教授したことが、事後課題10の〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉の正答率が高くなった理由の一つにも挙げられると考えられる。

TABLE 39 〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉

10. 〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、) 大名行列が五街道を整備させた。

そうだ	多分そうだ	わからな	多分そうでない	そうでない
20人	6人	2人	0人	1人

事後課題10. 参勤交代制度により五街道や各地の街道が整備され日本の物資の流通が便利になった。

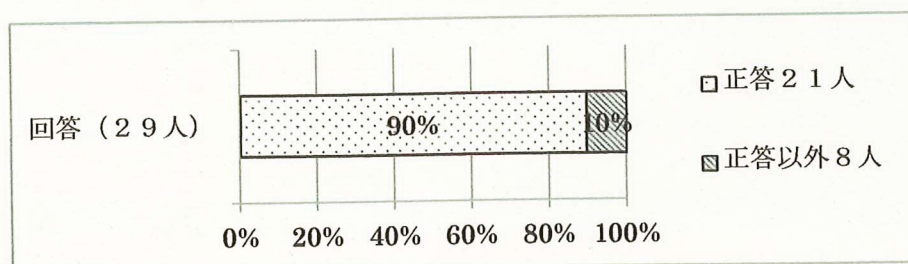


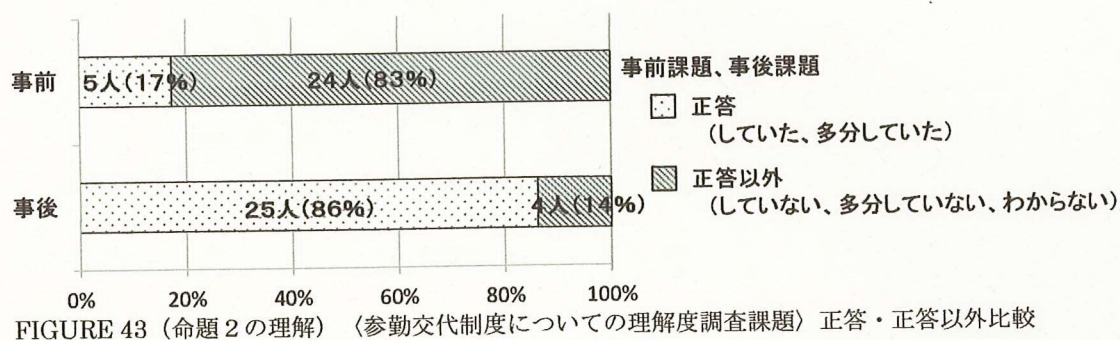
FIGURE 42 〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉正答・正答以外比較

FIGURE 43 より、事前課題9の正答数は5人(17%)であった。事後課題11の正答数は、25人(86%)であった。正答率が、大幅にあがった。これは、事後課題10の〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉「大名行列が五街道を整備させた。」の象徴事例が児童に受け入れられたため、事前課題9の「徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。」という命題2の理解に及んだものと考えられる。また、

McNemar 検定を行ったところ、事前の正答者の割合に比べ、事後の正答者の割合が有意に増加していた($\chi^2=18.0, p<.01$)。

TABLE 40 (命題2の理解) 〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉

11. (命題2の理解) 〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉					
事前課題9. 徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。					
	発展させた	多分発展させた	わからない	多分発展させていない	発展させていない
事前	0人	5人	17人	3人	4人
事後	18人	7人	3人	1人	0人
事後課題11. 徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。					



まとめ

1. 〈武士の生活についての理解の調査課題〉について、児童は、概ね武士の生活が理解できたものと考えられる。
2. 〈武士と農民の関係の理解調査課題〉について、事前課題1より、農民は武士に強制的に働かされていたという理解が大多数であった。事前課題2で「農民は武士に逆らったり反抗したりした」という課題で「逆らう・反抗」という表現が、児童は「そこまではできなかったのではないかと」考え、正答率が約半数にとどまったと考えられる。事後課題2の内容を吟味する必要がある。
3. 〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の休日)〉について、事前課題3の正答率は14%であった。事後課題3の正答率は76%あった。76%の児童は「江戸時代の農民に休日はあった」と理解できた。
4. 象徴事例1-(b) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の娯楽)〉について、事前課題4の正答率は3%であった。事後課題4の正答率は83%あった。具体的な資料を見せることにより、「慶安の御触書」に対する「不十分な認識」が修正されたと考えられる。

5. 象徴事例1－(a)〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の現金収入)〉について、授業内で、「農民は現金収入があった」と教授したものの、児童は、「お金持ちになるほどではない」と考えたため正答率が66%にとどまったと考えられる。
6. 〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉について、事前・事後課題は、農民と町人の関係性を理解したかを調査する課題であったが、事前課題と事後課題の内容がかけ離れすぎて児童には理解されなかったと考える。また、授業内でも説明が不十分であった。
7. 命題1の理解〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の暮らし)〉
事前課題6の正答率は31%であった。事後課題7の正答率は86%であった。正答率が大幅に上がった。象徴事例1－(b)〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の娯楽)〉を理解した結果、命題1の理解が促進され、農民は「貧しく苦しい生活をしていた」という「不十分な認識」が修正されたと考える。
8. 〈武士と町人の関係の理解調査課題〉より、事前課題8の正答率は、34%であった。事後課題8の正答率は、55%であった。事後課題8の正答率が約半数にとどまったのは、事後課題8の内容が、事前課題8の内容から、発展しすぎた内容になったからだと思われる。事後課題8の内容に問題があった。
9. 〈命題1と命題2の構造化についての理解度調査課題〉より、事後課題9の正答率は72%であった。この課題は、命題1(事前課題6)「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。」と命題2(事前課題9)「徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。」の構造が理解できたかを問う課題として設定した。72%の児童は、構造が理解できていると考えられる。
10. 〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉より、「授業内で、大名行列が通るので整備されたことを教授したことが、事後課題10の〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉の正答率が高くなった理由の一つにも挙げられると考えられる。
11. (命題2の理解)〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉より、正答率が大幅に上がった理由について、事後課題10の〈象徴事例2－(a)の理解度調査課題〉を受け入れたためだと考えられる。

4. 〈歴史学習意欲についての事前・事後調査の結果と考察（問4）〉

その結果と考察を以下に示す。また、各課題に対して「思う」に1点～「思わない」に5点のように各評定ごとに点数を与え得点化し事前回答と事後回答を比較し、平均値の伸びを調べた。

1. 「歴史を勉強することが好きだ。」への回答について

FIGURE 44 より、事前調査では「好きだ」「まあ好きだ」が8人、「どちらでもない」が6人、「あまり好きでない」「好きでない」が15人となった。事後調査では、「好きだ」「まあ好きだ」が15人、「どちらでもない」が12人、「あまり好きでない」「好きでない」が2人となった。「好きだ」「まあ好きだ」と回答した児童は8人から約半数の15人に増加した。特に結果に違いがはっきりでたのが、「あまり好きでない」「好きでない」の回答である。事前調査では、約半数の児童が「あまり好きでない」「好きでない」と回答したが、事後調査では、2人に減少した。これは、研究授業において象徴事例を用いることにより「江戸時代の社会の構造」を具体的に理解できたことで、2つの命題の理解を促進した結果ではないかと考えられる。自由記述においても、「江戸時代の人々の生活の様子があった」「農民は貧しく苦しい生活ばかりしていたのではないことを意外に思った」「いろいろ新しいことがわかって楽しかった」などの記述が見られた。

事前回答の平均値は 3.14 (SD=1.27) 事後回答の平均値は 2.31(SD=0.93)と有意な伸びが認められた ($t=4.04, df=28, p<.01$)。

TABLE 41 歴史学習についての好き嫌い調査結果

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	4	4	6	9	6
事後回答数(人)	7	8	12	2	0

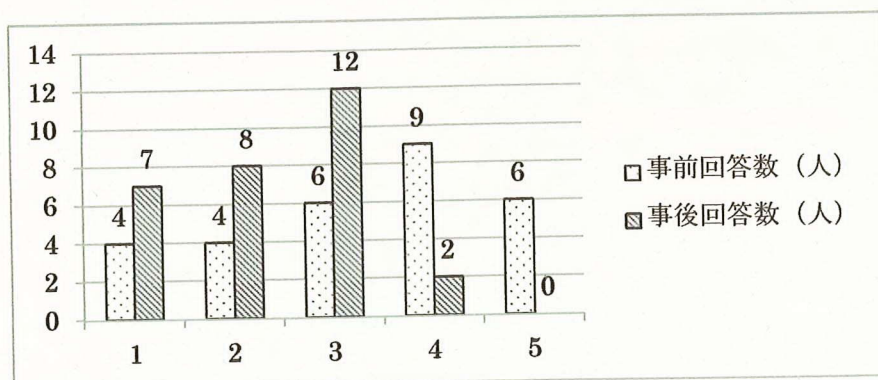


FIGURE 44 歴史学習についての好き嫌い調査結果

2. 「学校で習った歴史の背景を自分で調べようと思う。」の回答について。

FIGURE 45 より事前調査では「思う」「まあ思う」が9人、「どちらでもない」が6人、「思わない」「あまり思わない」が14人となった。事後調査では、「思う」「まあ思う」が11人、「どちらでもない」が10人、「あまり思わない」「思わない」が14人となった。「あまり思わない」「思わない」が、14人から8人に減少した。象徴事例を紹介したことで、授業では知らなかったことを象徴事例として紹介することにより、少しぐらいは調べてみようかという気持ちが芽生えたのではないか。しかし、「思う」が6人から2人へと減少している。この理由としては、象徴事例のように、詳細に調べるにはどうしたらいいか分からない(調べ学習の難しさ)と考えたのではないかと思う。

事前回答の平均値は 3.21 (SD=1.47) 事後回答の平均値は 2.93(SD=1.10)と有意な伸びは確認されなかった ($t=1.49, df=28, n.s$)。

TABLE 42 歴史の背景調べ調査結果

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	6	3	6	7	7
事後回答数(人)	2	9	10	5	3

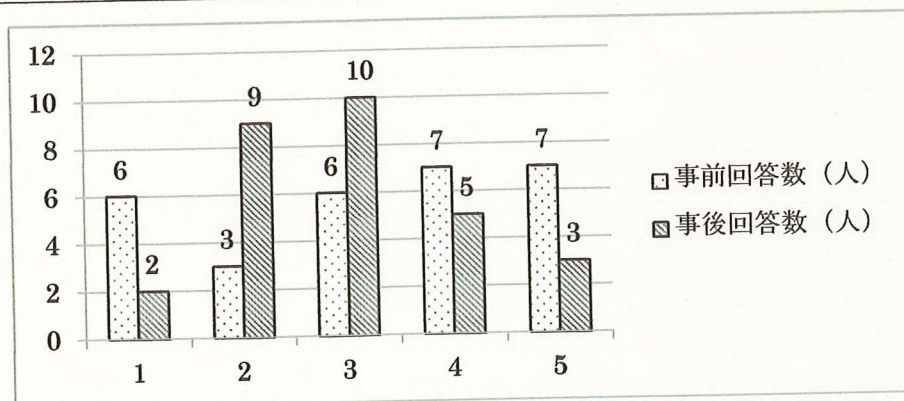


FIGURE 45 歴史の背景調べ調査結果

3. 「テストがなければ歴史は学びたくないと思う。」の回答について。

FIGURE 46 より、事前調査では、「思う」「まあ思う」が10人、「どちらでもない」が7人、「思わない」「あまり思わない」が12人であった。事後調査では、「思う」「まあ思う」が6人、「どちらでもない」が9人、「思わない」「あまり思わない」が14人であった。事後回答を見ても顕著な変化はみられなかった。

事前回答の平均値は 3.24 (SD=1.30) 事後回答の平均値は 3.52(SD=1.24)と有意な伸びは確認されなかった ($t=1.54, df=28, n.s$)。

TABLE 43 歴史とテストの有無についての調査結果

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	2	8	7	4	8
事後回答数(人)	1	5	9	5	9

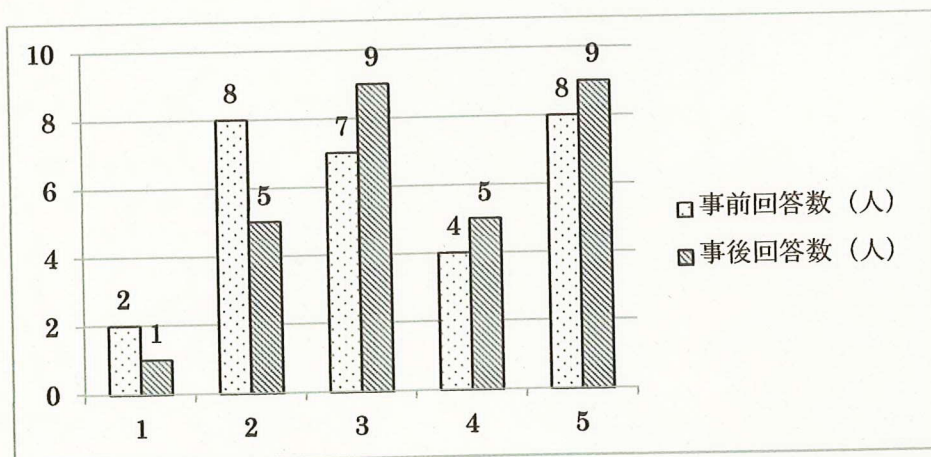


FIGURE 46 歴史とテストの有無についての調査結果

4. 「なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思う」の回答について。

FIGURE 47 より、事前調査では「思う」「まあ思う」が 9 人、「どちらでもない」が 5 人、「思わない」「あまり思わない」が 15 人であった。約半分の児童が、「なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思わない」という結果になった。事後調査では「思う」「まあ思う」が 12 人、「どちらでもない」が 5 人、「思わない」「あまり思わない」が 12 人となった。研究授業後においても、顕著な変化はみられなかった。

事前回答の平均値は 3.21 (SD=1.37) 事後回答の平均値は 3.07(SD=1.38)と有意な伸びは確認されなかった ($t=.63, df=28, n.s$)。

TABLE 44 歴史的事象に対する興味調査

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	5	4	5	10	5
事後回答数(人)	4	8	5	6	6

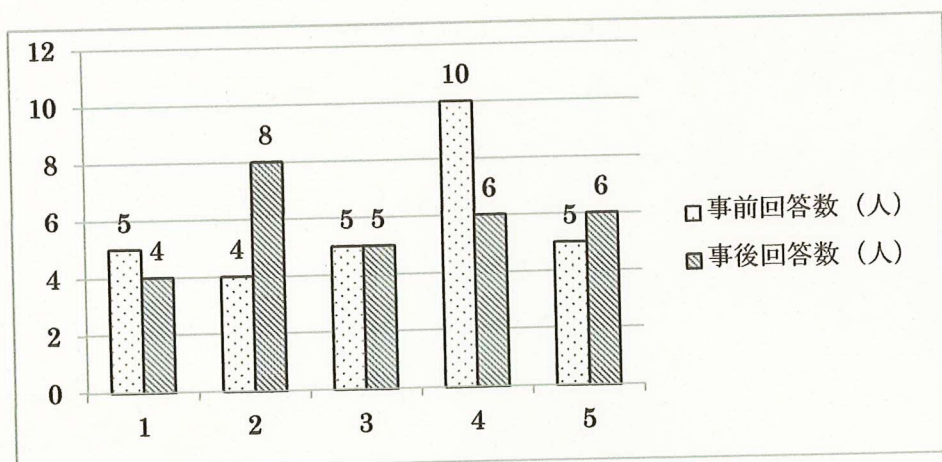


FIGURE 47 歴史的事象に対する興味調査

5. 歴史上の人物の生涯（生まれてから死ぬまで）を知るために伝記（本）などを読もうと思う。

FIGURE 48 より「思う」「まあ思う」が8人、「どちらでもない」が2人、「思わない」「あまり思わない」が19人であった。「思わない」「あまり思わない」が19人という結果になったのは、読書があまり好きでない児童も含まれるのではないかと考える。事後回答においても顕著な変化は見られなかった。

事前回答の平均値は 3.55 (SD=1.57) 事後回答の平均値は 3.21(SD=1.42)と有意な伸びは確認されなかった ($t=1.78, df=28, n.s$)。

TABLE 45 歴史に関する本への興味課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	6	2	2	8	11
事後回答数(人)	5	5	4	9	6

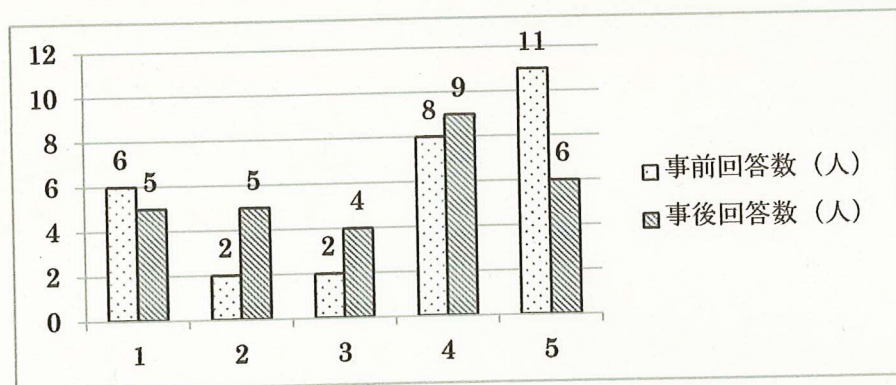


FIGURE 48 歴史に関する本への興味課題

6. 事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思う。

FIGURE 49「思う」「まあ思う」が7人、「どちらでもない」が6人、「思わない」「あまり思わない」が16人であった。約半数の児童が「事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思わない」という結果になった。授業後の事後回答においても顕著な変化は見られなかった。

事前回答の平均値は 3.52 (SD=1.35) 事後回答の平均値は 3.14(SD=1.50)と有意な伸びは確認されなかった ($t=1.58, df=28, n.s$)。

TABLE 46 歴史的事象後の影響に対する興味課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	3	4	6	7	9
事後回答数(人)	5	7	4	5	8

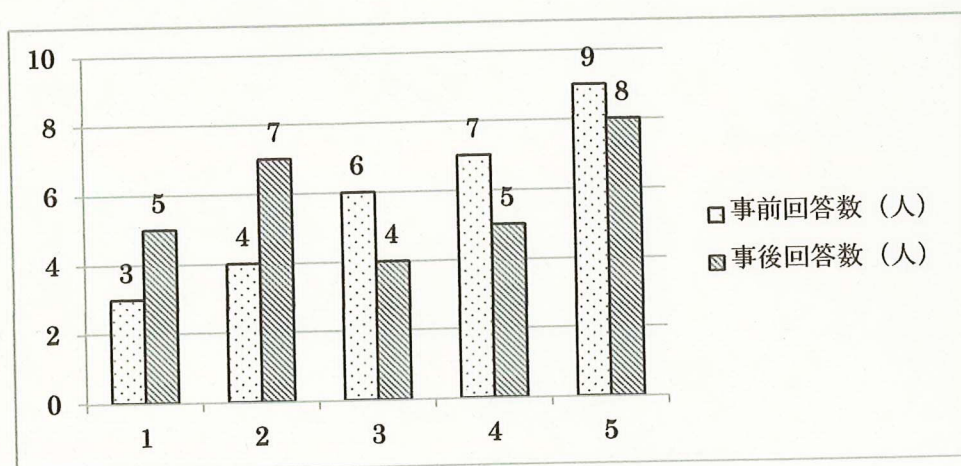


FIGURE 49 歴史的事象後の影響に対する興味課題

7. 事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。

FIGURE 50「思う」「まあ思う」が21人、「どちらでもない」が4人、「思わない」「あまり思わない」が4人であった。問6の結果から、約半数の児童が「事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思わない」と考えているが、三分の二の児童は「事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。」と回答している。しかし授業後でも回答にあまり変化は見られなかった。

事前回答の平均値は 2.14 (SD=0.99) 事後回答の平均値は 2.17(SD=1.26)と有意な伸び

は確認されなかった ($t=1.40, df=28, n.s.$)。

TABLE 47 歴史的事象後の影響に対する思考課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	8	13	4	4	0
事後回答数(人)	10	11	4	1	3

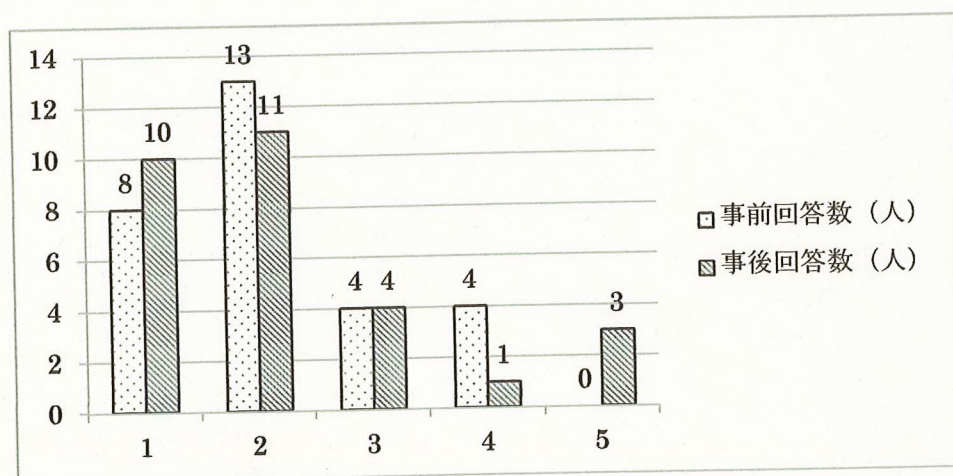


FIGURE 50 歴史的事象後の影響に対する思考課題

8. 歴史は、理解すると言うより、そのまま暗記する科目だと思う。

TABLE 47 から事前課題で「思う」「まあ思う」が15人、「どちらでもない」が3人、「思わない」「あまり思わない」が11人であった。約半分の児童が歴史学習は、暗記科目だと考えている。事後課題では「思う」「まあ思う」が11人、「どちらでもない」が6人「思わない」「あまり思わない」が12人となった。

FIGURE 51 より「思う」「まあ思う」が減少したものの、顕著な変化は、見られなかった。

事前回答の平均値は 2.89 (SD=1.57) 事後回答の平均値は 3.11(SD=1.55)と有意な伸びは確認されなかった ($t=.90, df=28, n.s.$)。

TABLE 48 歴史科目における学習についての課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	7	8	3	4	7
事後回答数(人)	6	5	6	4	8

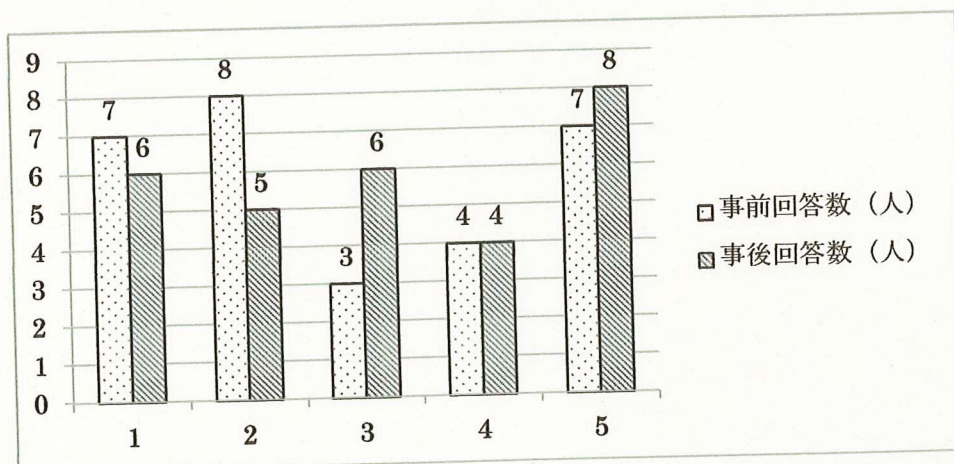


FIGURE 51 歴史科目における学習についての課題

9. 歴史の出来事どうしのつながりを理解することが大切だと思う。

TABLE 48 より事前回答で「思う」「まあ思う」が21人、「どちらでもない」が4人、「思わない」「あまり思わない」が5人であった。事後回答では「思う」「まあ思う」が25人、「どちらでもない」が4人、「思わない」「あまり思わない」が0人であった。歴史的事象のつながりが大切であると考えている児童が多いにもかかわらず、問8ではそのまま暗記する科目だと考える児童が半数いることが矛盾しているのではないかと。これは、児童は「歴史学習は、つながりを理解することが大切だ」と思っているにもかかわらず、テストなどで空欄を埋める問が多いことが、児童に歴史学習は暗記科目だと考える児童が多いのではないかとと思われる。FIGURE 52 より事後回答の「あまり思わない」「思わない」が0人に減少した。この結果は、歴史学習をする上でとても大きな変化であると考えられる。

事前回答の平均値は 2.21 (SD=1.32) 事後回答の平均値は 1.72(SD=0.70)と平均値の伸びに有意な傾向が見られた。(t=1.76,df=28,p<.10)。

TABLE 49 歴史的事象のつながりの理解に対する課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	12	9	4	2	3
事後回答数(人)	12	13	4	0	0

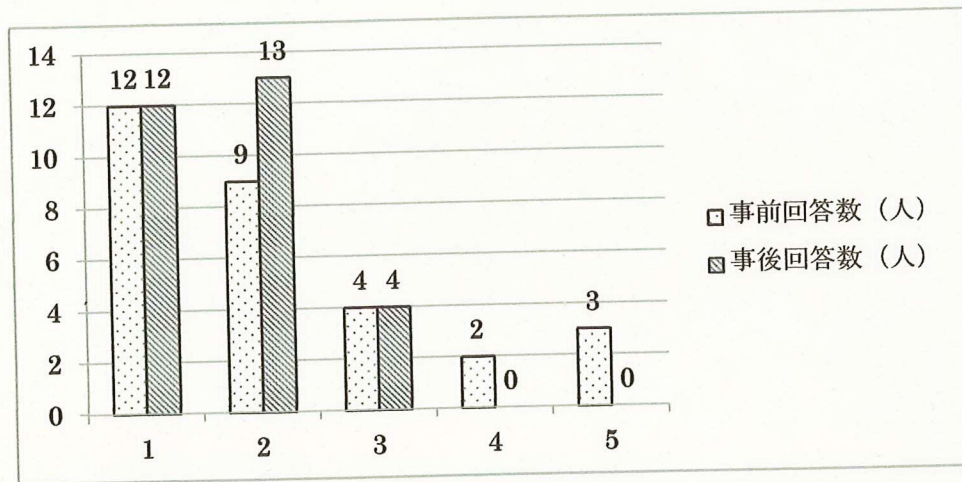


FIGURE 52 歴史的事象のつながりの理解に対する課題

10. 歴史を勉強するのは、おもしろい。

TABLE 50 より事前回答で「思う」「まあ思う」が9人、「どちらでもない」が5人、「思わない」「あまり思わない」が15人であった。約半数の児童が「歴史を勉強するのは、おもしろくない。」と回答している。事後回答において「思う」「まあ思う」が15人、「どちらでもない」が8人、「思わない」「あまり思わない」が6人であった。約半数の児童が「歴史を勉強するのは、おもしろい。」と回答している。FIGURE 53 より「思わない」を回答した児童は、事前回答の9人から事後回答の2人に大きく減少している。また「思う」「まあ思う」が事前回答の9人から事後回答の15人と増加した。研究授業で象徴事例から命題を理解し、江戸時代の社会の構図を理解することによって、今まで、単で区切られた内容をだけを理解し、つながりを理解できていない学習をしているより、面白いと感じたのではないかと考える。

事前回答の平均値は 3.41 (SD=1.40) 事後回答の平均値は 2.55(SD=1.18)と有意な伸びが認められた ($t=4.69, df=28, p<.01$)。

TABLE 50 歴史学習についての興味課題

回答番号	1	2	3	4	5
事前回答数(人)	3	6	5	6	9
事後回答数(人)	6	9	8	4	2

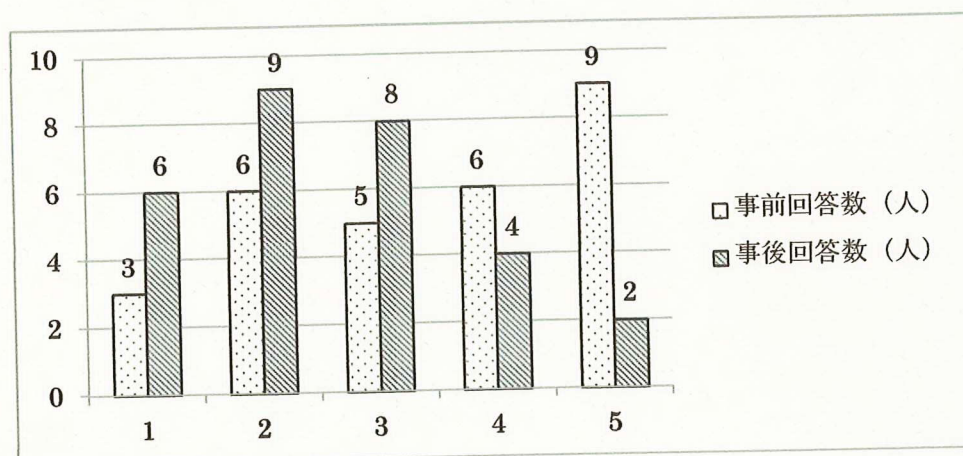


FIGURE 53 歴史学習についての興味課題

以上の結果となった。

〈考察〉

上記の結果から、事前回答と事後回答を比較し、有意な伸びが確認されたのは、問1と問10であった。有意な傾向が見られたのは、問9であった。

問1に有意な伸びが確認されたのは、象徴事例の提示が大きく影響したのではないかと考える。これは、研究授業において象徴事例を用いることにより「江戸時代の社会の構造」を具体的に理解できたことで、2つの命題のつながりが理解できた結果ではないかと考えられる。自由記述においても、「江戸時代の人々の生活の様子がわかった」「農民は貧しく苦しい生活ばかりしていたのではないことを意外に思った」「いろいろ新しいことがわかって楽しかった」などの記述が見られた。歴史学習において象徴事例を用いることの有効性は、麻柄・進藤(2004)が「①象徴事例は、学習内容に対するおもしろさや意外感を引き起こす。」ということを明らかにしている。本研究においても象徴事例を用いることにより、おもしろさや意外感を引き起こしたことにより、問1の結果に有意な伸びが確認されたと考える。

問2においては有意な伸びは確認されなかった。これは、現在の社会科学学習の目標の一つに、「資料の収集・活用」となっていることから、児童に興味・関心を持たせるためには、図書館やコンピュータを活用し、児童自ら調べ、調査し、それらをまとめる表現すること

が必要であるとされている。そのため、小学校6学年の授業案には、「調べ学習」「〇〇新聞作り」などの活動中心授業が多く取り入れられている。しかし、「調べ学習」についてうんざりしている児童も少なくない。「また、調べ学習?」「もう調べることがない。」などの発言を耳にする。そのため、問2の結果に有意な伸びが確認されなかった原因の一つではないかと考える。

問3においては有意な伸びは確認されなかった。テストがあるなしに関わらず、歴史の学習は、大切であると認識しているものと考えられる。

問4、問5においても有意な伸びは確認されなかった。象徴事例を用いた授業を受けたことにより、歴史学習が好き、面白いと感じても、自ら調べたり、本を読んだりして、知識を深めようとは思わないことがわかった。

問6、問7において有意な伸びは確認されなかった。問7において、歴史的事象がその後に影響を与えていると考えているものの、それを知りたいと思わないという結果になった。

問8において有意な伸びは確認されなかった。「歴史は暗記科目」と考えている児童の変化はほとんど見られなかった。

問9において有意な傾向にあることが確認された。しかし、問8で「歴史は、暗記科目である」と考えている児童も歴史的事象のつながりを理解することが大切であると考えていることがわかる。事後回答の「あまり思わない」「思わない」が0人に減少したことは、大きな成果だと言える。

問10において有意な伸びが確認された。研究授業で象徴事例から命題を理解し、江戸時代の社会の構図を理解することによって、今まで、単元で区切られた内容をだけを理解し、つながりを理解できていない学習をしているより、面白いと感じたのではないかと考える。1つの命題を理解するだけでなく、2つの命題を理解しそのつながりを理解することで、より学習に面白さを感じたと考えられる。

IV. 遅延調査

1. ねらい：研究授業を行ってから一週間後に遅延調査を行った。授業で教授した象徴事例と命題について、5段階の解答に○を付けてもらった。

これは、進藤（2002）が「授業後に正しい知識を用いることができて、しばらく時間が経つと元の誤った知識が発動されることがある。この原因としては、誤った知識が学習者の過去の経験に基づいて形成されていること、また、他の判断と互いに連携しあっている事によって、学習者にとって確証度が高いものになっていることが指摘できる。」を受け、授業後も正しい認識を持てているかを調査する。

2. 方法
- ①調査対象 平成25年度卒 W 県公立小学校6年生29名
 - ②期日 2013年10月18日
 - ③調査方法：研究授業を終えた小学校6年生に、授業内で教授した象徴事例と命題、事後課題9について、一週間ご遅延調査として調査した。回答は、（思う～思わない）の五段階で自分が思うところに○をつける形式であった。
課題は、授業内で教授した象徴事例1－（a）、1－（b）、命題1、象徴事例2－（a）、2－（b）、2－（c）、命題2及び命題間の構造課題の8題で構成されている。

なお、児童に配布した遅延調査課題は、末尾のVI. 資料に添付されている。

3. 結果と考察

FIGURE 54 より正答を選んだ児童は27名いた。象徴事例1－(a)は、児童の認識に定着していた。FIGURE 33より、事前課題5で約半数の児童は現金収入がないと考え、これが、「農民は貧しい生活をしている」という認識に繋がっていたと考えられるが、研究授業により児童の認識が修正され、「正しい認識」が定着している。

1. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた

TABLE 51 象徴事例1－(a)の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
21	6	2	0	0

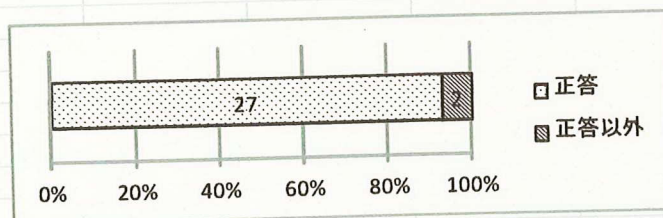


FIGURE 54 象徴事例1－(a)の正答・正答以外の比較

FIGURE 55 より正答を選んだ児童は24名いた。正答以外を選択した児童は5人いた。象徴事例1－(b)は、児童の認識に定着していた。しかし、FIGURE 36より、正答以外を回答した児童が5人いた。研究授業において、農民がたばこを吸ったりお酒を飲んだりしている図を示したにもかかわらず、正答以外を回答した5人が今回の遅延調査でも正答以外を選択した。これは、研究授業で図が示されているにもかかわらず、「農民はたばこを吸ったり、お酒を飲んだりできない」という認識が強く、研究授業の図に対して「無視」をしたため、認識の修正が行われず、遅延調査でも同じ結果となったと考えられる。

2. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、たばこやお茶、お酒を飲んでいた

TABLE 52 象徴事例1－(b)の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
16	8	0	4	1

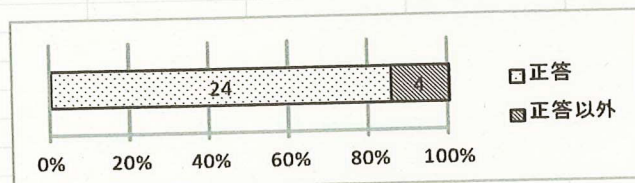


FIGURE 55 象徴事例1－(a)の正答・正答以外の比較

FIGURE 56 より正答を選んだ児童は26名いた。正答以外を選択した児童は3人いた。大多数の児童は命題1の内容を理解できている。

3. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた

TABLE 53 命題1の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
18	8	1	2	0

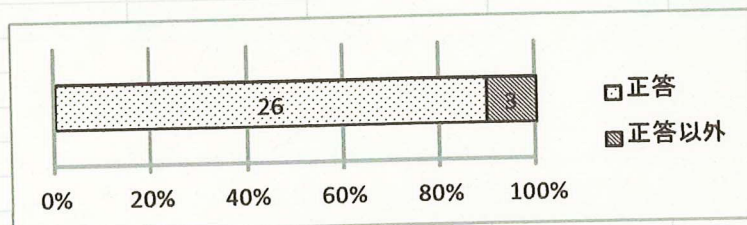


FIGURE 56 命題1の正答・正答以外の比較

FIGURE 57 より正答を選んだ児童は25名いた。正答以外を選択した児童は4人いた。大多数の児童は象徴事例2－(a)を理解できている。

FIGURE 58 より正答を選んだ児童は18名いた。正答以外を選択した児童は11人いた。FIGURE 58の正答率は、約60%にとどまった。麻原・進藤(2008)が象徴事例の効果として「象徴事例はそれと意味的に類似した他の象徴事例に関して「ありうることだ」という判断を促進する」ことを明示している。しかし、象徴事例2－(a)の受け入れ度合いは高

かったものの、象徴事例2－(b)の受け入れ度合いがそれほど高くならなかったのは、児童は、「五街道の整備」と「茶店ができた」という課題に類似性を見だせなかったことと研究授業内での説明が不十分であったと考える。

4. 大名行列が五街道を整備させた

TABLE 54 象徴事例2－(a)の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
16	9	4	0	0

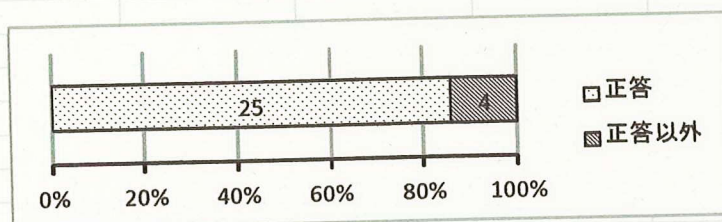


FIGURE 57 象徴事例2－(a)の正答・正答以外の比較

5. 大名行列が街道沿いの茶店を作った

TABLE 55 象徴事例2－(b)の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
9	9	4	4	3

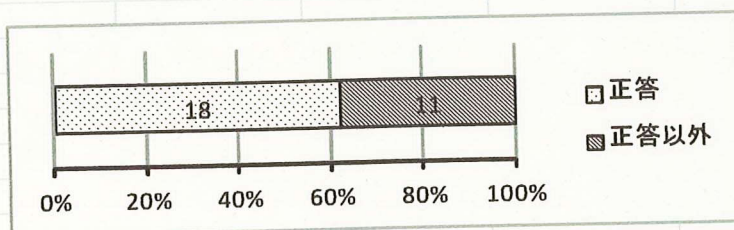


FIGURE 58 象徴事例2－(b)の正答・正答以外の比較

FIGURE 59 より正答を選んだ児童は25名いた。正答以外を選択した児童は4人いた。大多数の児童は象徴事例2－(c)を理解できている。事後課題で象徴事例2－(c)の課題調査はしていなかったが、遅延調査の結果から、大多数の児童は、象徴事例2－(c)を理解していることがわかる。

6. 大名行列が宿場町を繁栄させた

TABLE 56 象徴事例2－(c)の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
16	9	4	0	0

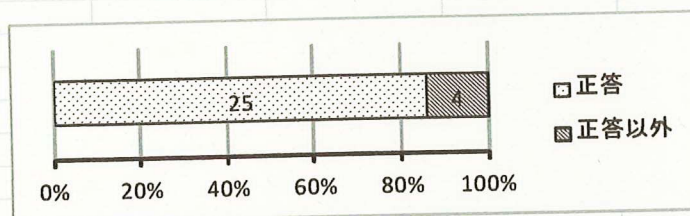


FIGURE 59 象徴事例2－(c)の正答・正答以外の比較

FIGURE 60 より正答を選んだ児童は24名いた。正答以外を選択した児童は5人いた。遅延調査においても、命題2は受け入れられていることがわかる。

7. 大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた

TABLE 57 命題2の理解度調査課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
17	7	4	1	0

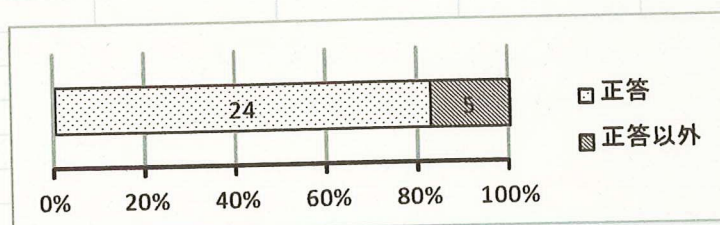


FIGURE 60 命題2の正答・正答以外の比較

FIGURE 61 より正答を選んだ児童は21名いた。正答以外を選択した児童は8人いた。事後調査のTABLE 38の命題1と命題2の構造化の課題においても同数の正答数だったことから、事後調査で正答した児童は遅延調査でも正答を回答していると考えられる。

8. 大名行列が江戸時代の商人や農民にお金を稼がせ、豊かに生活できた

TABLE 58 事後課題9 命題の構造化の理解課題

思う	まあ思う	わからない	あまり思わない	思わない
14	7	4	3	1

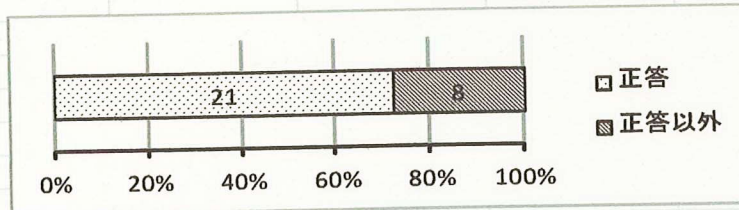


FIGURE 61 事後課題9の正答・正答以外の比較

まとめ

遅延調査課題では、象徴事例1－(a)、1－(b)、命題1、象徴事例2－(a)、2－(c)、命題2及び FIGURE 27 事後課題9の命題間の構造課題の8題の正答率を調査した。その結果、正答率が70%を超える結果となった。象徴事例2－(b)「大名行列が街道沿いの茶店を作った」という課題の正答率が低かったのは、研究授業において茶店についてあまり触れていない事が原因だと考えられる。しかし、その他の課題は、正答率が70%を超えていることから、象徴事例1－(a)、1－(b)が命題1の理解を促進し、象徴事例2－(a)、2－(c)が、命題2の理解を促進したと考えられる。そして、命題1と命題2を理解することにより命題間の構造課題の正答率が上がったのではないだろうか。

V. 全体のまとめと今後の課題

本研究は、

1. 社会科歴史学習に関する「不十分な認識」の実態を明らかにする。
2. 2つの歴史的事象（命題）に対して複数の象徴事例を用いることにより、
 - (a) 「不十分な認識」の修正に効果が見られるか
 - (b) 2つの命題間の構造的理解が促進されるか
 - (c) 学習内容に関する面白さが引き起こされるかを検証する。

という目的で調査、実験を行った。

〈1について〉

事前調査結果より、児童が持っている「不十分な認識」が明らかになった。予想通りの結果が確かめられた。特に TABLE 3 の農民に対する「不十分な認識」、TABLE 4 の「参勤交代」に対する「不十分な認識」が顕著に表れているが、この2つの「不十分な認識」は、江戸時代の社会の構造に対しても「不十分な認識」を持っていることが予想される。

教科書の単元「江戸時代を生きた人々のくふうや努力」で、農民の暮らしを学習したにもかかわらず研究授業前の農民へのイメージは、全員マイナスイメージであった。特に TABLE 3 に示されているように「貧しい」と回答した児童は18人の半数以上もいた。しかし、教科書の記述には「貧しい」という言葉は書かれていない。「身分」「年貢米の徴収」「厳しい決まり（慶安の御触書）」などがマイナスイメージを持つ原因になっているのではないだろうか。もちろん、地域によっては、貧しい生活をしていた農民もいることには違いない。また、教科書の記述に、「農具の開発」「新田開発」「特産品の生産」など、「生活を工夫して暮らしを高めていった。」という記述があるにもかかわらず、児童の江戸時代の農民に対するイメージは、マイナスイメージしかなかった。しかし、「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう？」の研究授業において、画一的なイメージしか持たれていなかった農民の日常の生活を江戸時代の農民の絵（資料）を目にすることにより、具体的に理解し「不十分な認識」が修正された結果と考えられる。特に、資料4-1、4-2のような「意外感」を持つ具体物を見せることにより、「不十分な認識」が修正されたものと考えられる。

〈2(a)について〉

TABLE 3 の農民に対する「不十分な認識」、TABLE 4 の「参勤交代」に対する「不十分な認識」は、修正された。FIGURE 30 より、事前調査では、農民に対するイメージにプラスイメージは含まれなかったが、事後調査では、すべての回答がマイナスイメージであったが、事後調査では56%の回答がラスイメージに転じた。これは、研究授業内で具体的な資料を提示したことによるものとも言える。TABLE 18 より参勤交代に対する「不十分な認識」は修正されたと言える。授業の事後調査では、その回答は「農民」、「町人」が上位にあげられた。「江戸幕府」や「大名」、「武士」の回答数は減少し、また「分からない」という回答も事後調査ではなくなった。授業前では、参勤交代の制度的な「得」のみが認

識され、「江戸幕府」の回答が多かったものと考えられるが、事後調査においては、参勤交代に関する具体的な理解が進み、実際の物流などの観点が追加され金銭的に農民や町人が「得」をしたとの認識できる児童が増加し、「不十分な認識」が修正されたものと考えられる。「参勤交代制度」だけで、「町人」が儲けたり「農民」が現金収入を得て「得」をしていたわけではないが、大きな収入源であったことを理解したことは、「不十分な認識」の修正に役立ったのではないかと考える。しかし、「江戸幕府」の参勤交代の制度的な「得」は変わっていないのに、事前調査から事後調査の結果が19から7に減ったことは、今後、指導案の改善が必要である。

〈2(b)について〉

命題1「江戸時代の農民は、武士の支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた」と命題2「徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた」を理解させることで、課題9「江戸時代の農民は、参勤交代制度の大名行列のおかげで豊かな生活ができたと思う」を理解し、題1と命題2の構造的理解が促進されたかを図った。

FIGURE39の(命題1の理解)〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の暮らし)〉において、正答数が9人(31%)から25人(86%)に大幅に増加している。これは、遅延調査課題1の「象徴事例1-(a)〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の現金収入)〉」の結果と「象徴事例1-(b)〈農民の日常生活についての理解度調査課題(農民の娯楽)〉正答・正答以外比較」の結果から命題1を理解の促進につながったと考えられる。

FIGURE 43の(命題2の理解)〈参勤交代制度についての理解度調査課題〉において、正答数が5人(17%)から25人(86%)に大幅に増加し有意な伸びが確認された。これは、事後課題10の〈象徴事例2-(a)の理解度調査課題〉「大名行列が五街道を整備させた。」の正答率の高さや、遅延調査において、象徴事例2-(c)「大名行列が宿場町を繁栄させた。」の正答数が70%を超えていることから見て、この2つの象徴事例を児童が受け入れたれていることから、事前課題9の「徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。」という命題2の理解の促進につながったものであると考えられる。

FIGURE 41〈命題1と命題2の構造化についての理解度調査課題〉より21人(72%)の児童が正答と回答した。命題1と命題2のつながりを理解したものと言える。これは、上記の命題1と命題2を理解したことより、事後課題9「江戸時代の農民は、参勤交代制度の大名行列のおかげで豊かな生活ができた」という命題を理解が促進された結果だと言える。これは、命題1と命題2が事後課題9の象徴事例となったのではないかと予想できる。

象徴事例と命題の構造を FIGURE 62 に示す。

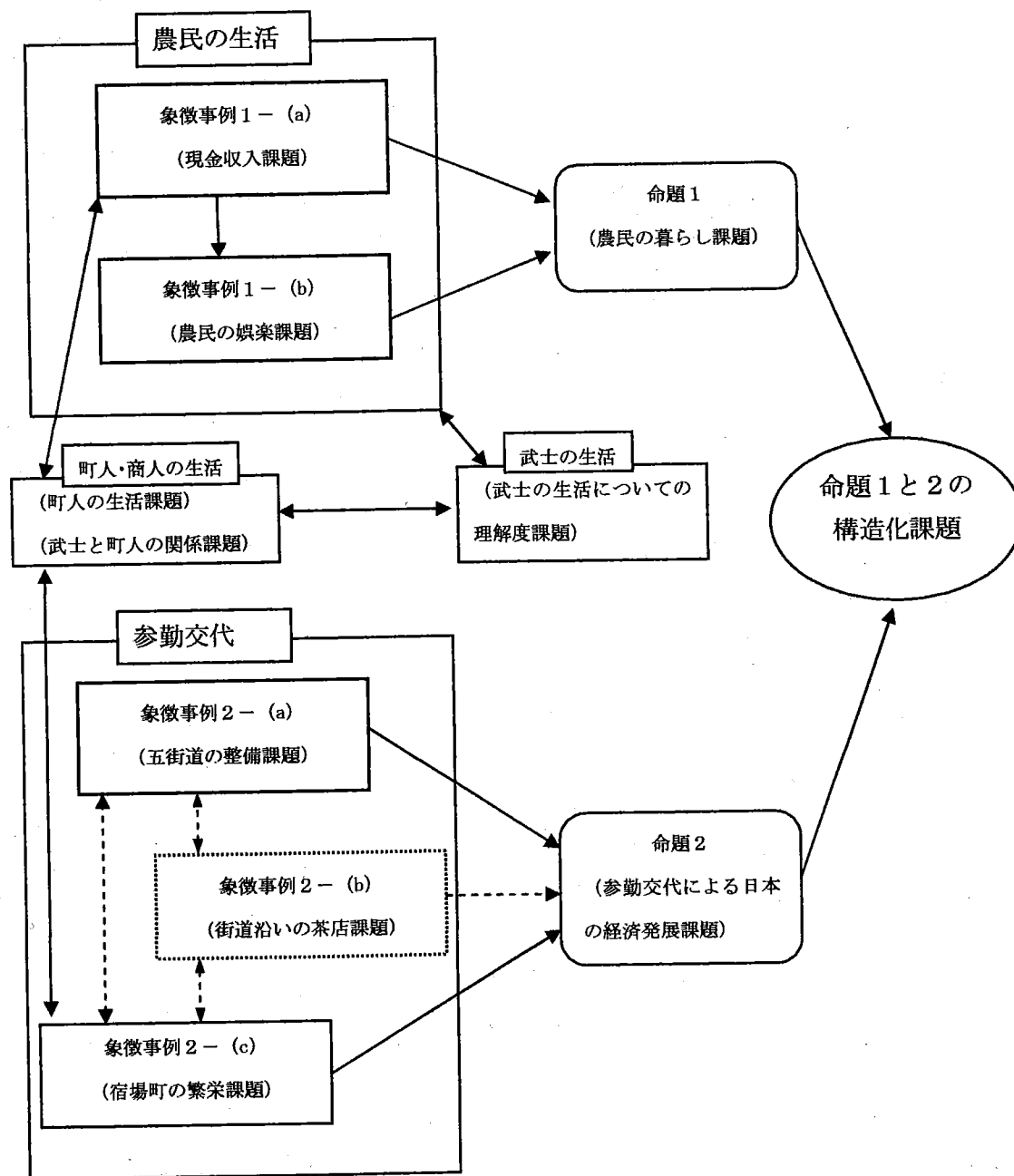


FIGURE 62 象徴事例と命題の構造

象徴事例 1 - (a) 「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた」を受け入れることにより、象徴事例 1 - (b) 「江戸時代の農

民は武士による厳しい支配の中でも、たばこやお茶、お酒を飲んでいた」を受け入れることができ、命題1「江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。」の理解が促進された。象徴事例2-(a)、象徴事例2-(c)は受け入れられたが、象徴事例2-(b)は、それほど受け入れられなかった。しかし、象徴事例2-(a)、象徴事例2-(c)の受け入れが命題2の理解につながった。この図で重要なのは、「象徴事例1-(a) (現金収入課題)」⇔「町人の生活」⇔「象徴事例2-(c) (宿場町の繁栄課題)」の繋がりであると考え。事前調査6〈農民の日常生活についての理解度調査課題 (農民の暮らし)〉において、約70%の児童が正答以外を解答していることなどから、農民のイメージは、FIGURE 6「不十分な認識」による農民のイメージ分け(プラス、マイナスイメージ)での100%のマイナスイメージにつながっていたと考えられる。しかし、上記の「象徴事例1-(a) (現金収入課題)」⇔「町人の生活」⇔「象徴事例2-(c) (宿場町の繁栄課題)」の構図を理解することにより、「象徴事例1-(b) (農民の娯楽課題)」につながっている。命題2の象徴事例2-(c)が命題1の「象徴事例1-(a) (現金収入課題)」とつながり、「象徴事例1-(b) (農民の娯楽課題)」の認識が深まり、命題2の認識も深まったのではないかと考える。

命題1、命題2を理解することにより事後課題9も理解できた。これは、命題1と命題2が象徴事例となり事後課題9の理解が促進された。このように、1つの命題に対して複数の象徴事例を用いて命題を理解させることにより、命題間のつながりを理解させることができた。しかしこの結果は、遅延調査において象徴事例2-(b)以外の象徴事例と命題の正答率が70%を超えていることで分かることであり、事前事後課題における象徴事例の受け入れ度合いに対しての調査課題の出題が適切ではない課題もあり、象徴事例の効果が計れない課題もあることから、「一部、予想通りの結果が確かめられた」とする。

しかし、算数科や理科のように、一定の法則は存在しない社会科歴史学習において、一つ一つの象徴事例を具体的に理解することによって、命題を理解し、そのつながりも理解できるものとする。そうすることにより、歴史的現象の本質的な理解やつながりを理解できるであろう。

〈2(c)について〉

有意な伸びが確認されたのは問1と問10だけであった。問1については、象徴事例を用いることにより2つの命題のつながりが理解でき「江戸時代の社会の構造」を具体的に理解できた結果ではないかと考える。歴史学習において象徴事例を用いることの有効性は、麻柄・進藤(2004)が「①象徴事例は、学習内容に対するおもしろさや意外感を引き起こす。」ということを明らかにしている。本研究においても象徴事例を用いることにより、おもしろさや意外感を引き起こし問1の結果に有意な伸びが確認されたと考える。問10においては研究授業で象徴事例から命題を理解し、江戸時代の社会の構図を理解することによって、今まで、単元で区切られた内容をだけを理解し、つながりを理解できていない学習を

しているより、面白いと感じたのではないかと考える。菊間（2009）は、歴史学習意欲を向上させるためには、つながり理解方略の教授と楽しさの印象を高めることが重要であると述べている。象徴事例を用いた授業により、つながりや、たのしさの印象を持つことができたと考えられる。歴史的事象の繋がりを理解すれば、より面白さや楽しさを感じ問2～問9の調査に関して、有意な伸びが確認されると予想した。しかし、有意な伸びは、確認されなかった。「おもしろい」とか「興味を持った」と感じてはいるものの、問2～問9の調査に関しては、予想通りの結果は確かめられなかった。

○本研究での成果

本研究が①ルール学習研究及び②教育実践に与える示唆についてまとめてみると以下のようになる。

①については、命題と象徴事例をルール学習の観点から見ると、象徴事例は個々の事例や事実として(eg)、命題を(ru)と表すことができるのではないだろうか。伏見（1999）は、著書の中で、麻柄（1994）は、egとruの関係を3つに分類をしている。1つは、帰納法的に配列する方法である。(eg→eg→eg→eg・・・eg→ru)の場合である。例えば、「金属ならば電気を通す」を一般的なルールにすると「鉄ならば電気を通す」「銅ならば電気を通す」となる。2つめは、演繹法的に配列する方法である。(ru→eg→eg→・・・eg)の場合である。この場合 ru「金属なら電気を通す」を先に教授する方法である。3つめは、「検証」法的に配列する方法である。(eg→ru→eg→ru→eg→ru→eg)の場合である。これは、egとruが交互に配列され ru がしだいに大きくなるように描かれている。これは、別の事象に即してそのルールが当てはまることを確認したことによって、その都度そのルールに対する確認の度合いが大きくなっていくことを示している。この3つの場合のegは、「pならばqである」という「p」の部分に具体的な事実や数字を当てはめる（代入する）代入例の場合のegである。しかし象徴事例は「pならばqである」の「q」の部分を変化させていることから、一つ一つの「eg」がそれぞれ違う意味を持ち、独立している。よって下記の図のように表すことができないだろうか。

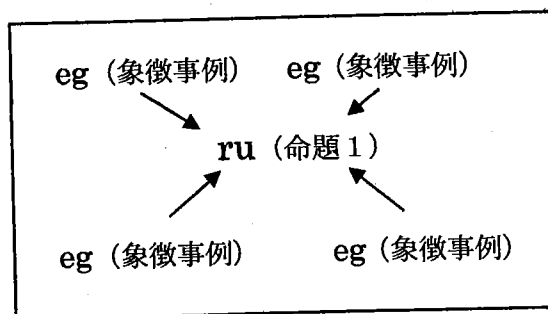


FIGURE 63 象徴事例による ru の関係図

象徴事例の場合、「eg」の「q」の部分が「ru」の「q」の部分に対して具体的に表され、象徴さ

れる意味合いを持たせることにより、「ru」の「q」の部分の理解度が高まるのではないだろうか。さらに本研究では2つの命題間のつながりも理解させられることが明らかとなった。この知見は次のような図に表すことができるのではないかと考える。

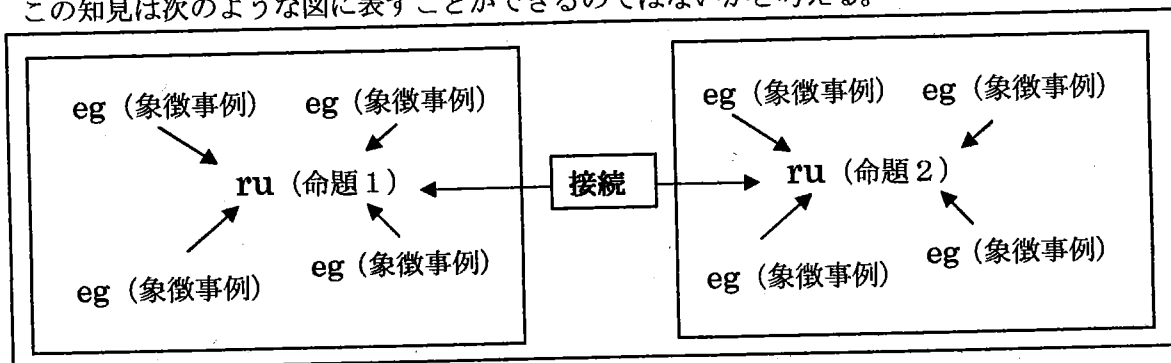


FIGURE 64 象徴事例の効果による ru と ru の関係図

②について、本研究では、先行学習経験や予備調査の結果から「江戸時代の農民は厳しい年貢のとりたてにより貧しい生活をしていた。」という「不十分な認識」を中心に研究授業を進めた。この「不十分な認識」に対して、「意外に感じる」資料や図を示すことにより、認知的葛藤が生じ問題意識を生起させることができた。その上で、「不十分な認識」の修正、もしくは新たな見解が生じるような「象徴事例」を示すことで、それを受け入れ、命題の理解の促進にもつながったと考えられる。そして一つ一つの命題に複数の象徴事例を用いることにより、命題間のつながりがある程度、理解できたものとする。象徴事例を用いることは、「不十分な認識」の修正に有効だけでなく、命題間の構造化にも有効であるという見通しが持てた。また歴史的事象の命題間のつながりを理解することによりその時代の社会の仕組みを理解することができたと考える。

○今後の課題

- ①「象徴事例」が児童にとって受け入れやすいものでなくてはならないことと、その根拠としての資料や図の提示が必要であること
- ②「象徴事例」に意外感を持たせるためには、児童の「不十分な認識」の存在を明らかにしなければならないこととその困難さ。
- ③「江戸時代」以外の時代でも象徴事例を用いた実践をすることで、その時代の社会の仕組みを理解することができるか

①については、命題に対して「象徴事例」を用いるには、十分な下調べや資料、図が必要である。資料4-1の農民が畑仕事をしている横でたばこを吸っている絵を提示するこ

とにより、TABLE 32 象徴事例 1 - (b) 〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の娯楽）〉の正答率が上がり、資料 4 - 2 のように、農民が休日を楽しんでいる絵をみせることで、TABLE 35 命題 1 の理解〈農民の日常生活についての理解度調査課題（農民の暮らし）〉の正答率が上がったことがわかる。FIGURE 38 は〈町人と農民の関係の理解度調査課題〉であった。しかし、農民と町人や商人の交流が示されている資料や図を提示できなかったことから、事後課題 6 の正答率が低いという結果になった。このように、1 つの絵を見せることにより、児童が持っていた「不十分な認識」は修正されることがわかる。すべての象徴事例や課題に対して、わかりやすい図や資料を提示することが必要である。そうすることで、一つ一つの象徴事例を受け入れ、命題を理解することにより、社会の仕組みや構造を理解していけるであろう。

②について、教師は、児童がどの単元や内容で「不十分な認識」が生まれているかは予想できない。算数や理科などは、原理や法則が決まっているので、比較的「不十分な認識」や「誤った認識」は比較的見つけやすい。しかし、社会科領域においては、社会現象や歴史的現象は、さまざまな要因から成り立っているため、「不十分な認識」や「誤った認識」がどこで生まれ、存在しているか見つけ出しにくい。それを見つけて出すには、教師が児童の発言を多く聞き出し、児童の考えを理解することが重要である。

③について、今回は「江戸時代」の構造化に関しての実験であった。象徴事例を用いることにより、他の時代にも利用できるが、その場合もやはり、「意外感を持たせる象徴事例」が必要となるため、学習者の「不十分な認識」の発見が必要となるであろう。

〈予備調査表〉

・下記の歴史の問題に○×で答えてください。

- | | |
|---|----|
| 1. 平安時代は、貴族の時代で武士はいなかった。 | 答え |
| 2. 平安時代と江戸時代では、江戸時代の方が長い。 | 答え |
| 3. 豊臣秀吉は、征夷大將軍になれなかった。 | 答え |
| 4. 豊臣秀吉は、北海道から沖縄まで全国統一を果たした。 | 答え |
| 5. 秀吉の「刀狩り」により民衆は、刀や鉄砲などの武器をすべて取り上げられた。 | 答え |
| 6. 江戸幕府は、鎖国により外国との交渉（貿易）を一切禁止した。 | 答え |
| 7. 鎖国により、日本の近代化が遅れた。 | 答え |
| 8. 徳川幕府は、全国の大名から年貢を取り立てた。 | 答え |
| 9. 江戸時代の農民は、厳しい年貢の取り立てにより貧しい生活をしていた。 | 答え |
| 10. 明治時代になるとそれまで途絶えていた天皇家が復活した。 | 答え |

◎下記の質問に答えてください。

問1 あなたが思う江戸時代の武士、町人、農民の生活やイメージについて数字に○をつけましょう。

1. 贅沢 (ぜいたく) 2. 豪華 (ごうか) 3. 裕福 4. 豊か 5. 自由
6. 辛い (つらい) 7. 苦しい 8. 貧しい 9. 不自由
10. その他 ()

1. 贅沢 (ぜいたく) 2. 豪華 (ごうか) 3. 裕福 4. 楽しい 5. 自由
6. 辛い (つらい) 7 苦しい 8. 貧しい 9. 不自由
10. その他 ()

1. 贅沢（ぜいたく） 2. 豪華（ごうか） 3. 裕福 4. 楽しい 5. 自由
6. 辛い（つらい） 7. 苦しい 8. 貧しい 9. 不自由
10. その他（ ）

※農民は、毎日、どんな生活をしていたと思いますか？具体的に書いてください。

1. 参勤交代制度により得をしたのは誰だと思いますか。理由も書きましょう。

1. 江戸幕府 2. 大名 3. 武士 4. 町人 5. 農民

理由

2. 参勤交代制度により江戸時代の日本はどうか変わったと思いますか

問3 自分が思うところに○を付けてください。

1. 江戸時代の武士は、農民から取り立てた年貢米を売ったりして生活していた。

生活していた

たぶん生活していた

わからない

たぶん生活していない

生活していない

江戸時代の武士はどんな仕事をしていたと思いますか

2. 江戸時代の農民は、武士の厳しい支配の中で、毎日、田畑などで働かされていた

働かされていたと思う

たぶん働かされていたと思う

どちらとも言えない。

たぶん働かされていない

働かされていない。

3. 江戸時代の農民は、休日や長期の休みなどがあった。

あったと思う

たぶんあったと思う

わからない

たぶんないと思う

ないと思う

4. 江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでいた。

そうしていたと思う

たぶんそうしていたと思う

わからない

たぶんしていなかったと思う。

していなかったと思う

5. 江戸時代の農民は作った野菜やお米を売ってお金を稼いでいた

稼いでいた

たぶん稼いでいた

わからない

たぶん稼いでいない

稼いでいない

6. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

豊かに暮らしていた

たぶん豊かに暮らしていた

わからない

たぶん豊かではない

豊かではない

7. 江戸時代の町人は、商人や農民から商品を買っていた

買っていたと思う

たぶん買っていたと思う

わからない

たぶん買っていないと思う

買っていないと思う

8. 武士が町人のお店で食事をしたり、宿泊したりするのに、お金を払わなくてよかった。

払わなくてよかった

たぶん払わなくてよかった

わからない

たぶん払っていた

払っていた。

9. 徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

発展させたと思う

たぶん発展させたと思う

わからない

たぶん発展させていない

発展させていない

10. 江戸時代には、身分を変えることはできなかった。

できなかった

たぶんできなかった

わからない

たぶんできた

できた

問4. あてはまる番号に○をつけましょう。また、理由を書いてください。

1. 歴史を勉強することが好きだ。

1. とても好き
2. 好き
3. どちらでもない
4. あまり好きでない
5. 好きでない

理由（どんなところが好き？きらい？）

2. 学校で習った歴史の背景を自分で調べようと思う

1. 思う
2. まあまあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

3. テストがなければ歴史は学びたくないと思う

1. 思う
2. まあまあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

4. なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思う

1. 思う
2. まあまあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

5. 歴史上の人物の生涯（生まれてから死ぬまで）を知るために伝記（本）などを読もうと思う

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない

5. 思わない

6. 事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思う

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

7. 事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。

1. 思う
2. まあまあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

8. 歴史は、理解すると言うより、そのまま暗記する科目だと思う。

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

9. 歴史の出来事どうしのつながりを理解することが大切だと思う。

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

10. 歴史を勉強するのは、おもしろい。

1. とてもおもしろい
2. おもしろい
3. どちらでもない
4. あまりおもしろくない
5. おもしろくない

〈児童配布資料〉

「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう？

—あまり知られていない江戸時代の人々の様子—

1 時間目

二学期から江戸時代について学習しましたね。江戸時代ってどんな時代でしたか？

このクラスを江戸時代の身分に分けてみましょう。

担任が大名

2～3人が武士

3人 町人

残りの児童は農民

江戸時代の人口比率はこれぐらいだったんだね。

農民の人数が武士より圧倒的に多いですね。

「武士派農民を支配していました。でも支配され苦しい生活をしている農民は、武士を倒そうとしなかったんだらうか」

江戸時代は、今で言う都道府県のように、藩で地域が分けられていました。その藩で一番位（くらい）の高い人がお殿様と呼ばれ、武士はお殿様に仕えていました。江戸時代には300もの藩があり、その藩の中でも、お米が1万石以上採れる藩のお殿様のことを大名と呼びました。

また、江戸時代は、武士、農民（百姓）、町人（商人、職人）と身分が分けられていました。

それぞれの身分の人々はどんな生活をしていたのでしょうか？

武士について

武士はどうやって生活をしていたのだと思いますか？

○×で答えてください。

1. 農民から徴収した年貢米で贅沢な生活をしていた。
2. 給料をもらって生活をしていた。
3. 寺子屋などで子どもたちに勉強を教えて生活していた。
4. 現在の警察の役割をしていた。

実は武士の多くは大名（殿様）から給料をもらって生活していました。武士は現在の警察のような仕事をしたり、税（年貢米など）の徴収、藩の警備や、道を整備したりし、藩の中での仕事をしていました。給料の少ない下級武士は、生活が苦しいので、寺子屋で子どもたちに勉強を教えたりしてお金を稼いでいました。

農民から納められた年貢米は藩のもので、武士のものではありません。武士の中で

年貢米を取り立てる仕事をする武士が年貢米を集めるだけでした。集められた年貢米を藩が商人などに売り、そこで得られたお金を参勤交代の費用に使ったり武士に給料として支払っていたのです。

農民の暮らしはどうだったのだろう？

農民は年貢を納めなくてはなりませんでした。五公五民という年貢率で、収穫した半分のお米を年貢米として納めていました。例えば 1000 kgのお米の収穫があっても半分の 500 kg を年貢米として藩に納めなければなりませんでした。

現在、お米の重さの単位は、キログラムです。しかし、江戸時代は石（こく）というお米の重さの単位で計算されていました。1石は約 150 キログラムです。また1石は一年間に人ひとりが食べるお米の量になります。

1石 = 150kg = 人ひとりが一年間に食べるお米の量

現在のみんなが住んでいる和歌山県は紀州藩と呼ばれていました。徳川御三家の一つとして栄えました。他の大名よりも位が上でした。

紀州藩はお米の収穫量は、年間約 55 万石で 50 万人ほど住んでいました。当時、農民の人口は全体の約 8 割なので 40 万人の農民が紀州藩で住んでいました。五公五民の年貢率で年貢として採れるお米の半分の約 27 万石が藩に納められていました。残った 27 万石を 40 万人の農民が食べて暮らしていました。

紀州の産業（資料1）

風土と生産

高く深い山、半島を囲む黒潮の海。紀州の人々の生産活動は、こうした自然と格闘して、その恵みを引き出すことであった。民衆の日々のたゆまぬ努力により、生産技術は少しずつ改良され、分業も進んでいった。江戸時代は、そうした民の努力の成果が、地場産業の発展というかたちで帰結した時代であった。そこで生み出された産業技術は、紀州から全国各地に普及し、永く伝えられていった。

紀州の産業

紀州の産業の特色は、その風土の個性によって作り出されている。たとえば有田郡では、温暖な気候と山がちな地形を生かした蜜柑栽培が行われ、代表的な産物となる。良質の水に恵まれた湯浅村では、藩の保護をうけた醤油製造業が盛んであった。豊かな山林をもつ熊野地方では、林業の発達をみた。また黒潮の影響を受ける紀伊水道や熊野灘は、優れた漁場となった。加太の鯨漁は関東にまで進出し、太地の捕鯨は九州や土佐にもその技術を伝えた。



農業（根本遊筆筆 四季風俗図 当館蔵）



商業（天保年代物売図巻 和歌山県立図書館蔵）



捕鯨（熊野浦捕鯨図巻 個人蔵）

紀州有田みかん（資料2-1）

第2編 わかやまの歴史

第3章 紀州徳川家の時代

紀州みかん

旧石器・縄文・弥生時代
古墳時代
飛鳥・奈良・平安時代
鎌倉・室町時代
戦国・安土桃山時代
江戸時代
明治・大正・昭和（戦前）時代
昭和（戦後）・平成時代

紀州みかんの起源

紀州みかんがいつごろから栽培されるようになったのか、はっきりしたことはわかりません。言い伝えによると、永享年間（1429～1441）に有田郡糸我往中番盾岩の神田峯に1本のみかんが生じ、これが各地に植え広げられたという説があります。また、1574（天正2）年に伊藤孫右衛門という人が、肥後国（熊本県）の八代から移植した話は有名ですが、詳しくわかっていません。むしろ品種改良であったというほうがよいかも知れません。

岡本権郷画「蜜柑山図」（江戸時代末期 和歌山県立博物館蔵）

1529（享禄2）年に紀州を旅した三条西実隆という公家が日記に紀州みかんをお土産にしたと記しています。また、1580（天正8）年に紀州にいた本願寺顕如上人が、紀州みかん5かごを織田信長に贈った黒印状も残っています。さらに1601（慶長6）年に浅野幸長が実施した紀伊国検地でつくられた検地帳にも、みかんの木の数記されており、16世紀には、すでにみかんが栽培されていたことがわかります。

江戸送りのみかん

蜜柑山図
 永享元年十月書
 天正八年十月書

大荒れに荒れ狂う海へ船出して、江戸へみかんを運んで大もうけしたという紀伊国屋文左衛門は、元禄年間（1688～1704）に実在した材木商人ですが、詳しいことはわかっていません。

江戸では毎年11月8日にふいご祭といって、鍛冶屋・鋳物師・石工など、ふいごを使う仕事にたずさわる人々がお祭りをします。その時、家の前で子どもたちにみかんを投げて拾わせる風習がありました。また、稲荷社でもみかんまきが行われたといわれます。これらのことからすでに大量のみかんが江戸へ出荷されていたことがわかります。有田や高土のみかん商人は、この行事にあわせて江戸へみかんを送りました。

紀州蜜柑伝来記（和歌山県立図書館蔵）

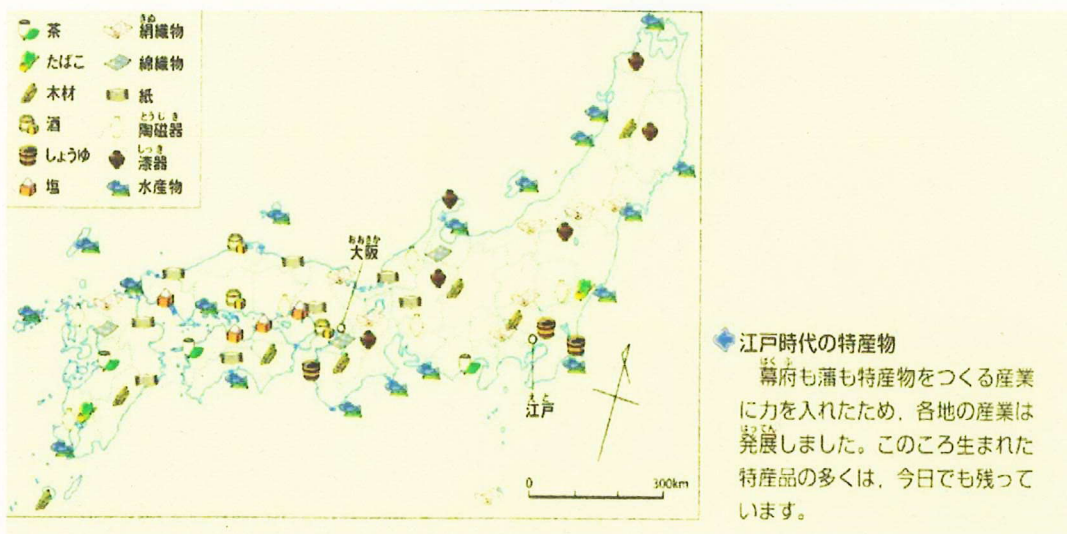
『紀州蜜柑伝来記』という記録に、有田みかんが江戸へ送られたのは、

1634（寛永11）年に瀧川原藤兵衛が400かご余りを送ったのが最初とあります。元禄年間になると25万～33万かごにもなり、正徳年間（1711～1716年）には30万～50万かごになったと記されています。



紀州有田みかんを江戸へ出荷する様子（資料2－2）

日本の産業（資料3）



出典 小学校社会科6年生 日本文教出版

江戸時代の農民の様子（資料4-1）



◀「農作しまい一日休み」

（資料4-2）

慶安の御触書（資料5）

農民へのおふれ書き（一部）

- 一 朝早くおきて草をかり，昼は田畑を耕し，夜はなわをない，^{たわう}俵をあみ，ゆだんなく仕事にはげめ。
- 一 酒や茶を買って飲んではならない。
- 一 農民は，先のことを考えず，秋になると米や雑こくをおしげもなく家族に食べさせてしまう。食べ物をたいせつにし，雑こくだけを食べるようにせよ。
- 一 着物には，^{あは}麻や^{ちゆん}木綿を使うようにし，^{きぬ}絹織物を用いてはならない。

紀州藩 参勤交代の様子（資料6）



（巻頭・京橋）



（御駕籠）

59

徳川齊順帰国行列図 秋香軒筆 1巻
紙本着色
縦24.7cm 全長2699.9cm
江戸時代後期 天保15年(1844)
田中敬忠コレクション

徳川齊順(1801~46)は、11代將軍徳川家斉(1773~1841)の7男で、文化13年(1816)に紀伊徳川家10代藩主徳川治宝(1771~1853)の養子となり、文政7年(1824)に治宝の隠居により、11代藩主となった。本品は、齊順が江戸から紀州に帰国する際、和歌山城下の京橋から本町御門までの行列の様子を描いた作品である。筆者の秋香軒とは、城下・駿河丁系渾の隠居であるとされるが、詳細は不明。なお、本品には南葵文庫の蔵書印が捺されており、紀伊徳川家旧蔵品であることが分かる。

[illegible]

東海道沿いの茶店（資料9）



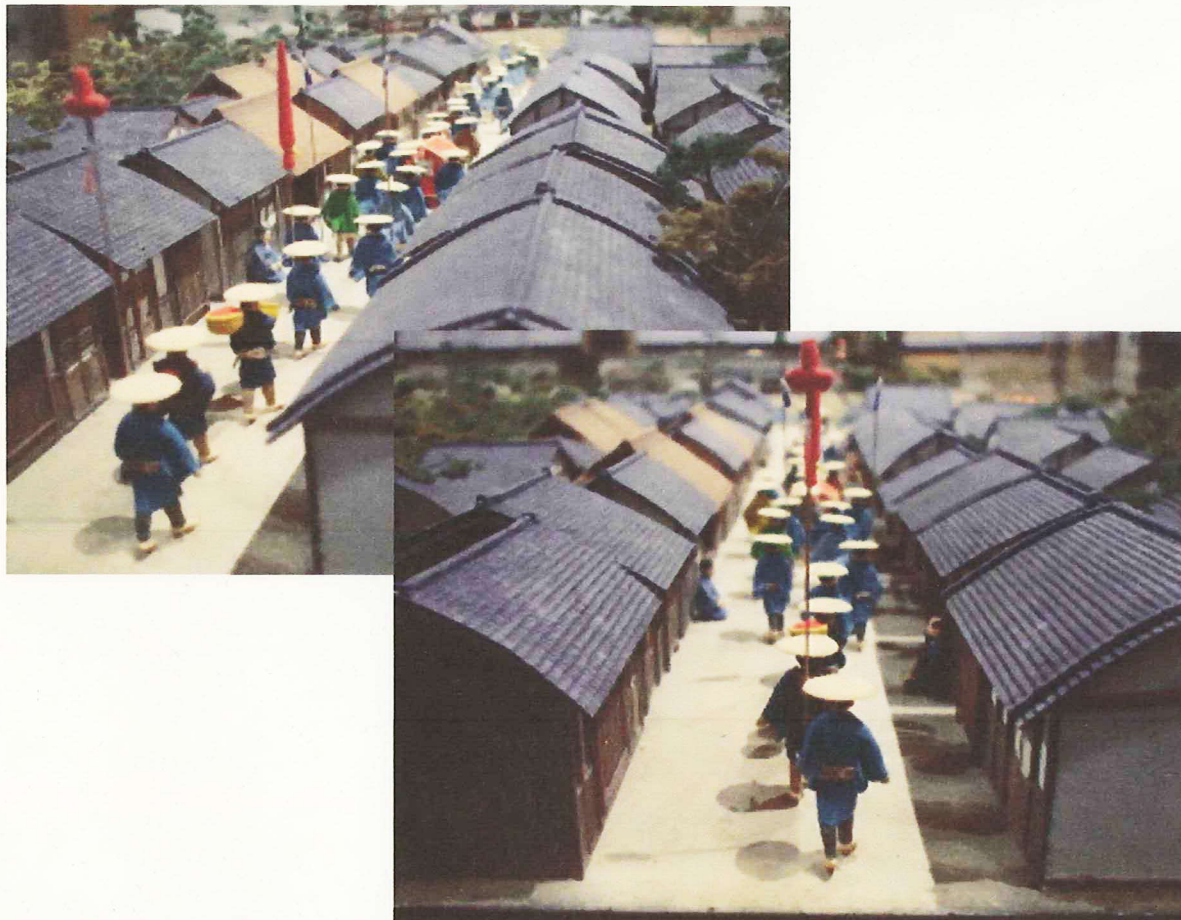
宿場町（資料10-1）



現在の宿場町（枚方宿）の様子（資料10-2）



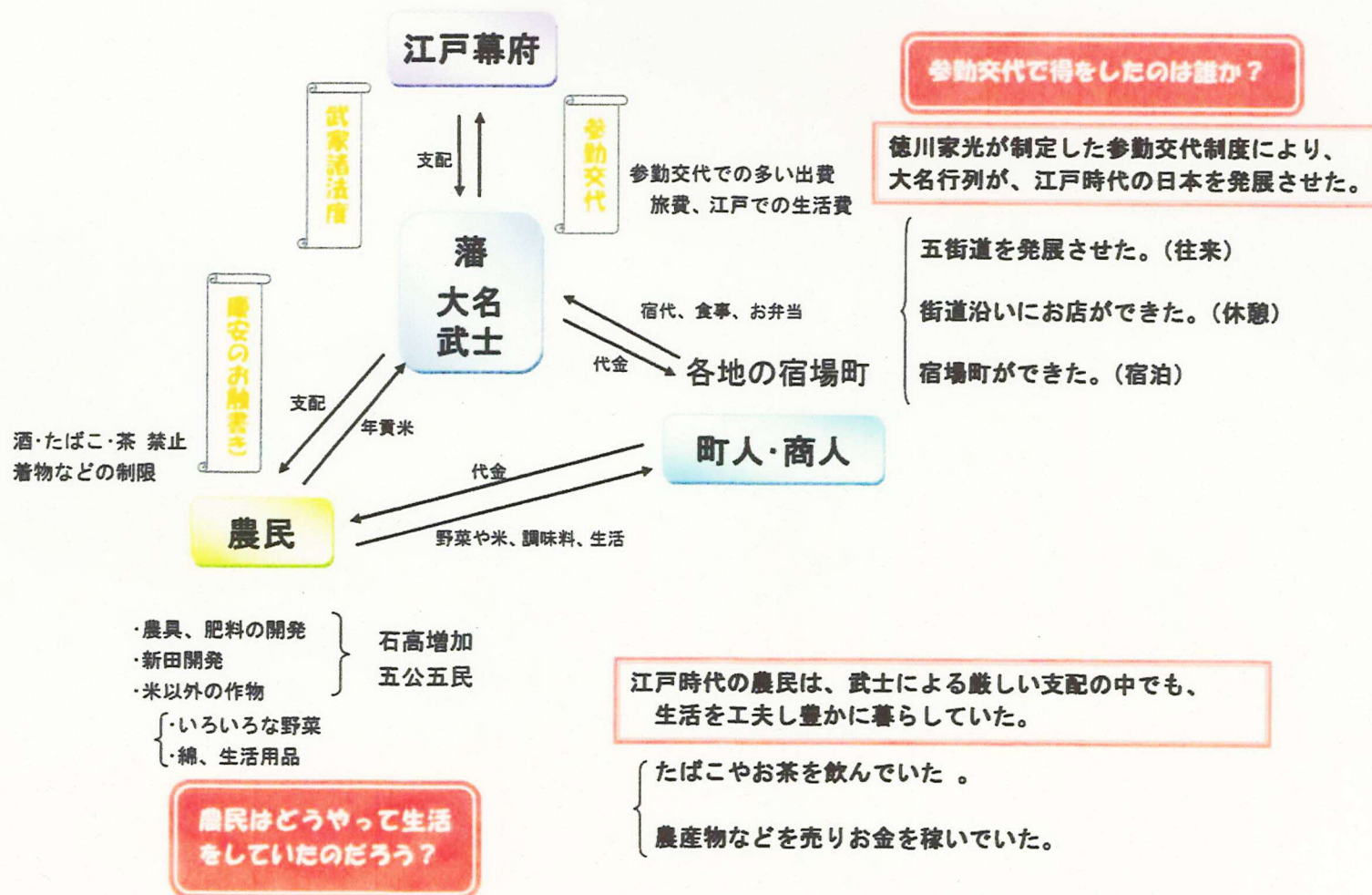
宿場町（枚方宿）に大名行列が入ってきた様子（模型）



これは、文政13年（1830年）紀州藩の大名行列が枚方宿に宿泊した時の夕食を復元したもの。



（ご飯、ほうれん草のひたし、たけのこ、わらび、くわい、ふきの煮物、はまぐり汁
焼き魚あんかけ ）



〈授業録1〉

「江戸時代」ってどんな時代だったのだろう？

ーあまり知られていない江戸時代の人々の様子ー

授業記録

1 時間目

T：二学期から江戸時代について学習しましたね。江戸時代の武士って、みんなはどんなイメージを持った？

C：怖い

C：刀を持っていて偉そう

T：こんなイメージかな？（刀を持った武士の絵を黒板に貼る）

C：そんな感じ！

T：じゃあ町人は？

C：裕福で自由。楽しそう

T：こんな感じ？（笑って商売をしている商人の絵を黒板に貼る）

C：そうそう

T：そもそも、商人ってどんな人なの？

なかなか答えられない

T：職人は？

C：いろいろ作ったりする人

T：例えば？

C：大工さんとか？

T：そうだね

C：あとは、んーやっぱりなんか作ったりする人。包丁とか、刀

T：まあ、簡単に言うといろいろ作ったりする人だね、生活用品とか。

T：じゃあ農民は？

C：しんどい。

C：年貢を納める、貧しい。

T：こんな感じ？（農民の絵を黒板に貼る）

C：ほんまに貧しそう。

T：でも、ほんとに農民は貧しかったの？武士には支配されてはいたけど、武士の言ったことを全部守ってたの？もしみんなが江戸時代の農民なら、武士は偉そうだし、町人は楽しそうで、農民のみんなは、どんな気持ち？

C：嫌や。（その他何人かが農民が嫌という意味のことを口々に言う）

T：このクラスは〇〇（担任の姓）藩です。〇〇先生が大名（殿様）です。

C：嫌やー、僕が殿様！

C：〇〇藩やからしかたないやろ

T : じゃあ武士になりたい人 !

(10人ぐらいが手を挙げる)

T : 多すぎやん? このクラスは30人やから武士って何人ぐらい?

C : 2人ぐらいかな?

T : そうだね。町人になりたい人 !

(8人手をあげる)

T : 町人も多すぎない?

T : じゃあ農民ってこのクラスなら何人ぐらい? 江戸時代の農民の割合ってどれぐらいだった?

C : 8割ぐらいだったから 30×0.8 で24人かあ?

T : このクラスのほとんどが農民だったんだね。

T : じゃあみんなこんな暮らししたい? (黒板の農民の絵を指して)

C : いややあ

T : みんなで大名や武士をやっつけたらいいんじゃない?

C : 武器ないし。

C : 武器なくても、鍬や釜とか棒でもいいんじゃない?

T : 24人もいるんやから勝てるんじゃない?

C : 一揆とかする!

T : そうだね、あまり厳しく取り締まられると不満がたまり、一揆も起こってましたね。

じゃあもう少し農民の生活について勉強しましょう

T : 先生が読むから一緒に目で追って行ってね

(読み物)

江戸時代は、今で言う都道府県のように、藩で地域が分けられていました。その藩で一番位(くらい)の高い人がお殿様と呼ばれ、武士はお殿様に仕えていました。江戸時代には300もの藩があり、その藩の中でも、お米が1万石以上採れる藩のお殿様のことを大名と呼びました。

江戸時代は、さっきこのクラスで分けたように、武士、農民(百姓)、町人(商人、職人)と身分が分けられていました。

それぞれの身分の人々はどんな生活をしていたのでしょうか?

○×で答えてください。

武士について

武士はどうやって生活をしていたのだと思いますか?

1. 農民から徴収した年貢米を売って贅沢な生活をしていた。
2. 給料をもらって生活をしていた。
3. 寺子屋などで子どもたちに勉強を教えて生活していた。
4. 現在の警察の役割をしていた。

T : つけた？

C : どれかなあ

T : じゃあ答え

実は武士の多くは大名から給料をもらって生活していました。武士は現在の警察のような仕事をしたり、税（年貢米など）の徴収、藩の警備や、道を整備したりし、藩の中での仕事をしていました。給料の少ない下級武士は、生活が苦しいので、寺子屋でこどもたちに勉強を教えたりしてお金を稼いでいました。

農民から納められた年貢米は藩のもので、武士のものではありません。武士の中で年貢米を取り立てる仕事をする武士が年貢米を集めるだけでした。集められた年貢米を藩が商人などに売り、そこで得られたお金を参勤交代の費用に使ったり武士に給料として支払っていたのです。

C : ふーん、そうなんや

C : サラリーマンみたいや

T : 農民の暮らしはどうだったのだろう？

農民は年貢を納めなくてはなりませんでした。五公五民という年貢率で、収穫した半分のお米を年貢米として納めていました。例えば 1000 kg のお米の収穫があっても半分の 500 kg を年貢米として藩に納めなければなりませんでした。

現在、お米の重さの単位は、キログラムです。しかし、江戸時代は石（こく）というお米の重さの単位で計算されていました。1 石は約 150 キログラムです。また 1 石は一年間に人ひとりが食べるお米の量になります。

1 石 = 150kg = 人ひとりが一年間に食べるお米の量

T : 和歌山って昔なんて呼ばれてたか知ってる？知ってる人！（四、五人が手を挙げる）

現在のみんなが住んでいる和歌山県は紀州藩と呼ばれていました。徳川御三家の一つとして栄えました。他の大名よりも位が上でした。

紀州藩はお米の収穫量は、年間約 55 万石で 50 万人ほど住んでいました。当時、農民の人口は全体の約 8 割なので 40 万人の農民が紀州藩で住んでいました。五公五民の年貢率で年貢として採れるお米の半分の約 27 万石が藩に納められていました。残った 27 万石を 40 万人の農民が食べて暮らしていました。

（少し時間をおいて）

T : 何かおかしいなと感じるところ、疑問に思うところはないですか？

C : なになに？

T : よく読んでみて

（少し時間があく）

C：農民が40万人でお米が27万石しかないから、暮らしていけへんのちゃう？
C：どういうこと？
C：お米たりへんのかと思って。
C：あっ！ほんまや
C：どういう意味？
C：一年間にひと一人が1石食べるから、40万人いるから足りへん
C：あーそっかあ
T：みんな分かる？お米が足りないってことが。
T：じゃあやっぱり紀州藩の農民って貧しい生活してたん？
C：貧しい生活やったしなあ。
C：うーん、そうなのかな？
T：じゃあこのクラスのほとんどがお米も食べられずに貧しい生活してたってことやな、
一揆しまくりじゃない？
(時間があく)
T：農民って米しか作ってなかったの？授業で習わなかった？
C：あっ、野菜とか特産品！
T：そうやね、みんな習ったやろ？
C：習った？
C：習ったやん。

T：和歌山ってなにが有名？
C：梅
C：鯨
C：みかん
T：そうやね、次のページ見て
(紀州の産業の資料を見せる。)
いろいろな特産品があるよね。
特に和歌山はミカンが有名でやね。農民はお米以外にミカンを作っている地域もあったね。そのミカンを食べて生活してた？
C：うん、してた。
C：ミカンとご飯ってあわんやろー。
T：自分が食べる分以外にどうしてたの？
C：売った？
T：そう、売るために作ってたんよ。特に有田みかんって有名よな。昔有田地方では江戸にミカンを出荷してたんよ。
T：次のページ見て。(みかんの出荷の様子) これ全部みかんやで。

(江戸への出荷の資料をじっと見ている)

T : じゃあ売ったら何が手に入る？

C : お金。

T : そう、農民は、お米以外にも野菜や特産品を作って商人に売ってお金を稼いでいたんやね。そうやって、お米が足りない分、工夫して生活していたんよ。

C : そっか〜。お金稼いでたんや。

T : そのほかにも色々なもの作って、売りお金を稼いでいました。

象徴事例 1 - (a)

江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) 農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた(eg)

T : じゃあ次の絵を見てください。(農民の田畑の仕事の絵と休日の絵)

T : 気づいたことを発表して。

C : たばこ吸ってる

C : 鶏がいる。

T : これは、闘鶏といって鶏同志戦わせているんだよ。

C : 腕相撲してる。

T : 他にない？左上の3人の男の人は？

C : なんか飲んでる。

C : お酒飲んでる？

T : そうだねー。

象徴事例 1 - (b)

江戸時代の農民は、(武士による厳しい支配の中でも、) たばこやお茶、お酒を飲んでいた(eg)

T : もうない？

(考えている)

T : じゃあなんか変なところない？

(考えている)

C : ないー。

T : 農民って、たばこやお酒を飲んでよかったんやっけ？

C : いいんちゃう？

C : あっ、御触書で禁止されてるやん。

T : でもお酒飲んでるしタバコも吸ってる。なんでかな？

C : . . .

T：でもさあ、みんなも江戸時代の農民だったとしてお金を稼いで余裕があったら、たばこや、お酒を買って飲まへん？

C：ゲーム買う！

T：江戸時代やって。ゲームはないなー

T：例えば、なんで「廊下を走らない」、「トイレのスリッパをそろえる」とか掲示されてるの？

C：走る子がいるから

T：そう、走る子がいるからやん。だから農民に対して御触書がだされたんだね。でも、なぜ御触書を出す必要があったの？

C：田畑の仕事中にたばこ吸ったりして、さぼってるからじゃない？

T：農民がさぼってお米の取れ高が少なくなって一番困るのは誰だろう？
(考えている)

C：武士や！

C：給料減るかもしれんからな。

T：農民は、米以外の特産物や野菜を作ってお金を稼いだ方が得なんかな？

C：お金あった方が色々な物買えるし。

T：そやね、だから御触書がだされたんやね。

農民がたばこやお酒を飲んでるってことは、それだけ生活に余裕があったということですね。だから、休日もあるし、休日には腕相撲したり、鶏が戦うのを見たり、お酒を飲んだり、できたんやね。

農民は武士からの支配は厳しかったかもしれないけど、お酒も飲んでたしたばこも吸ってたし、休みもあって、生活を工夫して豊かにくらしていたんやね。

命題1 (ru)

江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

T：わかった？じゃあこれで終わりー

〈授業録2〉

2時間目

T：昨日はどんなことを習った？

C：農民は貧しいだけの生活と思っていたけど、お酒やたばこを買ったり休みもあってそんなに厳しくなかったって事。

C：武士の方が、しんどかったんじゃない

T：そうかもしれないね。

T：じゃあ、今日は、大名や参勤交代について勉強します。

T：みんな参勤交代って知ってる？

沈黙

T：えっ、知らんの？

C：江戸幕府が大名に1年に一回、江戸に来させて、忠誠を誓わせて将軍を守る。

T：うん、ちょっと違うけど、だいたいあってるかな

T：他にない？

沈黙

T：あれ？習ってない？

C：詳しくは習ってない。

T：さらっと流れていった？

C：参勤交代がでてきた、それだけ～

C：ちゃんとノートにも書いたって。

T：参勤交代制度って言うのは江戸幕府が大名を治めるために2年に一回江戸に来るように命じて、1年間は江戸に住まわせる制度です。

なんでこんな事をしたんですか？

C：参勤交代で、宿泊費とかでお金をジャンジャン使わせて大名を貧乏にさせる。

T：そうだね、参勤交代ってお金がすごくかかりました。紀州藩の参勤交代の大名行列って何人ぐらいいたと思う？

C：260人ぐらい。

C：500ぐらい。1000かなあ

その他予想が発表される。

参勤交代の資料を配る。

T：参勤交代の様子を書いてる図を見てください。(参勤交代の一部分の図)

T：参勤交代の大名行列の人数は江戸幕府により決められています。藩の大きさによって、その大きさというのは、お米の取れ高によって決められていました。だから10万石なら何人って決まってきました。紀州藩は何万石だった？

C：55万石

T：そうだね。55万石っていったら、全国で約300ぐらいの藩があるやけど、全国で

だいたい5位ぐらいでした。

C：すごーい

T：紀州藩は徳川御三家だったことは昨日言ったよね。だいたい何人ぐらい？予想できない？

C：3000人？

T：おー、すごい、正解！だいたい3000人ぐらいでした。

T：この巻物、15メートルぐらいあるんよ。（紀州藩の参勤交代の巻物を広げる）

C：廊下まで出たら？

C：いける？

C：真ん中誰か持て

C：ながーい

T：紀州藩は3000人で1位2位を争うぐらいの人数だったんです。

C：すごーい

T：お殿様いる？

C：そこや、なんか豪華なかごみたいなのが描いてる。

T：で、この長い行列が、和歌山城から江戸、東京まで歩いていくんやんか。さて、何日かかるでしょうか？

C：2年

T：まてまて、二年に一回江戸にいかなあかんの、二年かかってたらどうすんねん。

C：ははははあ

T：六ヶ月ぐらい？

T：今やったら？

C：3時間

T：それぐらいかな、飛行機や新幹線あるし。

C：半年、2ヶ月など多数の発言

C：15日

T：そう、だいたい15日ぐらいです。15日間この3000人の行列が歩くんや。もちろん泊まったりするんやけど。江戸まで何キロ？

C：多数の発言

T：だいたい600から700キロあるんよ。じゃあ1日にどれだけ歩かなあかんの？

C：6キロ

T：なんでやねん

T：600キロにしようか、600キロを15日間だと1日？

C：40キロ

T：1日40キロ歩ける？

テレビ番組のチャリティーマラソンの話題がでる。

C：歩けやーん

T：1日に40キロってむちゃくちゃ早いスピードなんよ。しかも荷物持ったり、かごを持ったりしてるしね。1日って言っても24時間じゃないやん。昔やから電気もないから朝お日様が出て日が暮れるまで12時間ぐらいで40キロ、それを15日間。ゆっくり行った方が楽やん？なんで早く行くん？

C：疲れるなあ

C：旅行費かかるー

T：そう！旅費かかるから。それにずっと歩くからっていうか小走りってかんじやから疲れるから休憩もするよね。次のページ見て（街道にある宿場町の資料）。

下が和歌山の紀州藩の旅行日程です。たくさんあるけど、このうち15泊するんよ。見ていくと、船戸、岩出、橋本などあります。これ全部泊まるわけじゃなくてある程度行ってその近く、日暮れになったら泊まるという繰り返しで上の地図の江戸まで行きます。

でもね、さっきも言ったように、早くいかなあかんからって、一日中12時間あるいてられへんやん。道も整備されてないと歩きづらいし。昨日の授業でも五街道ができたって言ったの覚えてる？で、大名行列が歩くことによって五街道や各地の街道が整備されていったんよ。ぼこぼこの道なら歩きにくいし、3000人も歩くしね。で、道が整備されていきました。（五街道が整備された）

象徴事例2－(a)

（徳川家光が制定した参勤交代制度により、）大名行列が五街道を整備させた。（往来）

もう一つ、ずーっと歩いて疲れてきたら何する？

C：休憩

T：そうやね、だから街道沿いに茶店も多くできました。（街道沿いに茶店ができた 掲示）

象徴事例2－(b)

（徳川家光が制定した参勤交代制度により、）大名行列が街道沿いの茶店を作った（休憩）

T：じゃあ暗くなったらどうするの？

C：宿に泊まる。

T：宿に泊まるよなあ、そこに○付いてるとこあるやろ？○付いてどこどこって書いてる、それが宿場町。これ泊まるこ。みんなも修学旅行で泊まったやん。紀州藩は3000人で泊まった。それが次のページ、まず茶店の絵（東海道五十三次の茶店）こんなところで休憩しています。次のページは宿場町（宿場町の図）その下が現在の宿場町の様子です。枚方の宿場町。知ってる？よく宣伝でやってるひらパーのあるところ。紀州藩のお殿様や大名行列の武士は、今でも残っている、こういうところに3000人泊まりました。それが15泊。

次のページは、紀州藩の大名行列が枚方の宿場町に入ってきたときの模型。武士は、プライドが高いから、宿場町から宿場町とかあまり人がいないときは、行列が乱れても早く歩いたの。早く行かないと泊まる日数が増えてお金がかかるやん。でも人が多い宿場町などでは、優雅にゆっくり歩いていたそうです。だからこの模型は、ちゃんと整列されているけど、だれも見えてないところでは必死で小走りー。

そして、その下の図は、枚方の宿場町に泊まったときの夕食の復元図。

T：ご飯、ほうれん草のひたし、たけのこ、わらび、くわい、ふきの煮物、はまぐり汁
焼き魚あんかけ ってあります。みんなどう思う？

C：おいしそうー

C：そうでもないやん。

T：で、3000人がこの料理をたべるわけです。

T：みんな修学旅行で1泊していくら払ったと思う？

C：一万円？

T：7000円ぐらいかかってる。みんな修学旅行の集金で、1万5,6千円払ってると
思うんやけど、そのうち交通費とか見学科もある。宿泊料と食事代で7～8千円ぐらい。
〇〇小学校みんなで修学旅行に行ったら…、計算しやすくしたいから、さっき言ってくれ
たように1万円にしよう、計算したら、1泊するだけでいくらかかる？

C：100万円ぐらい

T：そうやな、だいたい100万円ぐらいやな。100人で100万。3000人なら

C：3000万、すごい。

T：しかも1泊じゃない。3000万×15泊。いくらかかる？だから1泊でも少なくす
るために大名行列は早く歩く、もしくは小走りかも。

T：でも、1泊3000万円使うって事は、宿場町は？

C：めっちゃ儲かる！

T：和歌山の大名行列だけで3000人やで。それが一番大きい行列としても、他に20
00人とか1000人の大名行列とか、ほかに300もの藩が大名行列してる。みん
な各地の宿場町に泊まる。そうすると各地の宿場町が繁栄する。儲かるってこと。

C：さらに儲かるなあ

T：そやなー。

象徴事例2－(c)

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、) 大名行列が宿場町を繁栄させた

T：でも、宿場町の人も、3000人の食事の材料どこで買う？宿場町の人がどっかから
とってくる？作ってんの？

(考えている)

C：あっ！農民達が作ってるのを買いに行く？

C : 売るって言ってたし。

T : そう、農民から直接買っていることもあったらうけど、商人から買っています。商人が農民などから材料を買って集めてきます。それを宿場町に売ります。宿場町は野菜や魚、料理の調味料などを商人から買います。だから宿場町が繁栄すると、商人も儲かる。商人は農民などから材料を買うから、農民も儲かる。儲かるってことはお金を稼ぐ。前の時間、農民は野菜や特産物を売ってお金を稼いでいたって習ったの覚えてるよね。

じゃあ、農民は稼いだお金でどうしたんやっけ？

C : お酒買ったりした。

C : たばこ

C : 米

T : 足らんかったら買ったかもな。

T : 農民が野菜や特産品ばかり作ってお金を得て、お米をあまり作らなくなったら、武士の年貢の徴収する量が少なくなって武士や藩が困る。だから慶安の御触書が出された。

T : 黒板の図見て。大名行列があるから、五街道が整備されたやろ、街道沿いに茶店ができ、宿場町が繁栄して、商人が儲かって、農民もお金を稼ぐことができた。農民も稼いだお金で豊かに暮らしていた。わかる？

参勤交代があったから日本の経済が発展していった。

命題2 (ru)

(徳川家光が制定した参勤交代制度により、)

大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

T : 経済が発展するってわかる？簡単にいうとみんなが儲かるってこと。

江戸時代は、8割が農民だったよね。そんな多くの人が苦しくて貧しい生活してたっておかしいよね。それこそ、あっちこっちで一揆が起こるんじゃない？

江戸時代の農民はみんな貧しくて苦しい生活してたわけじゃなく結構豊かに暮らしていたんよ。最後の資料見て。江戸時代には身分制度はあったけどいろいろな身分の人との関係があって社会がなりたってたんだよ。

T : 江戸時代の社会の構図、様子わかってくれたかな？

先生の授業終わりー

2. 参勤交代制度により江戸時代の日本はどうか変わったと思いますか

問3 自分が思うところに○を付けてください。

1. 給料の少ない下級武士は、生活のためにいろいろな仕事をして生活していた。

生活していた

たぶんしていた

わからない

たぶんしていない

していない

2. 江戸時代の農民は、厳しい年貢の取り立てや、慶安の御触書に書かれていることに、逆らったり、反抗したりできなかった。

できなかった

たぶんできなかった

わからない

たぶんできた

できた

3. 江戸時代の農民は、休日や長期の休みなどがあった。

あったと思う

たぶんあったと思う

わからない

たぶんないと思う

ないと思う

4. 江戸時代の農民は、たばこを吸ったり、お酒やお茶を飲んでいて。

そうしていたと思う

たぶんそうしていたと思う

わからない

たぶんしていなかったと思う。

していなかったと思う

5. 江戸時代の農民の中には、いろいろな商売を始めお金持ちになる農民もいた。

いたと思う。

多分いたと思う

わからない

多分いないと思う

いないと思う。

6. 宿場町が忙しいときは近くの農民が手伝いに行った。

行ったと思う

たぶん行ったと思う

わからない

たぶん行かなかったと思う

行かなかったと思う

7. 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

豊かに暮らしていた

たぶん豊かに暮らしていた

わからない

たぶん豊かではない

豊かではない

8. 商人や町人は、大名や武士、他の町人や農民に商品を売り、お金を儲け、大名よりも力をつける商人がいた。

いた

たぶんいた

わからない

たぶんいない

いない

9. 江戸時代の農民は、参勤交代制度の大名行列のおかげで豊かな生活ができたと思う

思う

少し思う

わからない

あまり思わない

思わない

10. 参勤交代制度により五街道や各地の街道が整備され日本の物資の流通が便利になった。

なったと思う

たぶんなったと思う

わからない

たぶんならなかったと思う

ならなかったと思う。

1 1. 徳川家光が制定した参勤交代制度の大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

そうだと思う

たぶんそうだ

わからない

たぶんそうではない

そうではないと思う

問2. 2時間の授業を受けて、あてはまる番号に○をつけましょう。

1. 歴史に興味をもった。

1. とても持った

2. もった

3. どちらでもない

4. あまり持たなかった

5. 持たなかった

2. 学校で習った歴史の背景を自分で調べようと思う

1. 思う

2. まあまあ思う

3. どちらでもない

4. あまり思わない

5. 思わない

3. テストがなければ歴史は学びたくないと思う

1. 思う

2. まあまあ思う

3. どちらでもない

4. あまり思わない

5. 思わない

4. なぜ、事件が起こったのかもっと詳しく知りたいと思う

1. 思う

2. まあまあ思う

3. どちらでもない

4. あまり思わない

5. 思わない

5. 歴史上の人物の生涯（生まれてから死ぬまで）を知るために伝記（本）などを読もうと思う

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

6. 事件がその後の歴史にどういう影響を与えたのか知りたいと思う

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

7. 事件や制度は、その後の歴史に影響を与えていると思う。

1. 思う
2. まあまあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

8. 歴史は、理解すると言うより、そのまま暗記する科目だと思う。

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

9. 歴史の出来事どうしのつながりを理解することが大切だと思う。

1. 思う
2. まあ思う
3. どちらでもない
4. あまり思わない
5. 思わない

10. 歴史を勉強するのは、おもしろい。

1. とてもおもしろかった
2. おもしろかった
3. どちらでもない
4. あまりおもしろくない
5. おもしろくない

問3.

2時間の授業を受けての感想を書いてください。

〈遅延調査表〉

下記の問題の当てはまるところに○をつけましょう。

問1 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、農産物や特産品などを売りお金を稼いでいた

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問2 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、たばこやお茶、お酒を飲んでいた

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問3 江戸時代の農民は、武士による厳しい支配の中でも、生活を工夫して豊かに暮らしていた。

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問4 大名行列が五街道を整備させた

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問5 大名行列が街道沿いの茶店を作った

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問6 大名行列が宿場町を繁栄させた

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問7 大名行列が江戸時代の日本経済を発展させた。

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

問8 大名行列が江戸時代の商人や農民にお金を稼がせ、豊かに生活できた。

1. 思う 2. まあ思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 思わない

VII. 参考文献

- ・伏見陽児（1986）「日本史年表の構成の違いが読み取りに及ぼす影響」茨城キリスト教短期大学研究紀要 26号 p37-44
- ・伏見陽児(1999)心理実験で語る授業づくりのヒント （株）北大路書房
- ・五街道と全宿場（資料7）
- ・Hanley Susan B（1990）江戸時代の遺産一庶民の生活文化 中央公論新社
- ・枚方市立枚方宿鍵屋資料館展示（資料10-2）
<http://www.kkg.jp/syukuba2.html>
- ・細谷純（1996）「教科学習の心理学」中央法規 p26
- ・細谷純(1970)問題可決 東洋(編) 講座心理学8 思考と言語 東京大学出版会 207-236
- ・伊藤博義（1993）『若者たちと法を学ぶ』有斐閣 p74-76
- ・工藤与志文（2001）歴史的事実の誤認識における「ラベリング効果」について 札幌学院大学人文学会紀要 70,51-61
- ・菊間まりこ（2009） 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊 17号-1
- ・近世農民生活史（1979）吉川圭三 （株）吉川弘文館 （資料4-2）
- ・麻柄啓一（1994）「法則学習における『検証』法の効果—帰納・演繹批判—」教育心理学研究第42刊 244-252
- ・麻柄啓一（1993）「誤った知識を修正しやすい説明文の条件について」読書科学37号 p34-41
- ・麻柄啓一、進藤聡彦（2008）「社会領域における学習者の不十分な認識とその修正 教育心理学からのアプローチ」東北大学出版会
- ・麻柄啓一・進藤聡彦（2004）「象徴事例」概念の提案と歴史学習に及ぼす象徴事例の効果の検討 教育心理学研究
- ・麻柄啓一・進藤聡彦（2006） 学習者の誤った知識をどう修正するか 東北大学出版会
- ・麻柄啓一・進藤聡彦（2006）学習に有効な象徴事例の条件に関する探索的研究—歴史に関する誤った考えの修正をめぐって—山梨大学人間科学部紀要 6,151-159
- ・麻柄啓一・進藤聡彦（2008） 社会領域における学習者の不十分な認識とその修正 教育心理学からのアプローチ 東北大学出版会
- ・『農業図絵』日本農書全集26 社団法人農山村文化協会 所収（資料4-1）
- ・西林克彦（1994）間違いだらけの学習論—なぜ勉強が身につかないか 新曜日社
- ・小学6年生社会（2012） 日本文教出版（資料3、5）
- ・進藤聡彦（1997）問題解決における使用ルールの優先性 山梨大学教育学部研究報告 47(1)156-164
- ・進藤聡彦（2002） 素朴理念の修正ストラテジー 風間書房
- ・東海道五十三次 歌川広重作（資料9、10-1）

- ・田丸敏高 (1988) 子どもの社会認識の発達 日本教育心理学会総会発表論文集 (30) 52-53
- ・高橋恵子、波田野誼余夫(1988)『金融制度』の理解における誤概念 日本教育心理学会 第30回総会発表論文集 p56-57
- ・宇野忍 (1995) 授業に学び授業を創る 教育心理学第2版 中央法規出版
- ・和歌山県ふるさと教育副読本 わかやま発見 (資料2-1)
http://www.wakayama-edc.big-u.jp/wakayama_hakken/pdf/section/02/03/142.pdf
- ・和歌山県立博物館 (常設展示図録) (1994) きのかにの歩み—人々の生活と文化— (資料1、2、6)
- ・和歌山県立博物館展示図 (資料7、8)
- ・吉川圭三 (1979) 「近世農民生活史」株式会社 吉川弘文館

謝辞

論文を書き終えるにあたり、様々な形でご協力くださった皆様に御礼を申し上げます。

指導教員の吉國秀人先生には、大学院入学以来2年間にわたり、私の思いや、考えを尊重してくださり、研究者として多くの助言を頂き、ご指導してくださいました。

また、コース長の渡邊隆信先生はじめ、コースの先生方には、多方面からの助言や御意見を頂き、研究を進める上で、大きな支えとなりました。ありがとうございました。

授業実践開発コースの吉水裕也先生には、指導案を作成するにあたり、大変貴重なご意見いただきありがとうございました。

最後になりましたが、本研究において、研究授業の場を快く快諾してくださった和歌山市立小倉小学校長先生はじめ東阪先生に心からの感謝を申し上げます。